

男女共同参画に関する意識調査 結果報告書

令和4年12月 茅野市（生涯学習課）

調査の概要

【調査の目的】

この調査は、茅野市男女共同参画基本条例」に基づき「第4次茅野市男女共同参画計画」を策定するにあたり、男女共同参画社会に関する意識や現状を把握することを目的としています。

【内容】

調査期間:令和4年2月10日(木)～2月28日(月)

調査対象:18歳以上の茅野市民2,000人を住民基本台帳から無作為抽出

主な調査内容

- ・男女共同参画に関する用語及び市事業の認知度
- ・男女共同参画に関する意識について
- ・家庭生活について
- ・男女の働き方や女性の社会進出について
- ・人権について
- ・男女共同参画を推進するための取組について

【アンケートの回収状況】

調査方法:郵送もしくはインターネットによる回収

回答数:644人(内訳男性288人 女性351人 その他・無回答5人)

回収率:32.2%

【集計について】

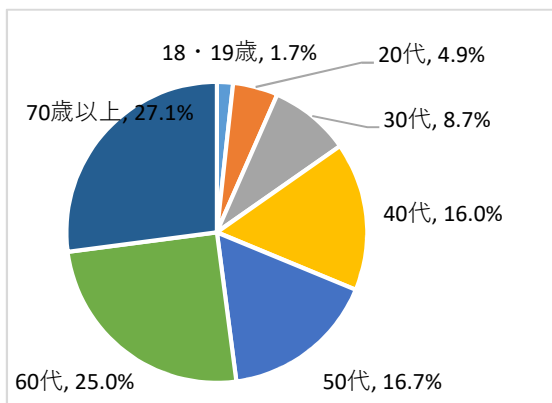
- (1)回答率は、小数点第2位を四捨五入して、小数点第1位までを表記した。このため、合計が100にならない場合がある。また、同様の理由で回答率の合計値に誤差が出る場合がある。
- (2)複数回答を求める設問では、割合を出す際は回答者数を分母とするため、百分率の合計が100%を超えることがある。

令和3年度茅野市男女共同参画に関する意識調査結果

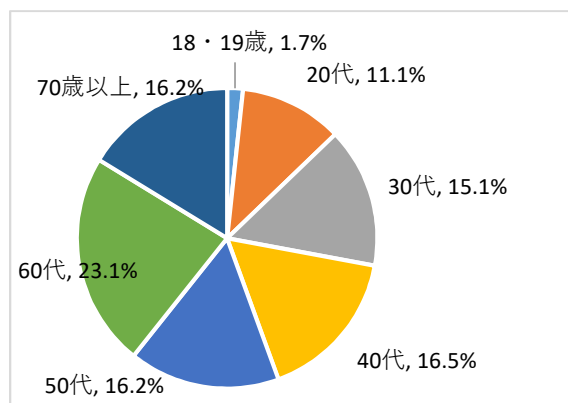
回答者における男女の割合はほぼ半数となり、性別による偏りはないものと考えられるが、女性の割合がやや高くなっている。年代別では、18・19歳及び20歳代の回答が少なく、年代が上がるにつれ多くなっている。特に、男性は、10代から30代の回答が少なく、60代から70歳以上の回答が半数を占めている。この調査においては、若い年代の傾向より、60代以上の傾向が多く反映していると思われる。

F1 年齢について

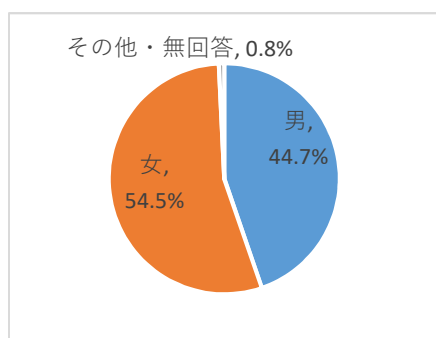
男性



女性



F2 回答者の性別



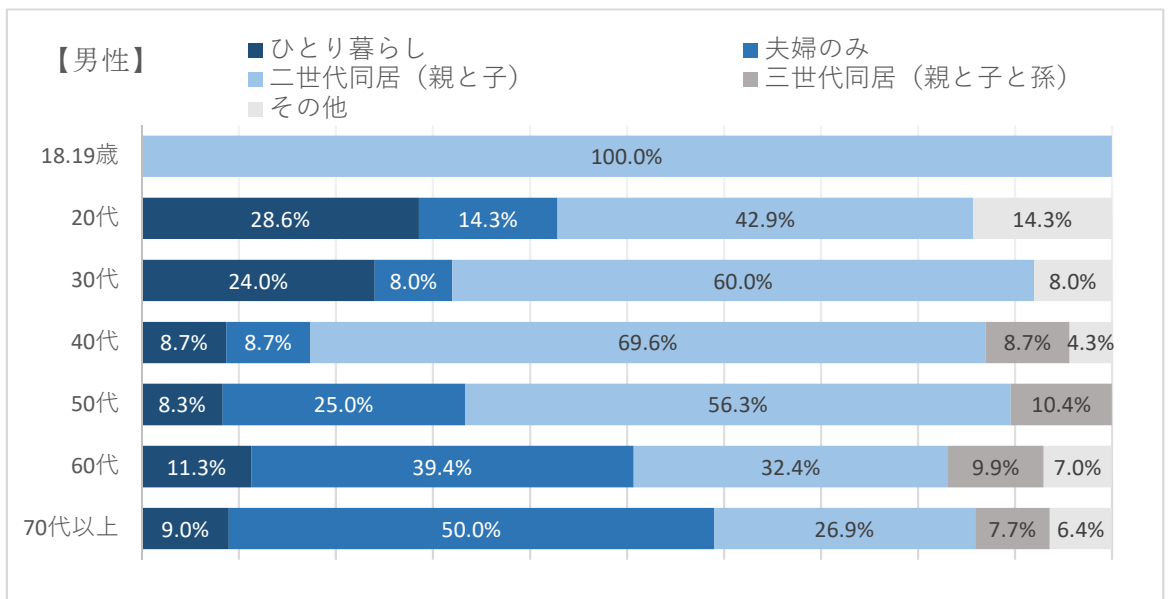
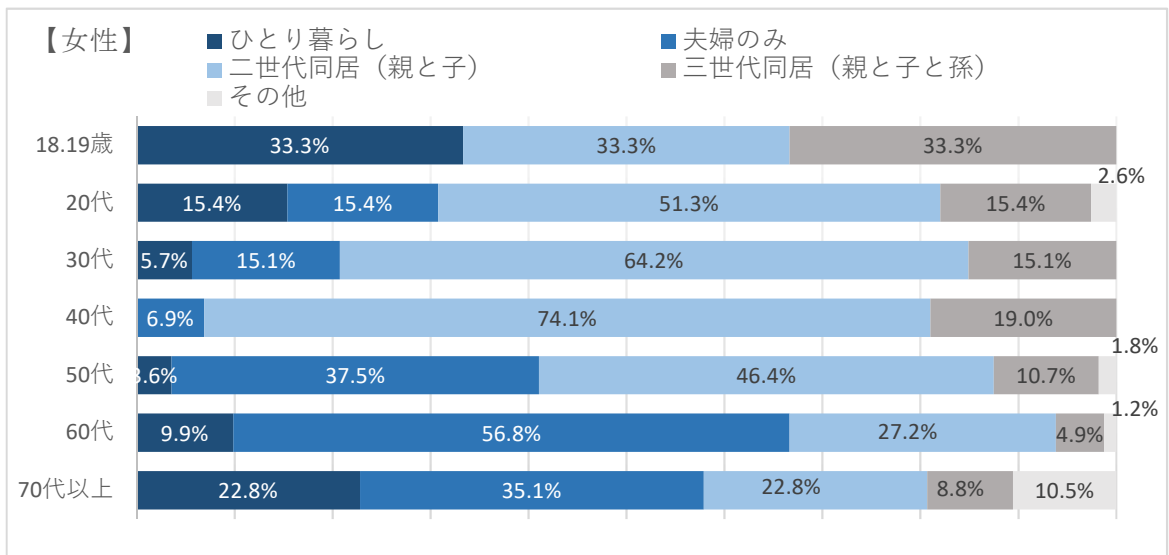
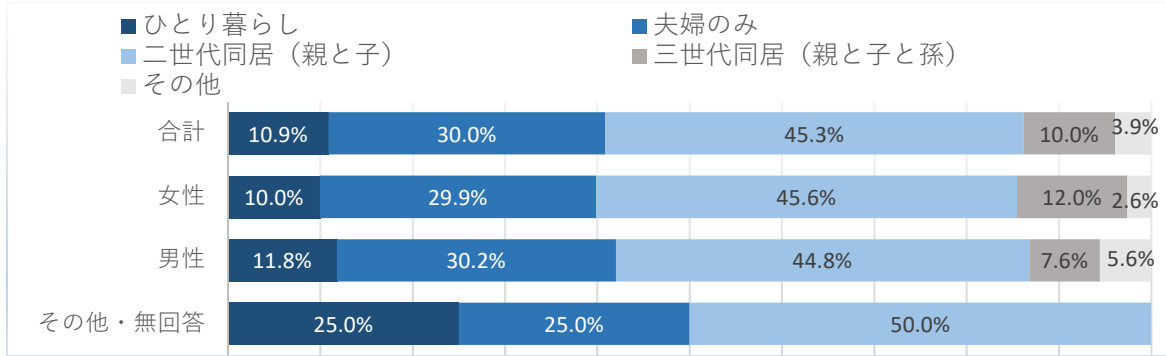
性別	回答者数	割合
男	288	44.7%
女	351	54.5%
その他・無回答	5	0.8%
総数	644	100.0%

年代別	男性		女性		その他・無回答	
	回答数	割合	回答数	割合	回答数	割合
18.19歳	5	1.7%	6	1.7%		
20代	14	4.9%	39	11.1%	1	20.0%
30代	25	8.7%	53	15.1%	1	20.0%
40代	46	16.0%	58	16.6%		
50代	48	16.7%	57	16.2%		
60代	72	25.0%	81	23.1%		
70歳以上	78	27.1%	57	16.2%	3	60.0%
総数	288	100.1%	351	100.0%	5	100.0%

F3 回答者の世帯構成

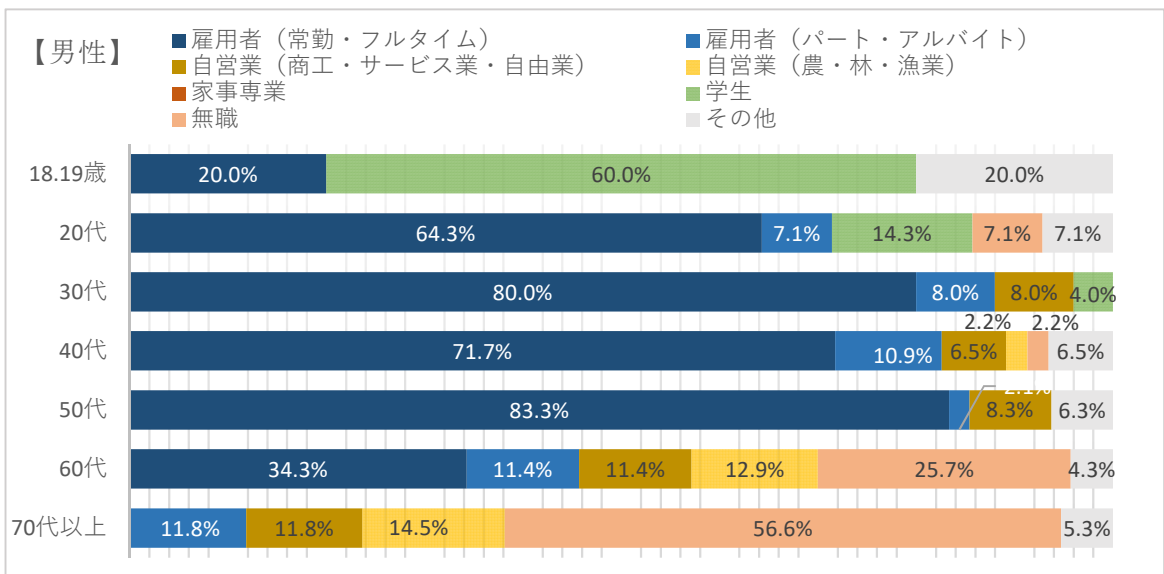
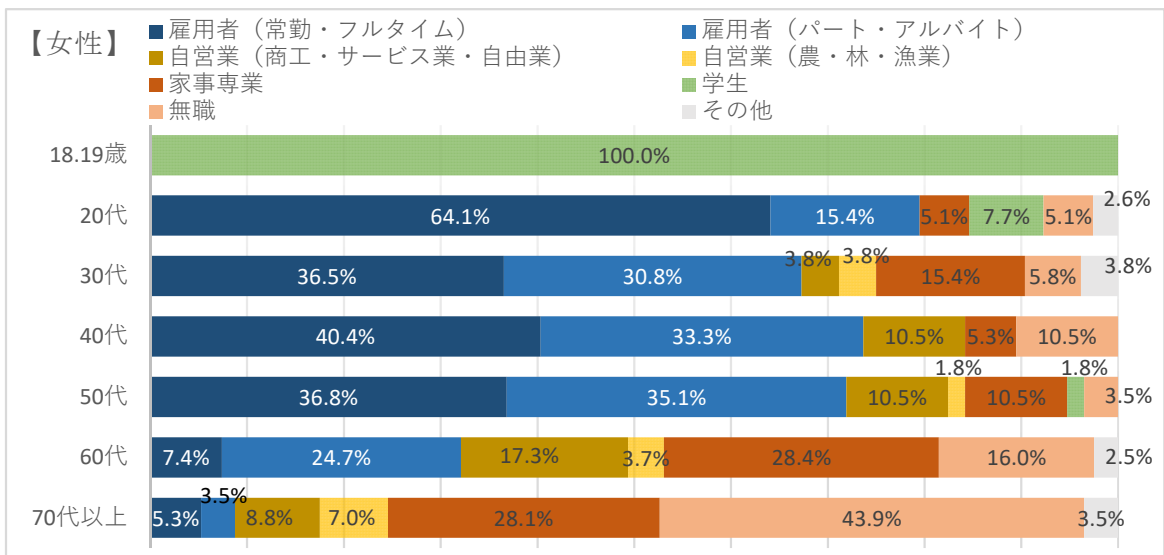
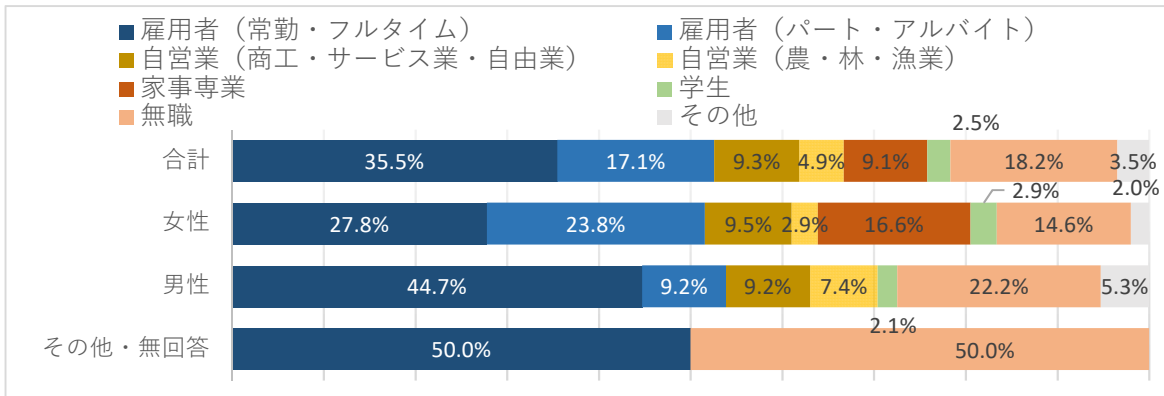
「二世帯同居」の割合が一番高くなっていて、次に「夫婦のみ」の世帯が多くなっている。「一人暮らし」と回答した割合は、全体で10.9%となった。

年代別では、「一人暮らし」、「夫婦のみ」の割合は、若い世代と50代以降の年代が高い割合となっている。



F4 就業の状態

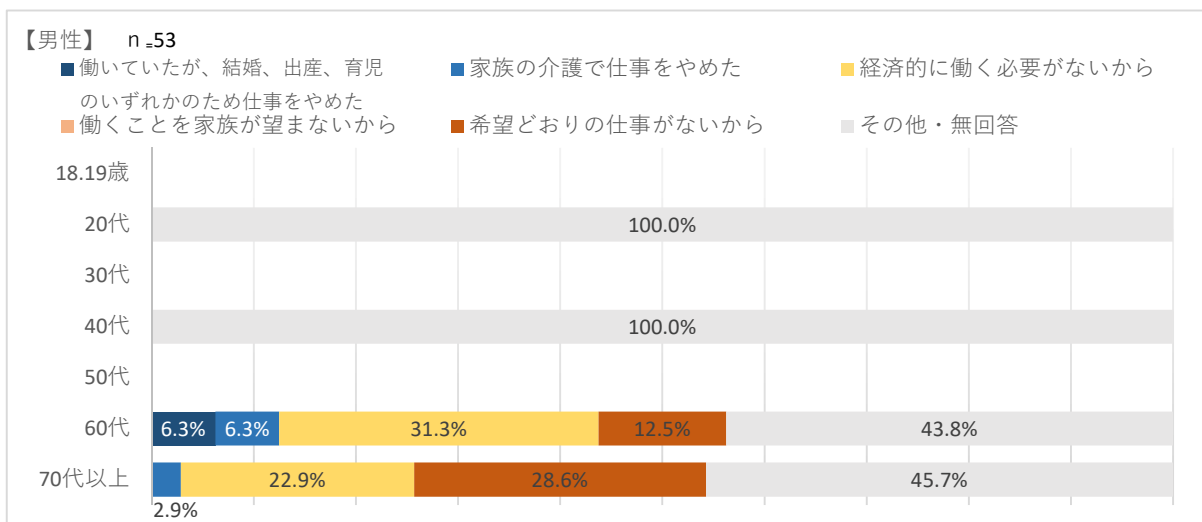
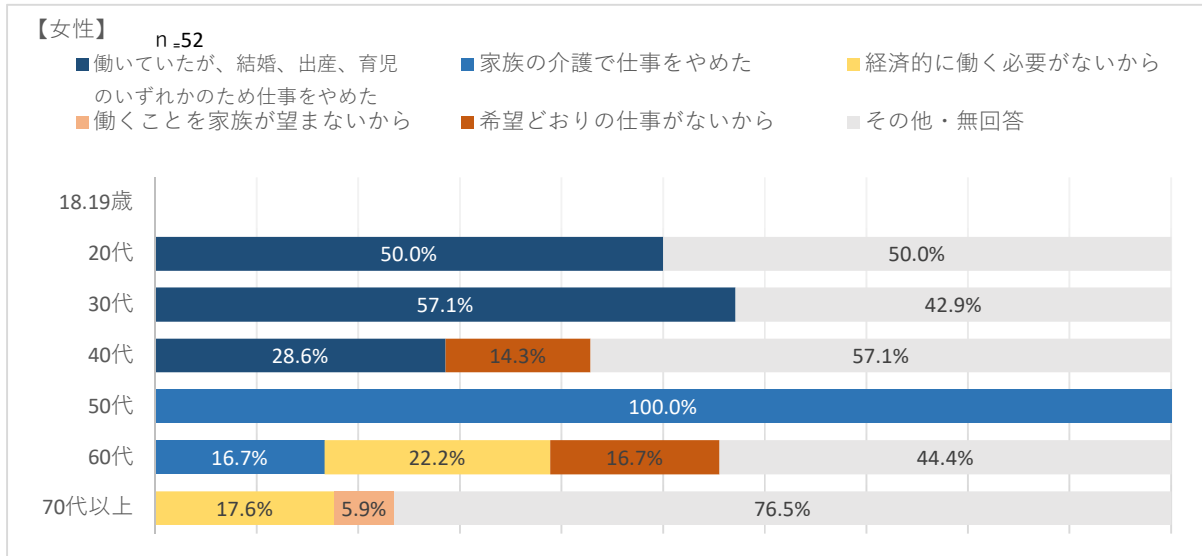
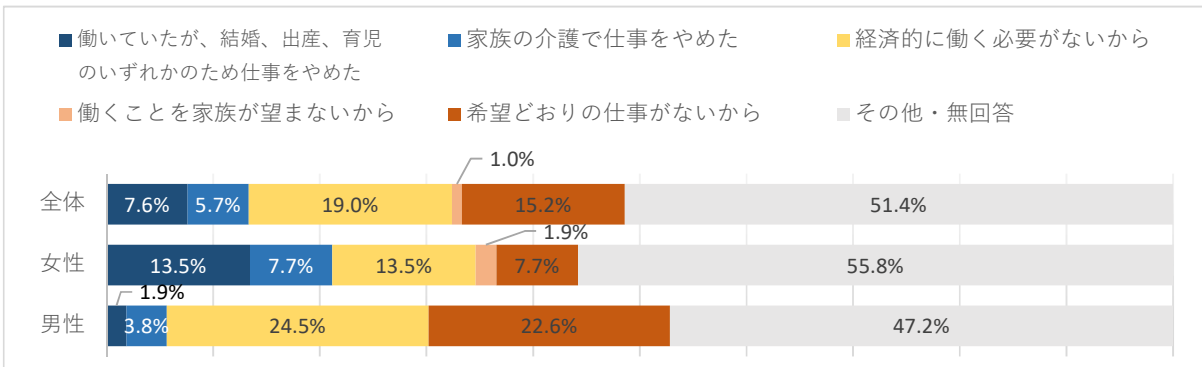
全体では、雇用者や自営業など働いている割合が高くなっている。
性別、年代別では、家事専業と回答したのは女性のみで特に30代と60代以降で高い割合となっている。



F5 現在無職の主な理由は何ですか。

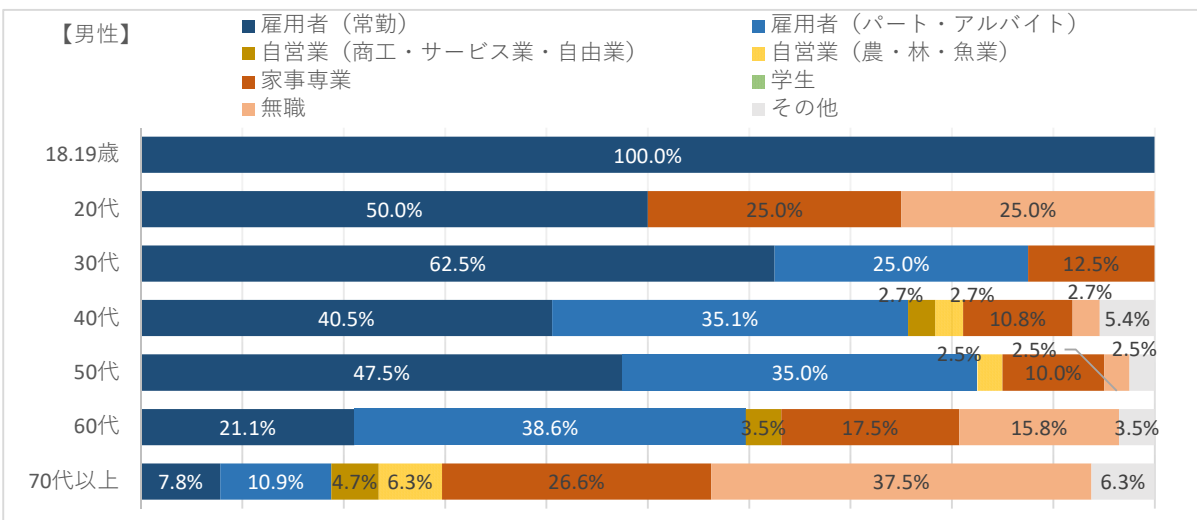
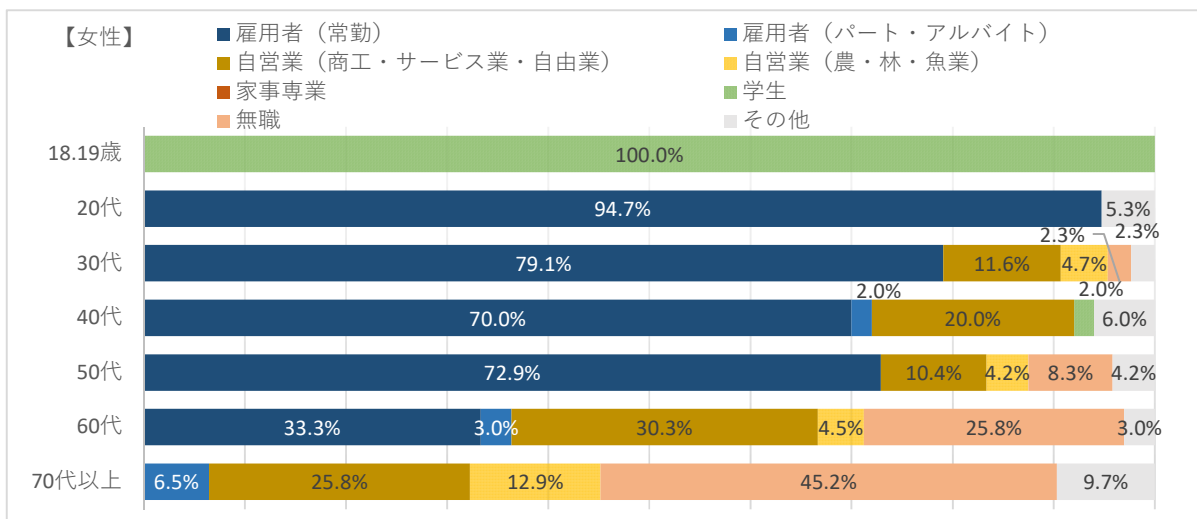
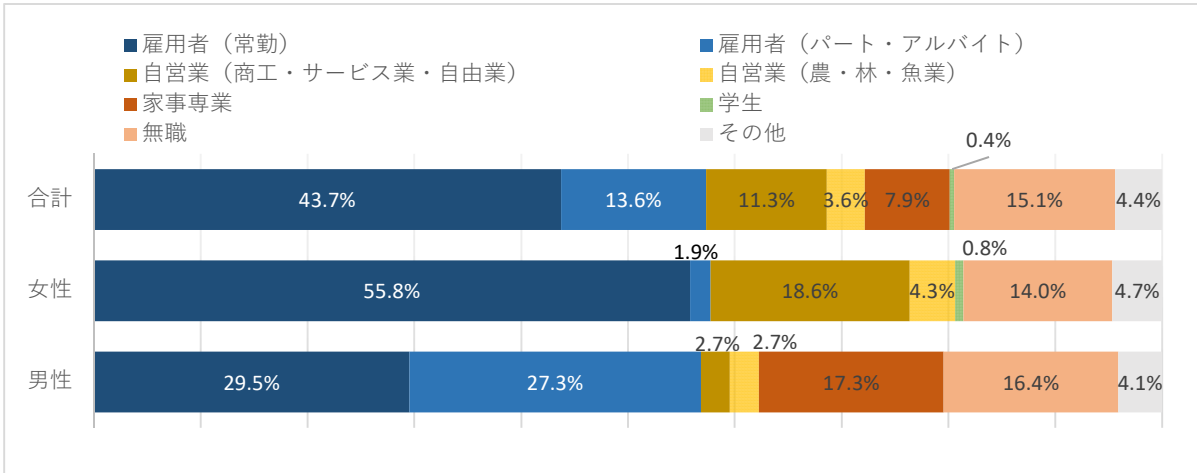
全体では、その他の理由を除いて「経済的に働く必要がないから」が19%で最も高くなっている。次いで「希望どおりの職がないから」が15.2%、「働いていたが結婚、出産、育児のため仕事をやめた」が7.6%となっている。性別、年代別では、女性の20代と30代において「働いていたが結婚、出産、育児のため仕事をやめた」が最も高くなっている。60代以降の男女に「経済的に働く必要がない」とする割合が高くなっている。

前回調査(平成29年度)においては、「働いていたが結婚、出産、育児のため仕事をやめた」とする女性の年代別の割合は、20代39%、30代71%、40代74%、50代35%でした。
(n = 105)



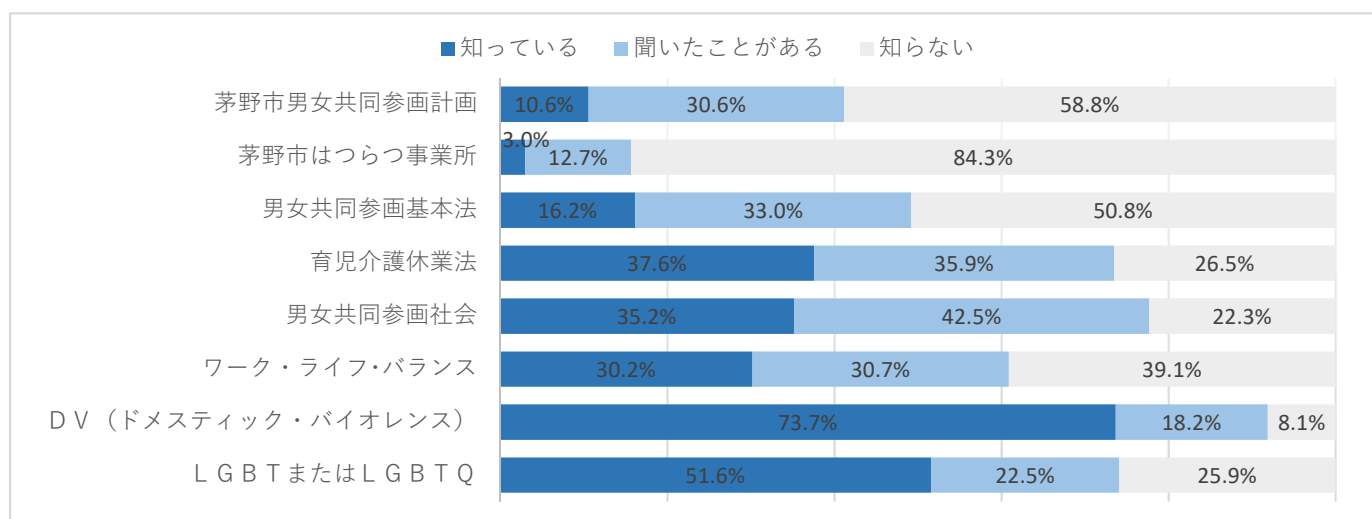
F6配偶者の職業について(配偶者がいる方のみ回答)

性別、年代別では、男性の20代と70代以上の配偶者の家事専業の割合が最も高くなっている。30歳代から60代においては、パートアルバイトの割合が高くなり、子育てが一段落し、仕事を再開しているためと考えられる。



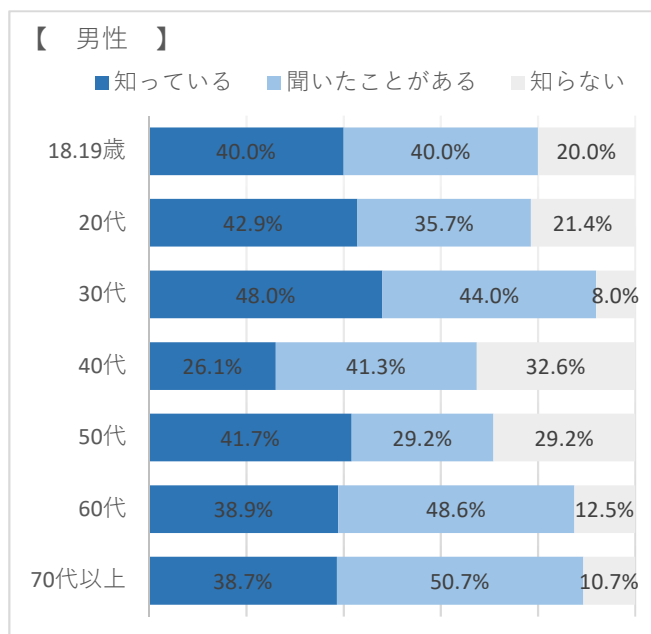
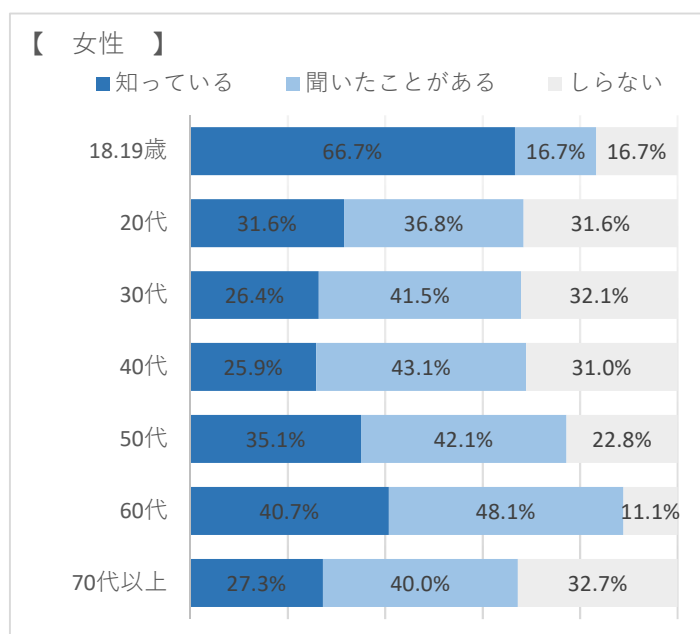
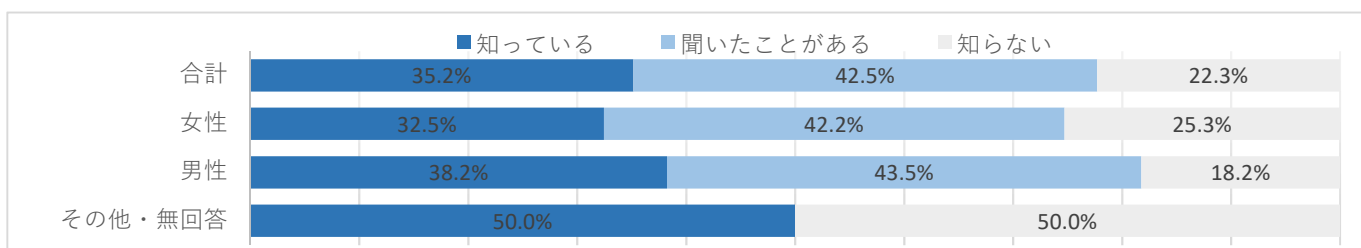
【問1】 男女共同参画に関する用語及び市事業の認知度について

調査した項目の内、男女共同参画社会やDV(ドメスティック・バイオレンス)について、「知っている」「聞いたことがある」と回答する割合は高く、反対に「茅野市男女共同参画計画」や「茅野市はつらつ事業所」など茅野市で実施している事業について「知らない」と回答する割合が高くなっている。



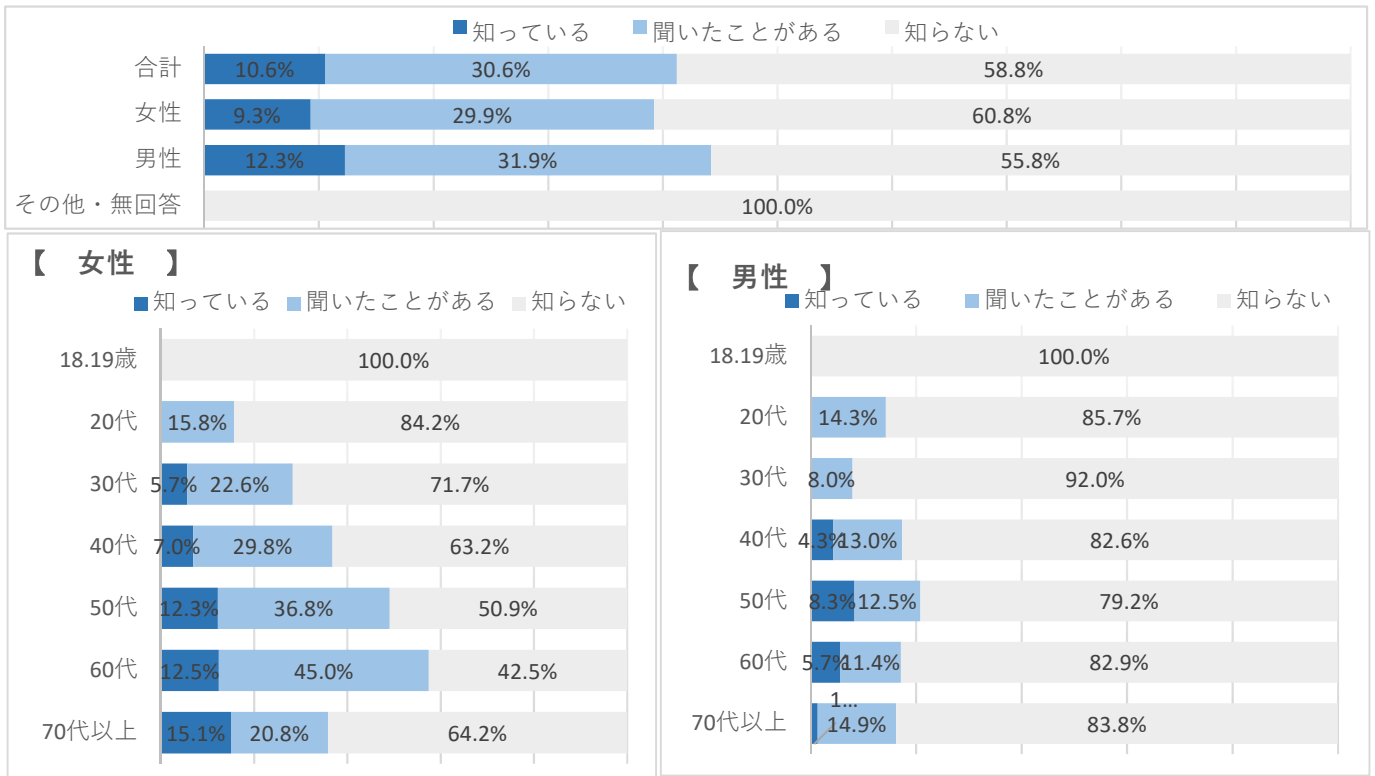
(1)男女共同参画社会

全体で、回答者の35.2%の人が「知っている」と回答した。「聞いたことがある」を含めると77.7%となり、前回調査時(H29年)より19ポイント増えている。
性別及び年齢別では、70代以上女性、40代男性で、知らない人が最も多い。



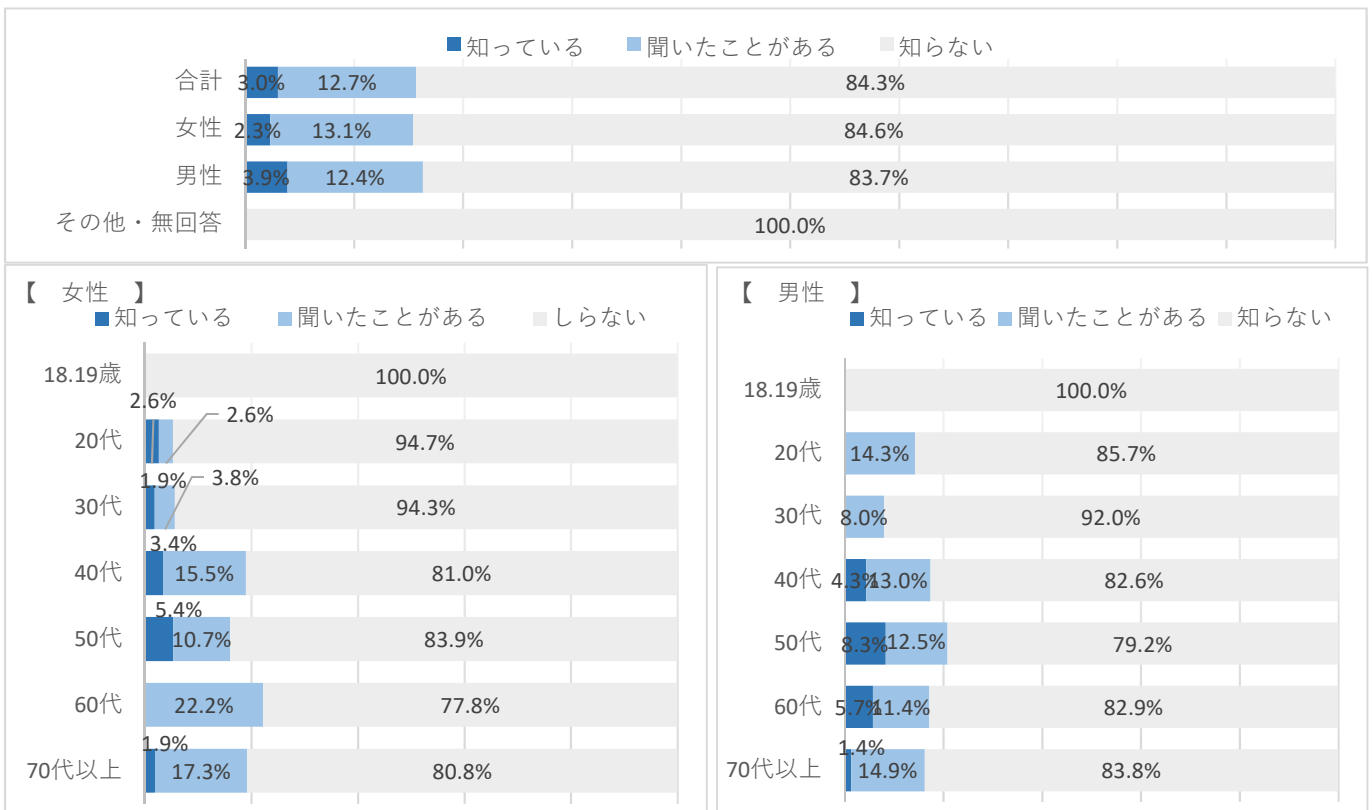
(2) 茅野市男女共同参画計画

回答者の10.6%の人が「知っている」と回答し、「聞いたことがある」を含めると41.2%となった。前回調査時(H29年)の「知っている」と答えた割合より24ポイント増えている。



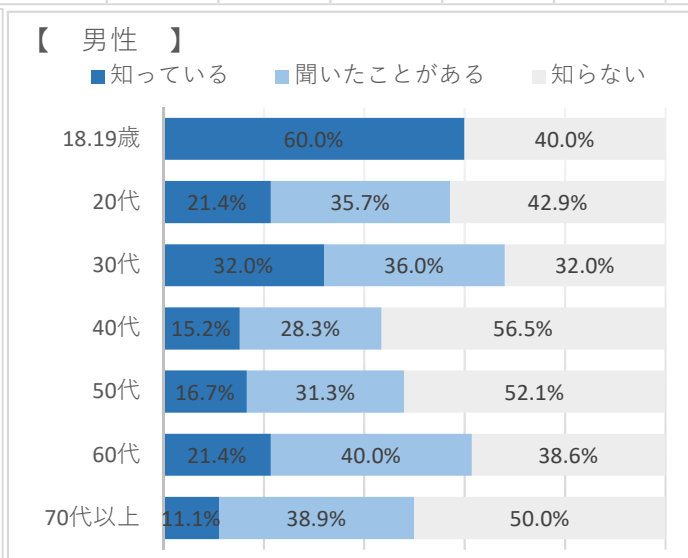
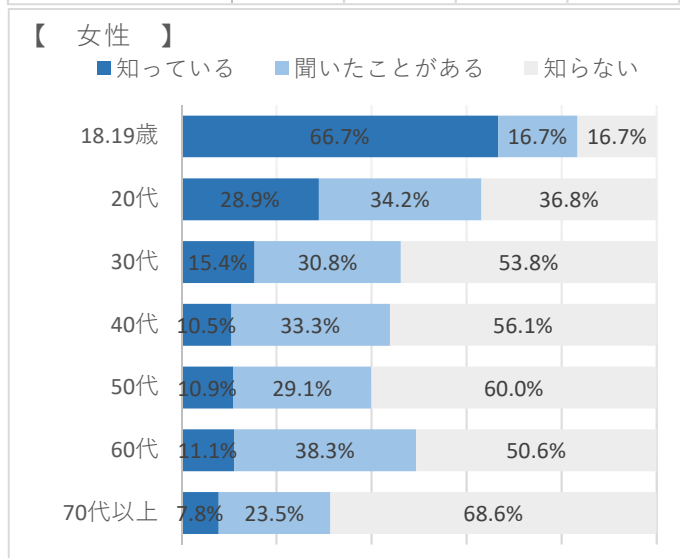
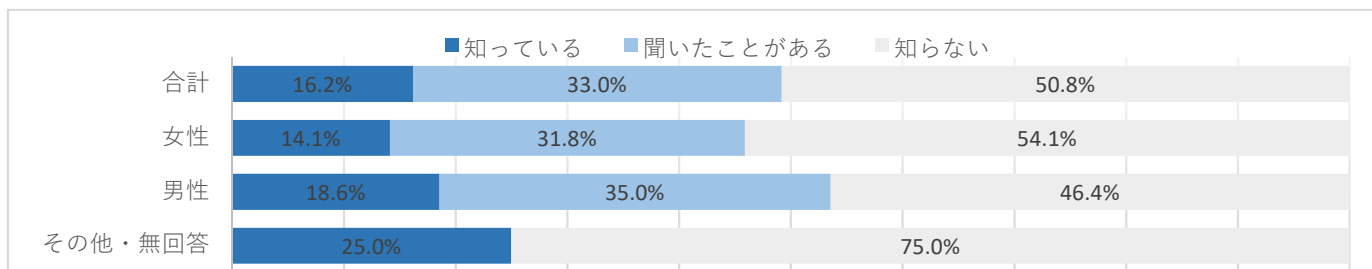
(3) 茅野市はつらつ事業所

全体の回答者の内「知っている」、「聞いたことがある」としたのは15.7%で、ほとんどが「知らない」とした。性別及び年代別で「知っている」と回答した人は40代以上に多くなっている。



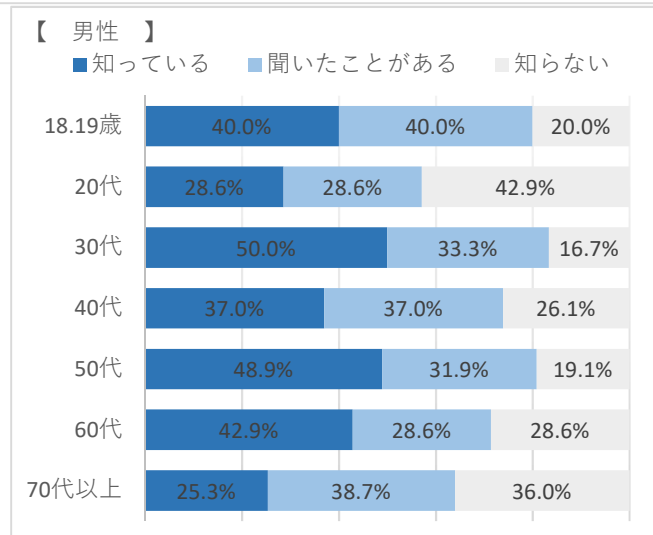
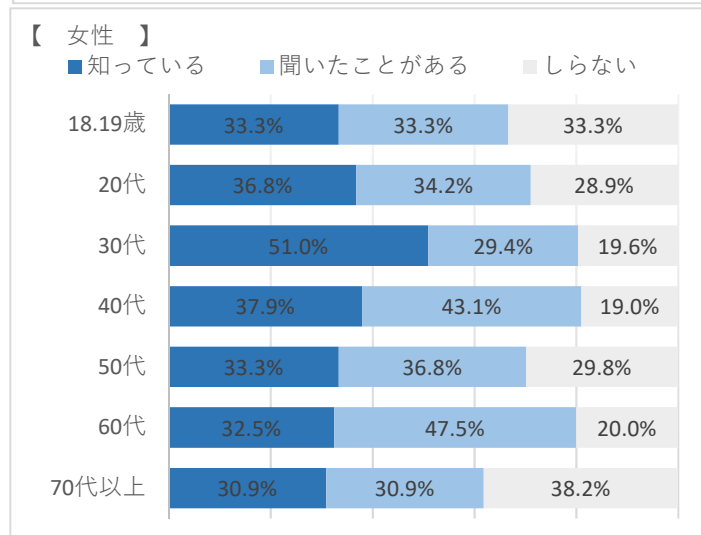
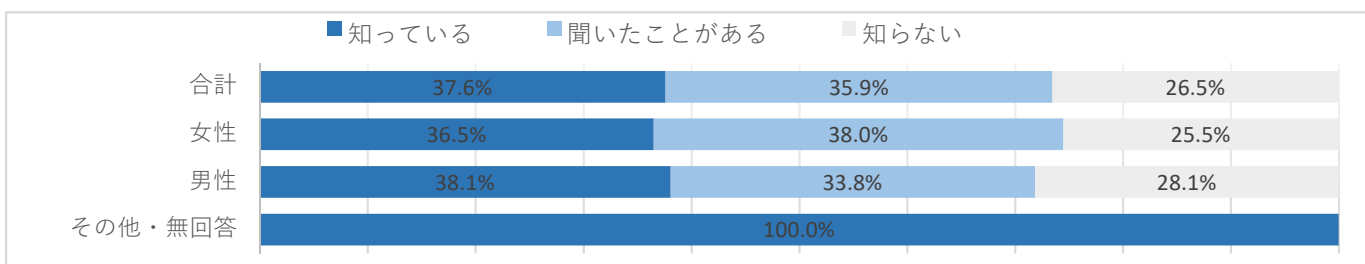
(4)男女共同参画基本法

全体で、回答者の49.2%の人が「知っている」、「聞いたことがある」としている。



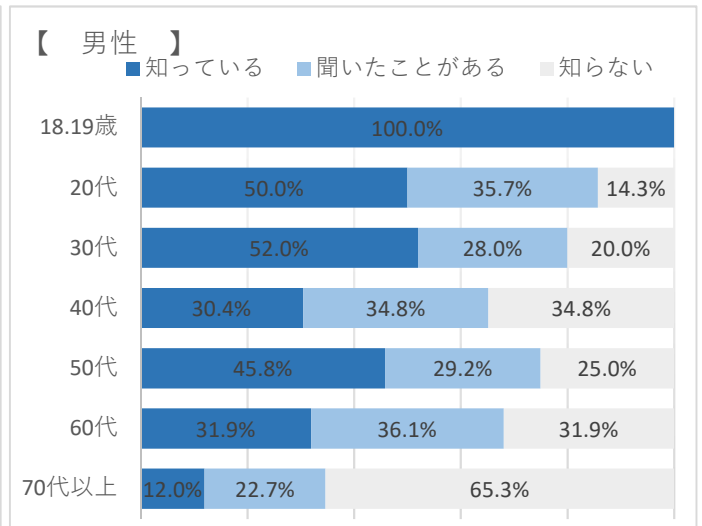
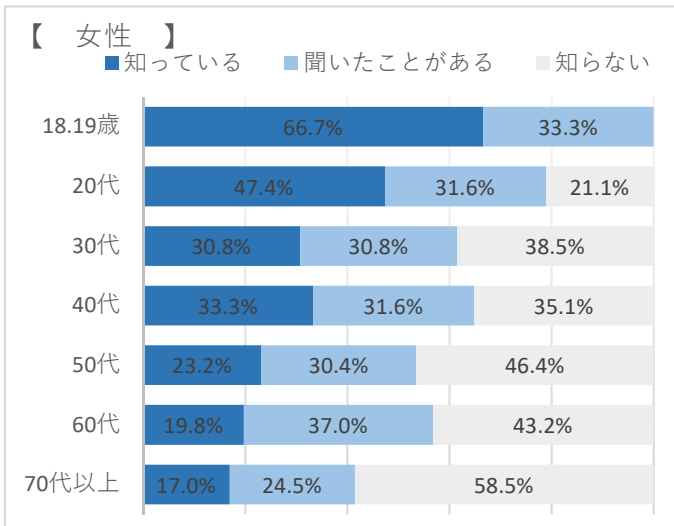
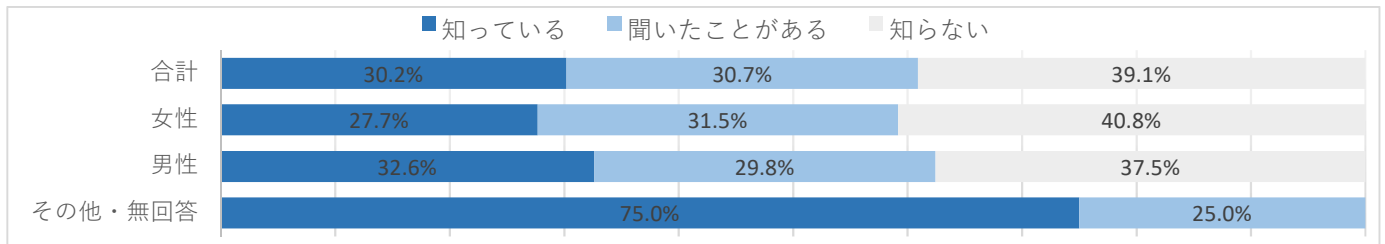
(5)育児介護休業法

全体で、回答者の73.5%の人が「知っている」、「聞いたことがある」としている。「知っている」とする回答者の年代別は、男女ともに30代が一番多い。



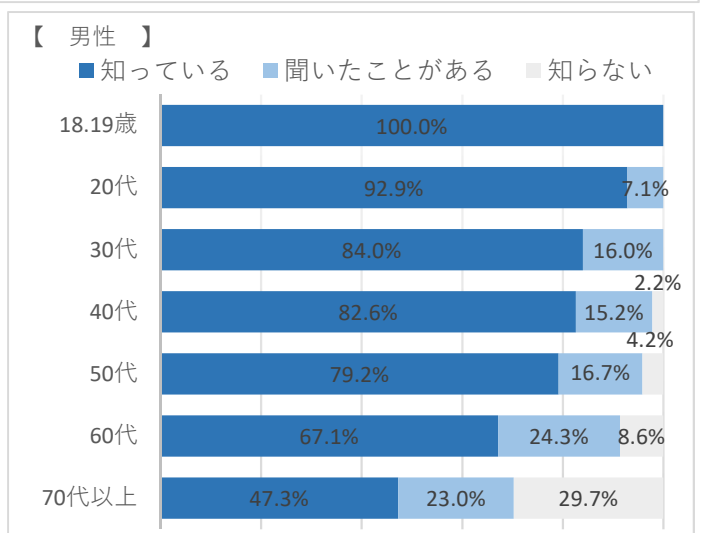
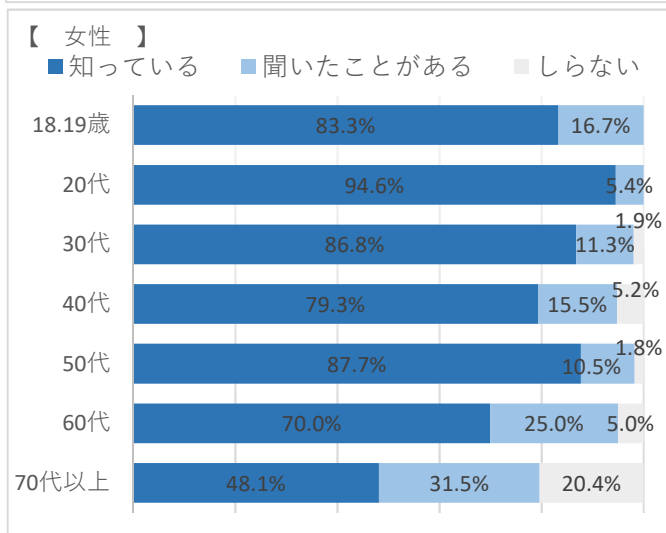
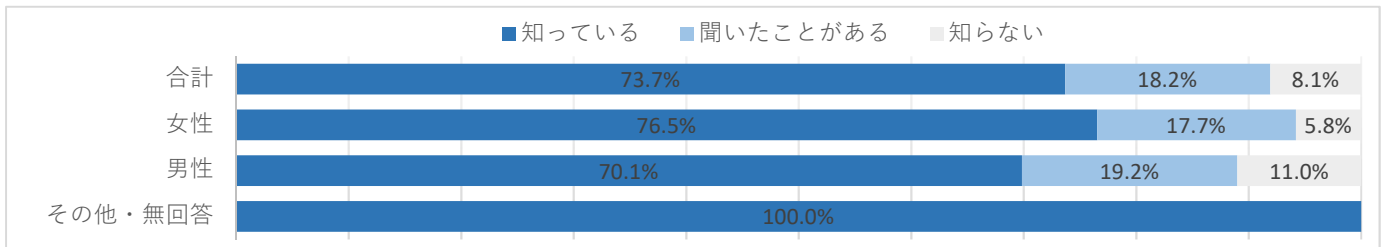
(6)ワーク・ライフ・バランス(仕事と生活の調和)

知っているとした人は、全体で30.2%となった。聞いたことがあるとあわせると60.9%となり、前回調査時(H29年)より21ポイント増となった。



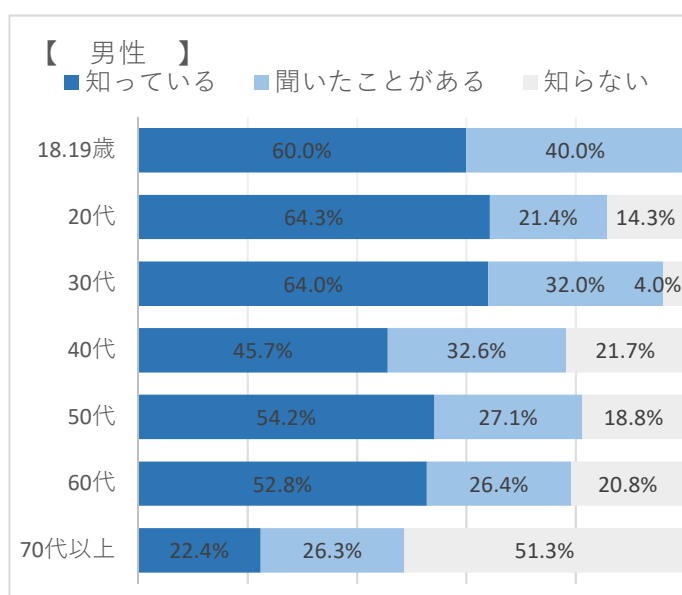
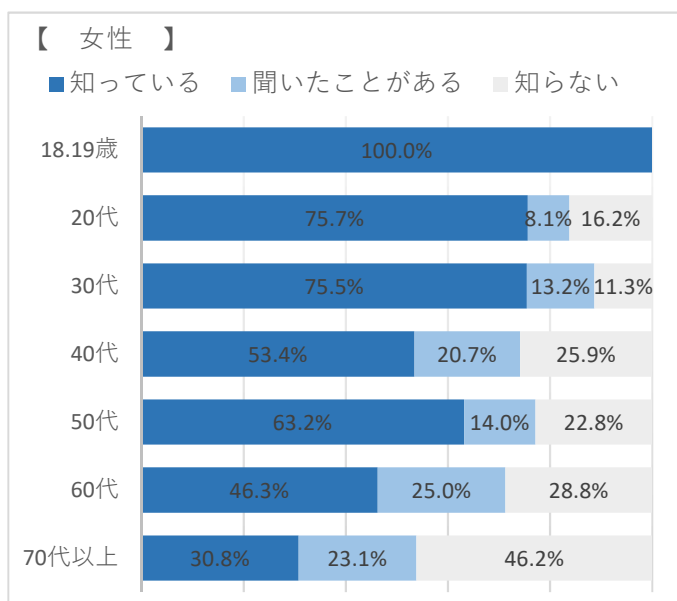
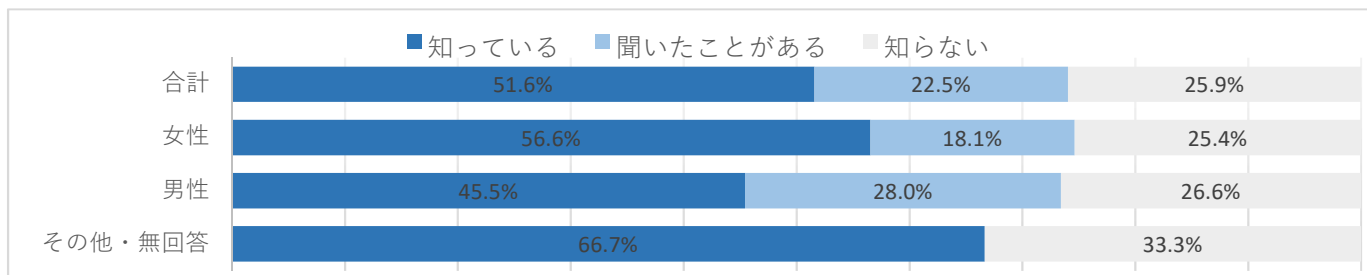
(7)DV(ドメスティック・バイオレンス)

全体では、91.9%の人が「知っている」、「聞いたことがある」としている。年代別、男女別では、若い年代はほとんどの男女が知っているのに対し、70歳以上の男女は「知らない」の割合が他の年代に比べて高くなっている。特に男性では約3割が「知らない」としている。



(8)LGBTまたはLGBTQ

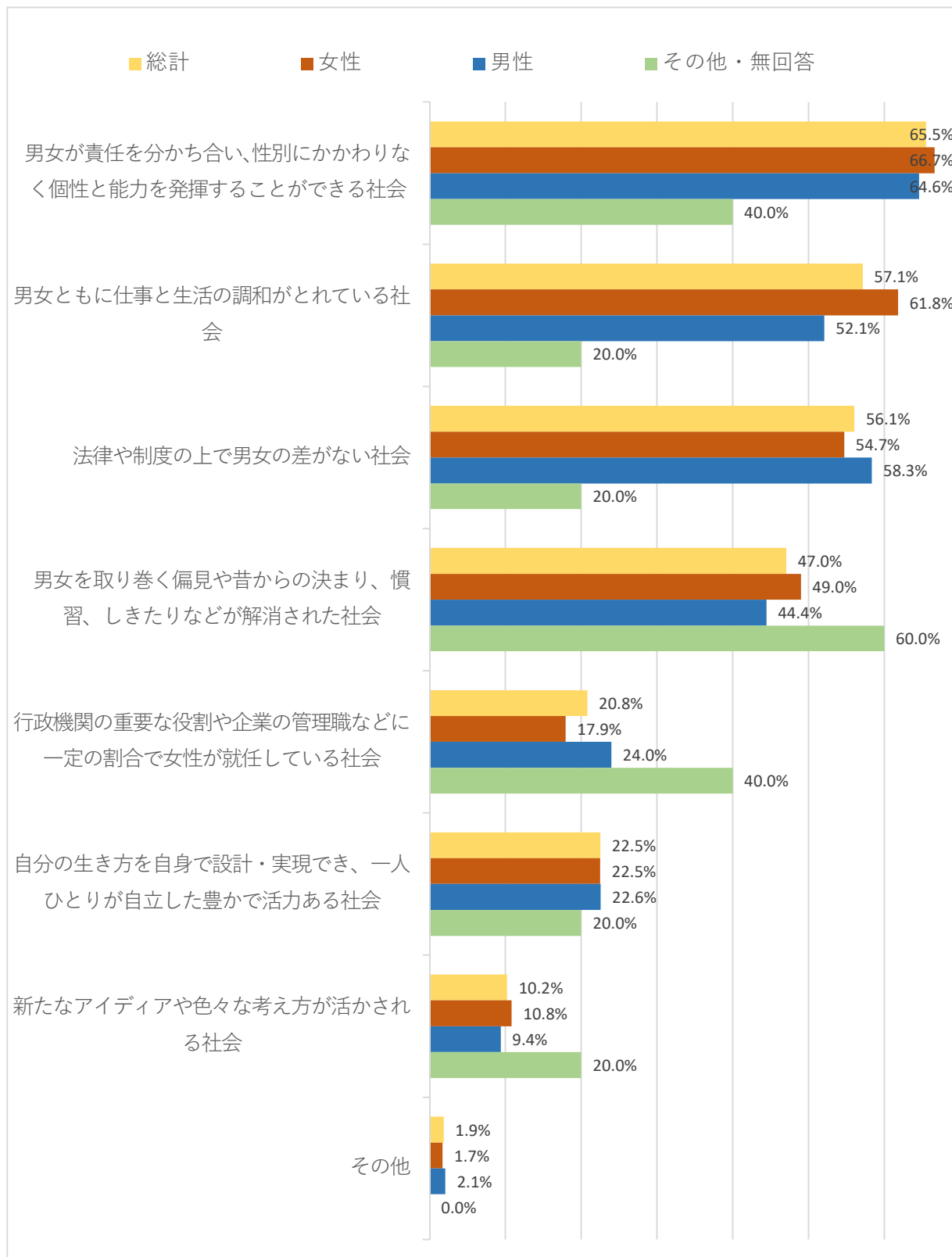
性別では、女性の方がLGBT又はLGBTQを「知っている」と答えた割合が高くなっている。年代別では、30代以下は大半が知っている、聞いたことがあると回答したが、70歳以上においては、約半数が「知らない」と回答した。



【問2】「男女共同参画社会」はどのような社会ですか。

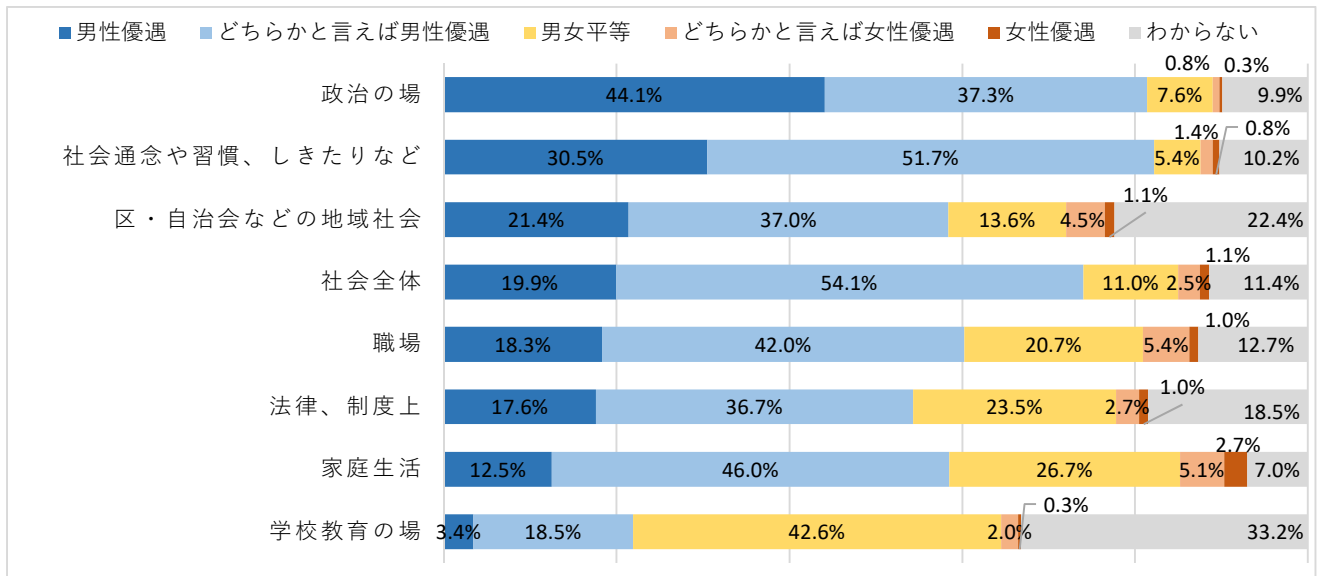
(3つまで選び回答)

調査項目の内「男女が責任を分かち合い、性別にかかわらず個性と能力を發揮することができる社会」が65.5%、「男女ともに仕事と生活の調和がとれている社会」が57.1%、「法律や制度の上で男女の差がない社会」が56.1%と高い割合になっている。



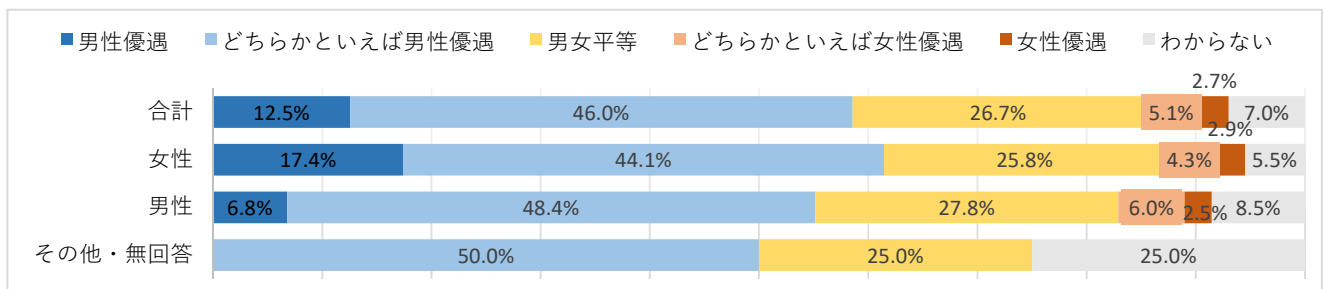
【問3】 次の分野で男女の地位は平等になっていると思いますか

調査した項目の内、「男性優遇」「どちらかと言えば男性優遇」と回答する割合は、「政治の場」や「社会通念や習慣、しきたり」の分野で最も高くなった。
男女平等と回答した割合が最も高かったのは、「学校教育の場」となった。

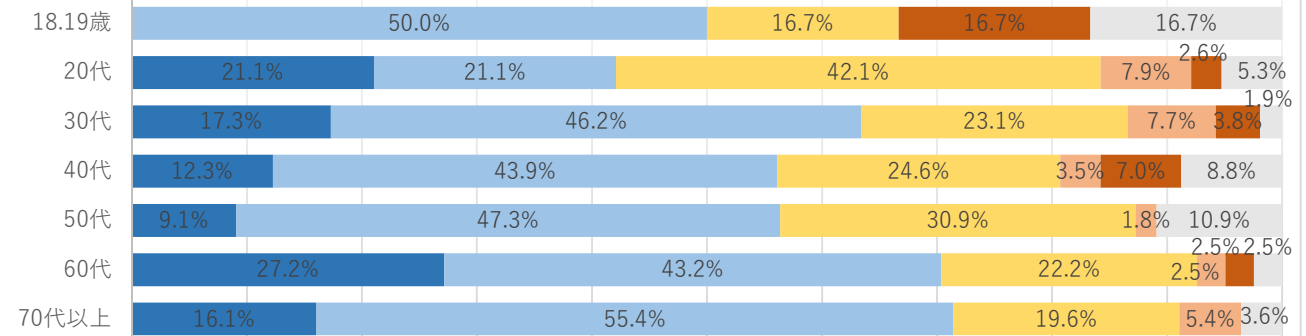


(1) 家庭生活で

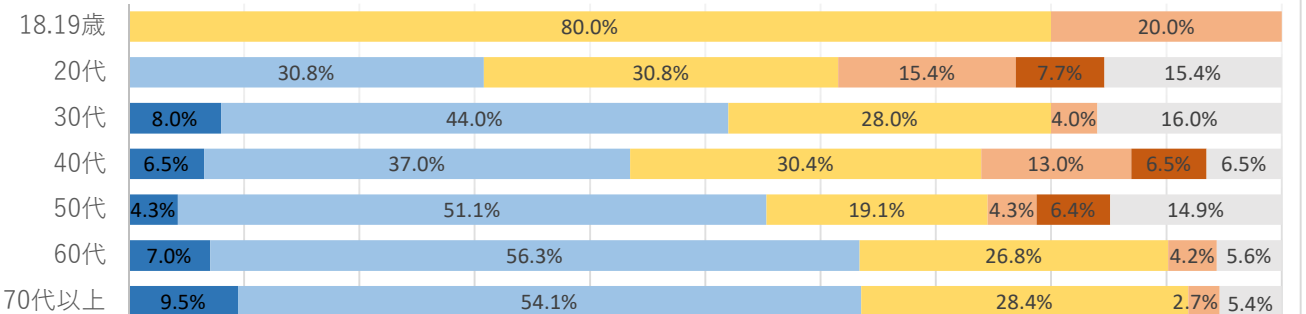
「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は58.5%となっている。性別では女性 61.5%、男性 55.2%で、6.3ポイントの差となっている。



【 女性 】

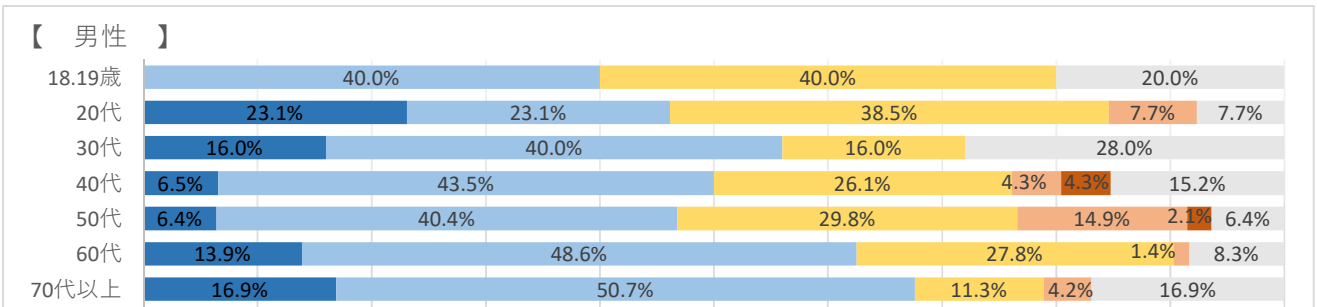
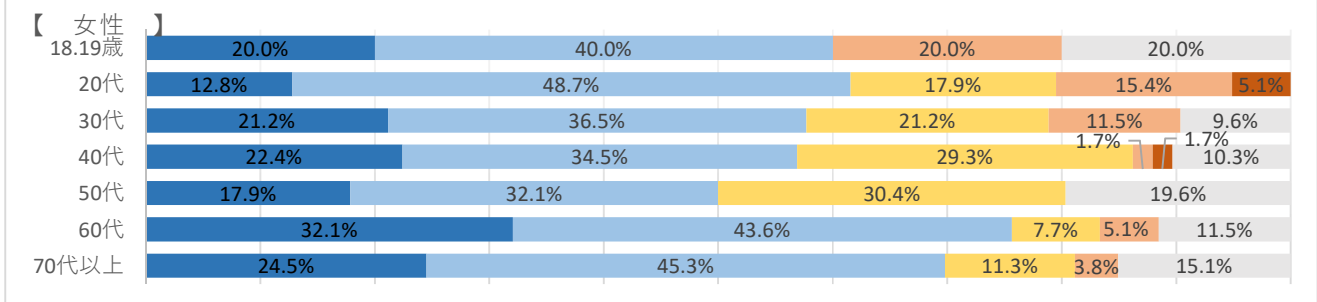
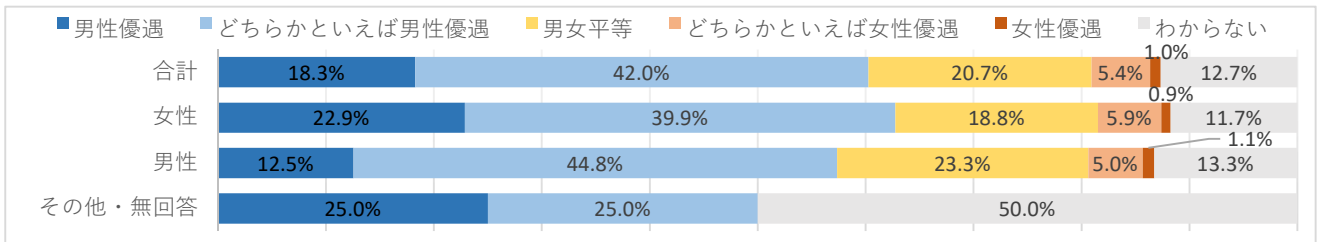


【 男性 】



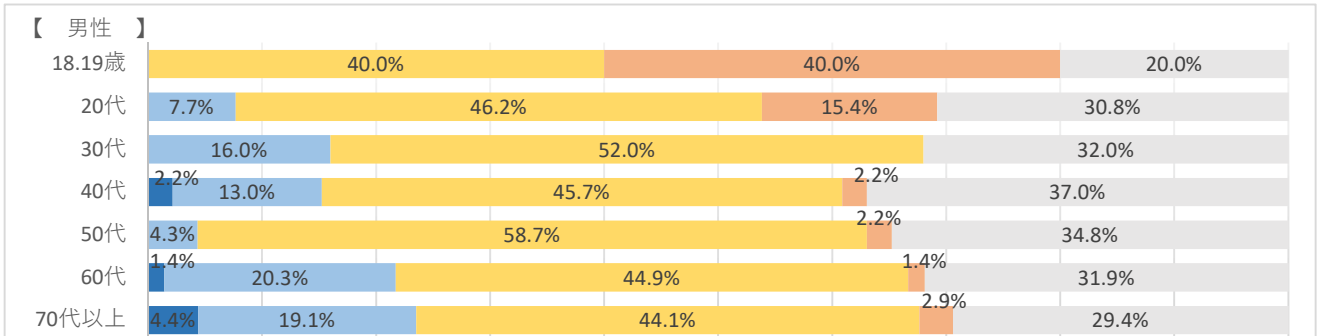
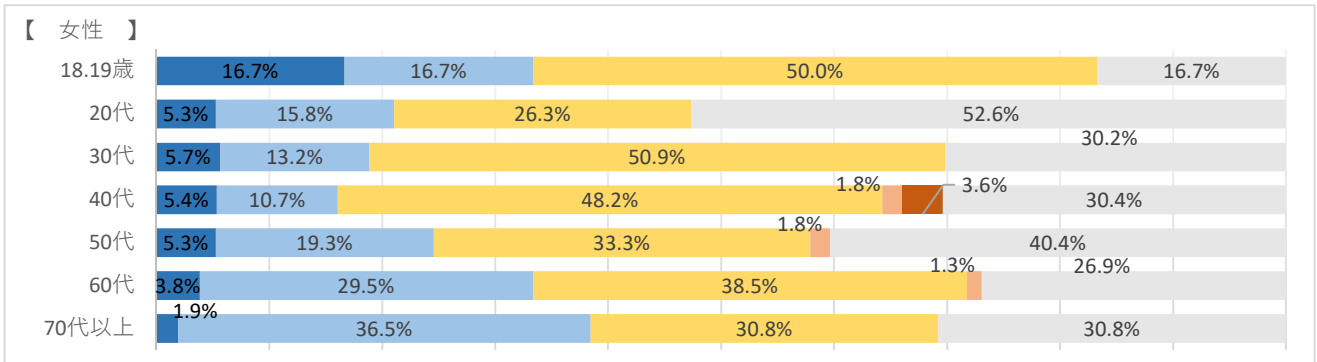
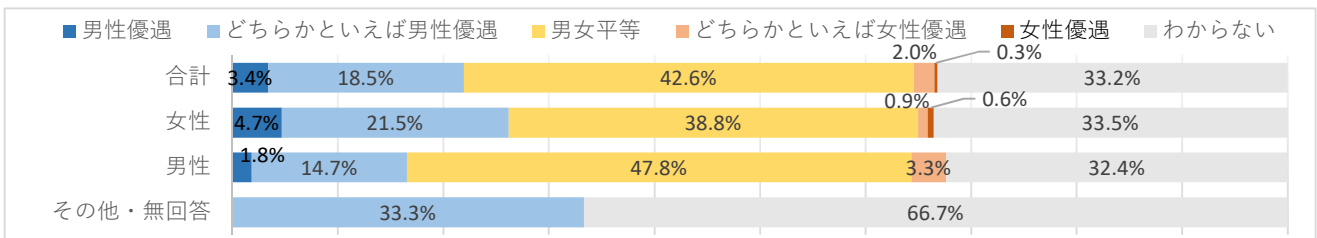
(2)職場で

「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は60.3%となっている。性別で見ると、女性 62.8%、男性 57.3%で、5.5ポイントの差となっている。



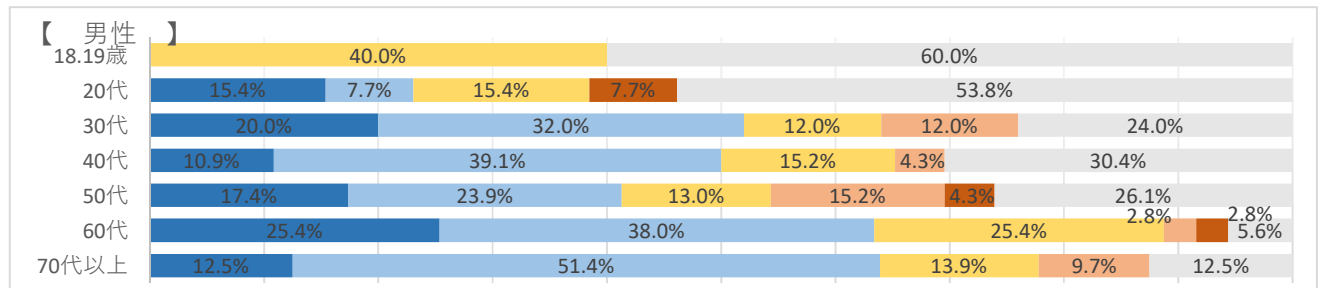
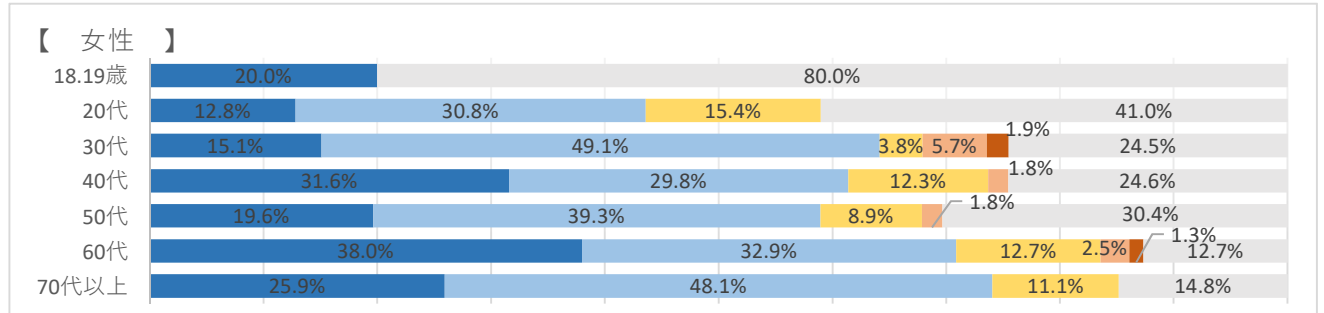
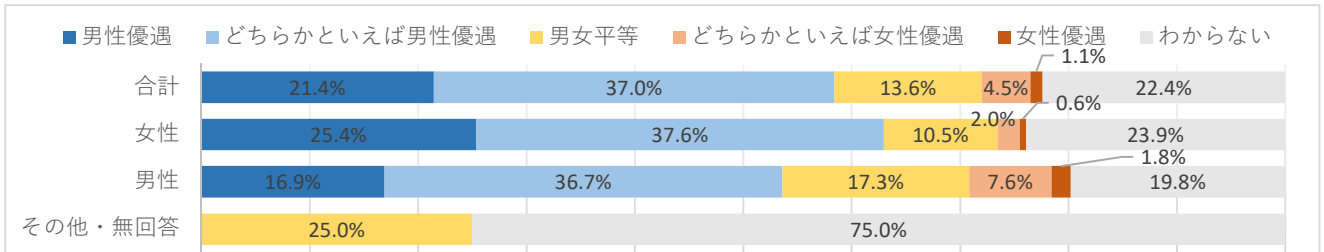
(3)学校教育の場で

「男女平等である」割合が 42.6%で、他の分野に比べ高くなっている。



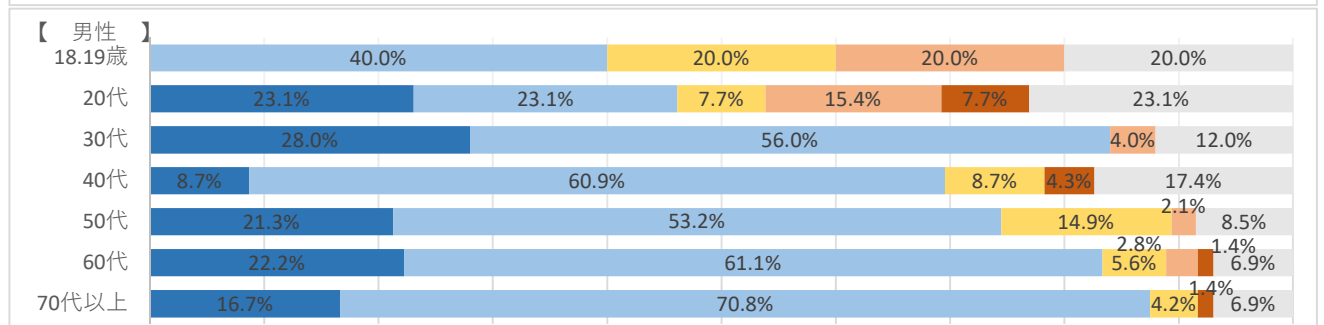
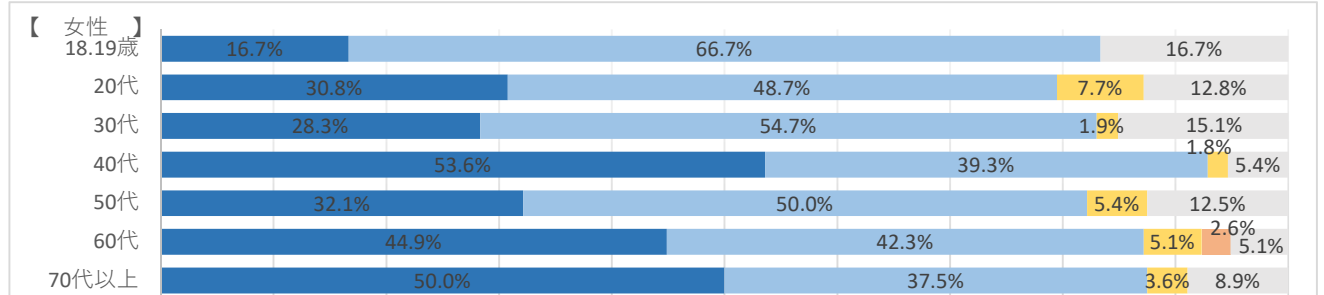
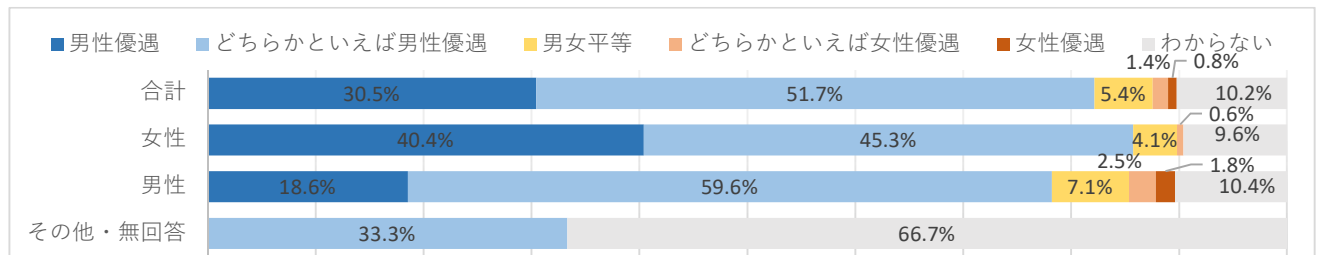
(4)区・自治会などの地域社会で

「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は58.4%となっている。性別で見ると、女性 63.0%、男性 53.6%で、9.4ポイントの差となっている。



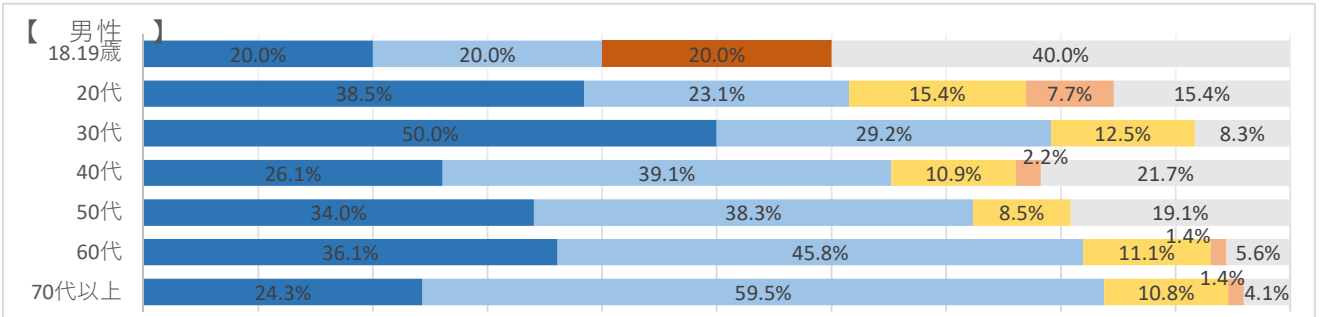
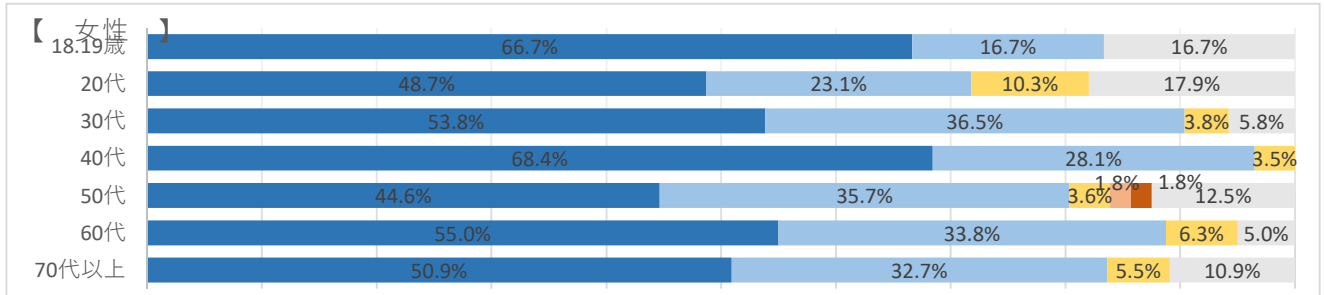
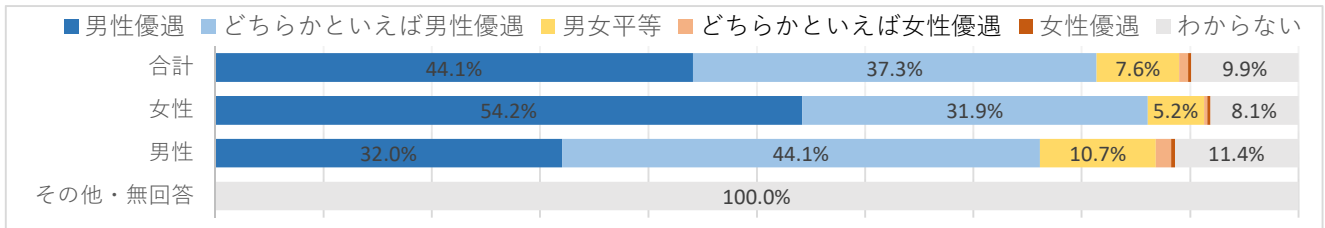
(5)社会通念や習慣、しきたりなどで

「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は82.2%となっている。性別で見ると、女性 85.7%、男性 78.2%で7.5ポイントの差となっている。



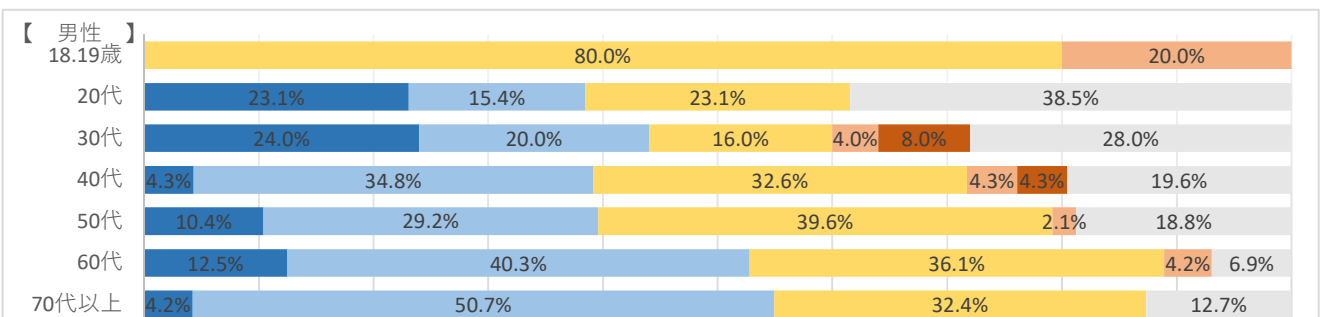
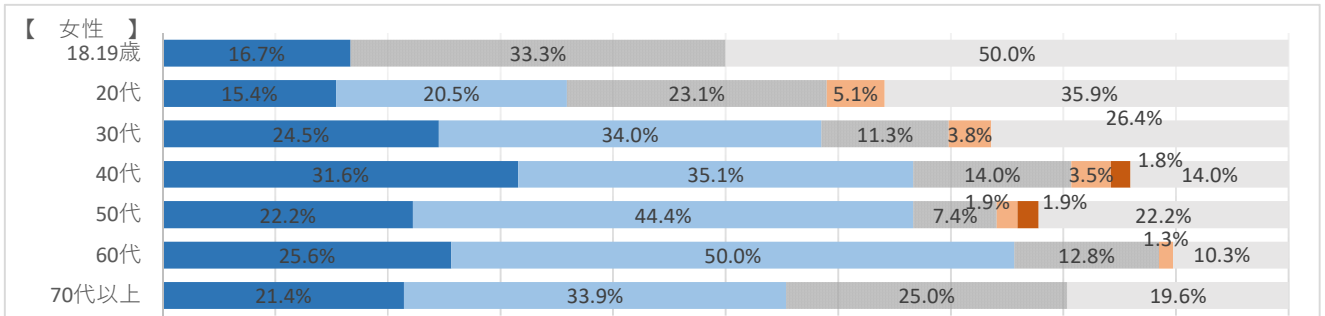
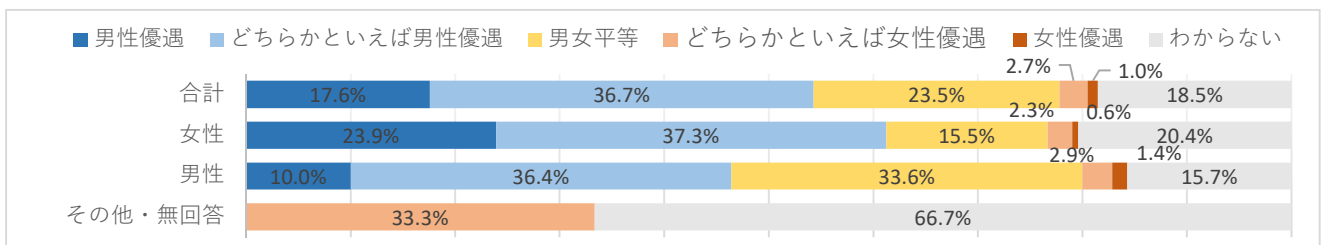
(6)政治の場で

「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は81.4%となっている。性別で見ると、女性 86.1%、男性 76.1%で、10.0ポイントの差となっている。



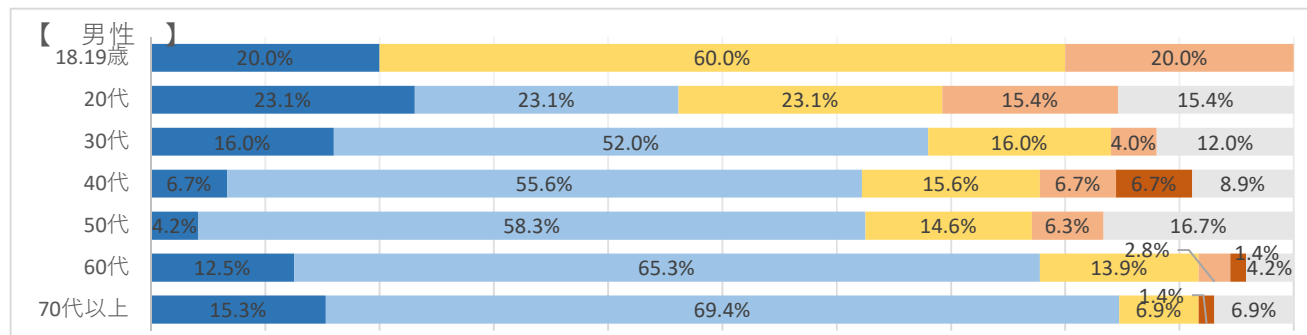
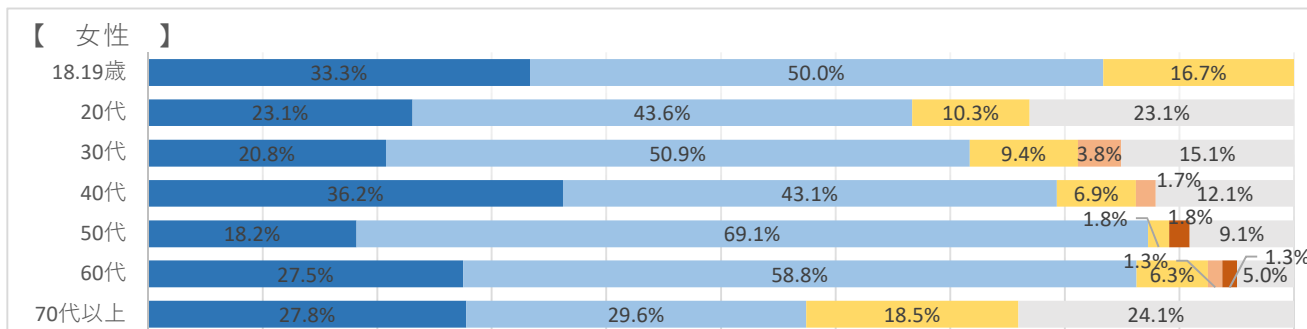
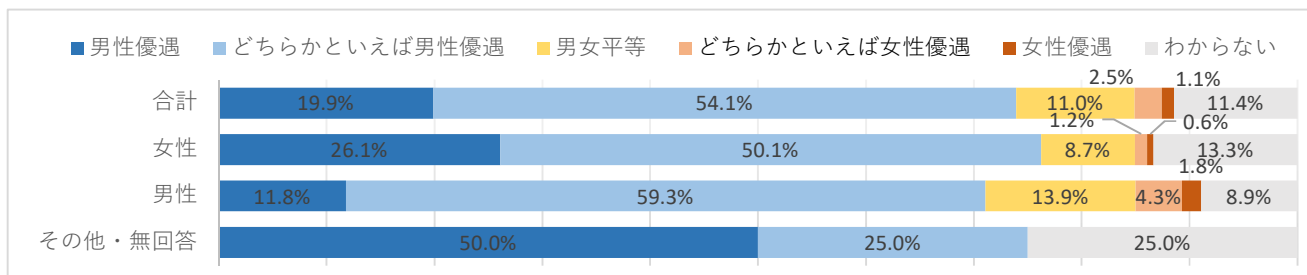
(7)法律、制度上で

「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は54.3%となっている。性別では、女性 61.2%、男性 46.4%で、14.8ポイントの差となっている。



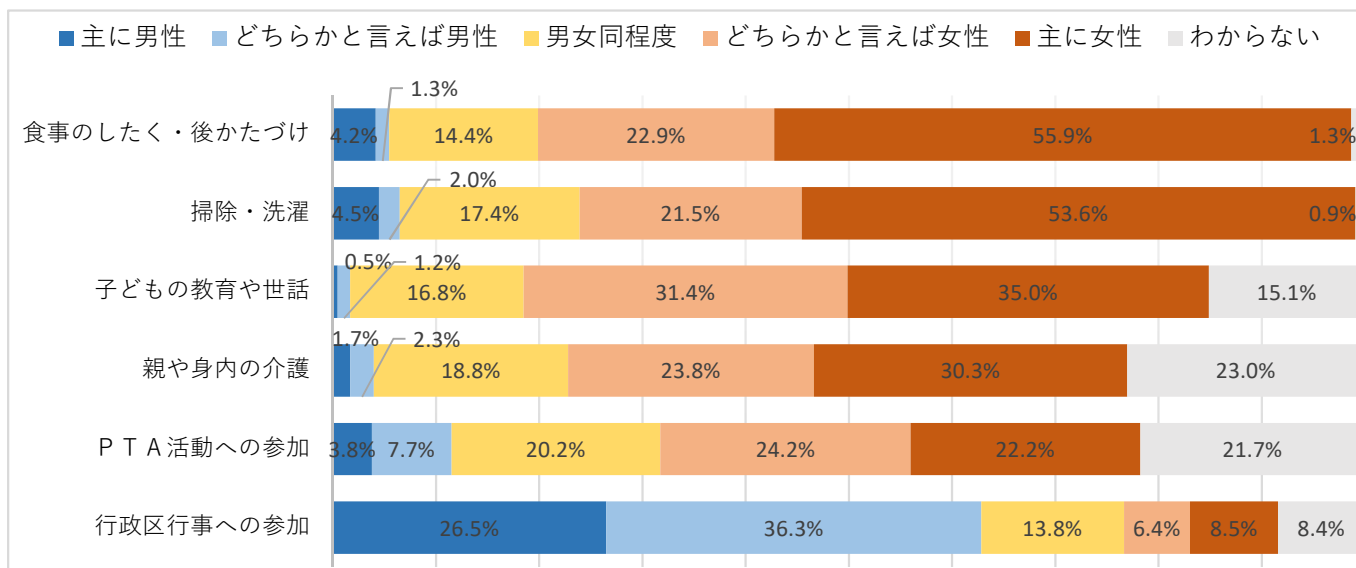
(8)社会全体の中で

「男性の方が優遇されている」または「どちらかといえば男性の方が優遇されている」割合は74%となっている。性別では女性 76.2%、男性 71.1%で、5.1ポイントの差となっている。



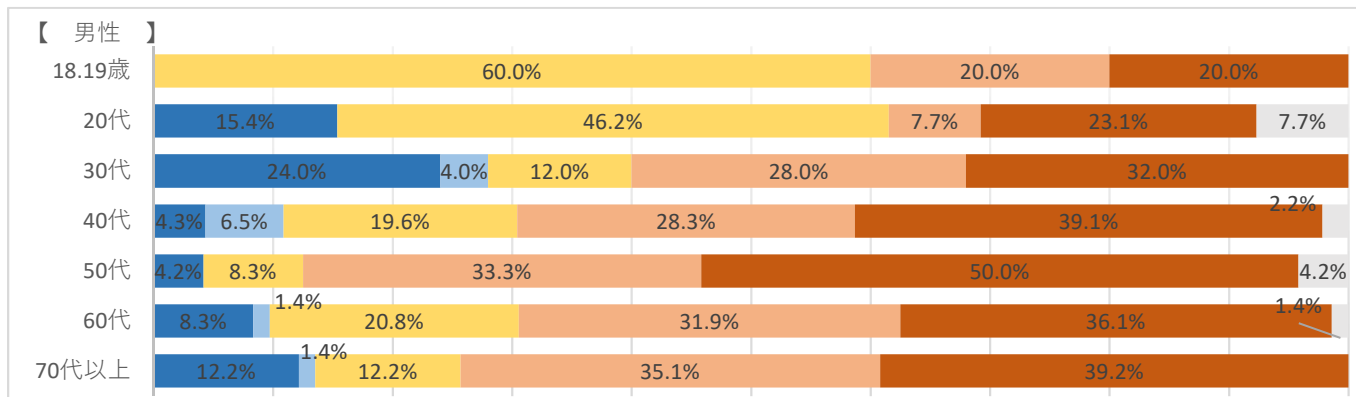
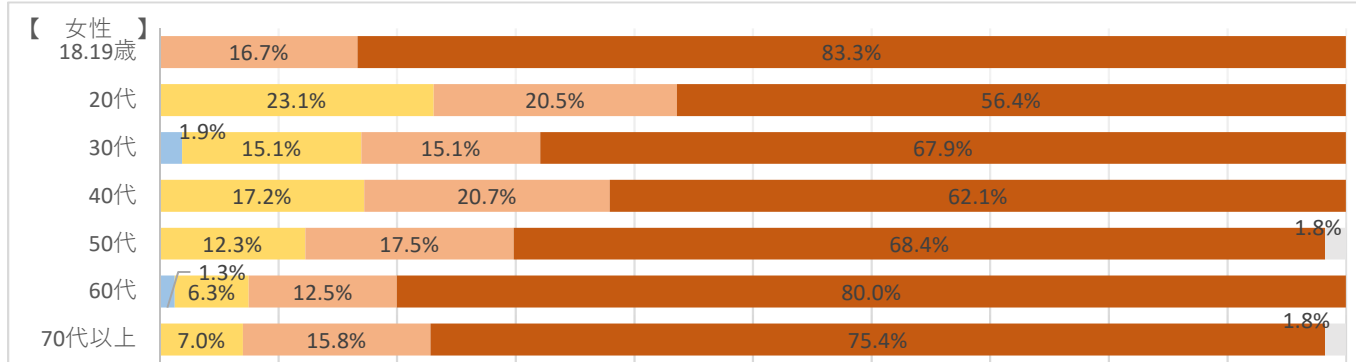
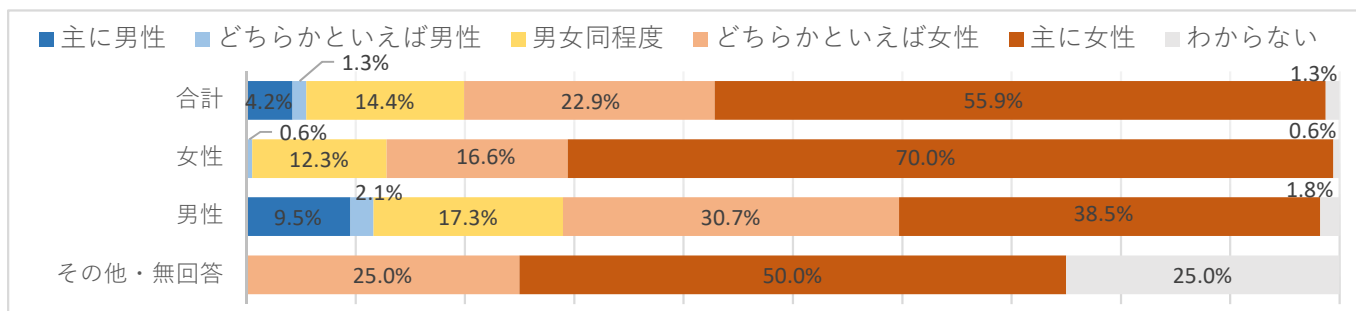
【問4】 あなたの家庭では、次のことがらについて、どなたが行っていますか

調査した項目の内、「主に女性」と回答した割合は、「行政区行事への参加」を除いて、すべてが高くなった。「どちらかと言えば女性」の割合を含めると約半数以上が「主に女性」「どちらかと言えば女性」と回答した。



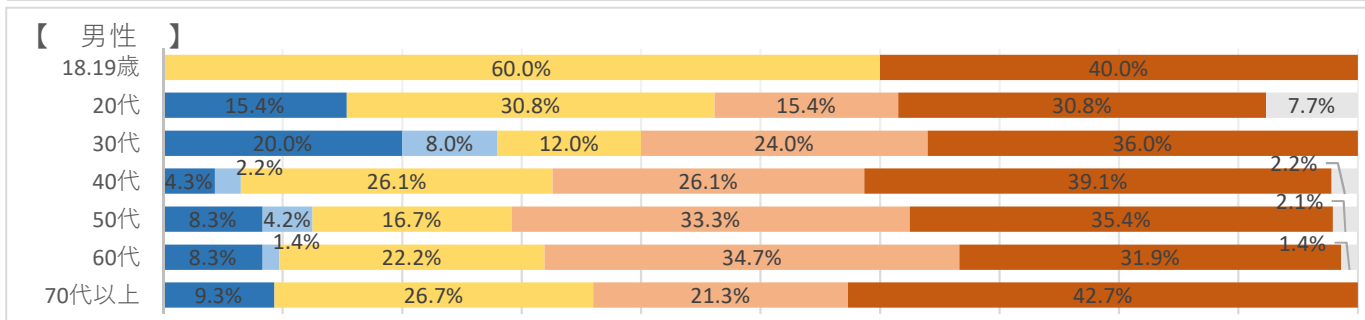
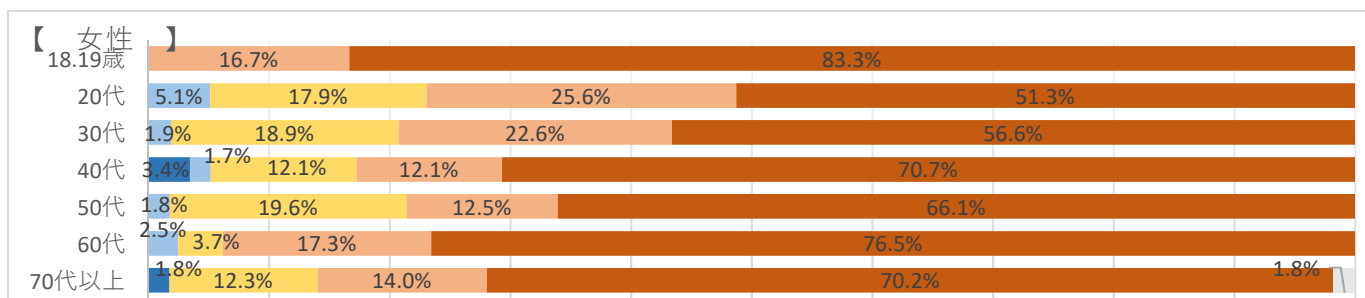
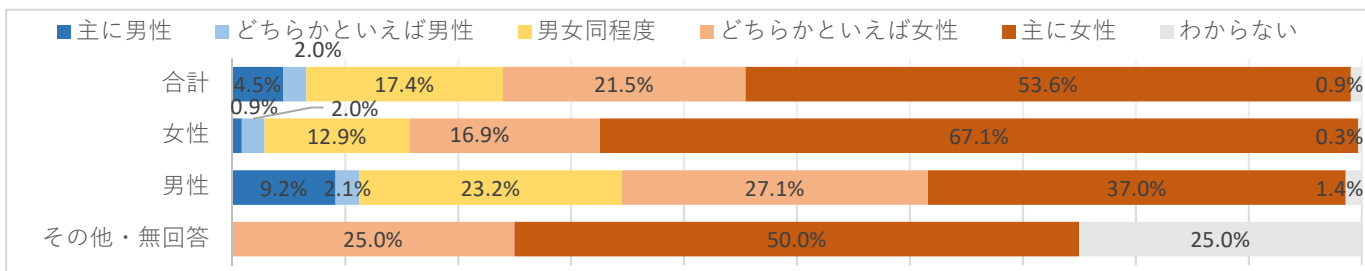
(1) 食事のしたく・後かたづけ

「主に女性」または「どちらかといえば女性」割合は78.8%となっている。性別では女性 86.6%、男性 69.2%で17.4ポイントの差となっている。



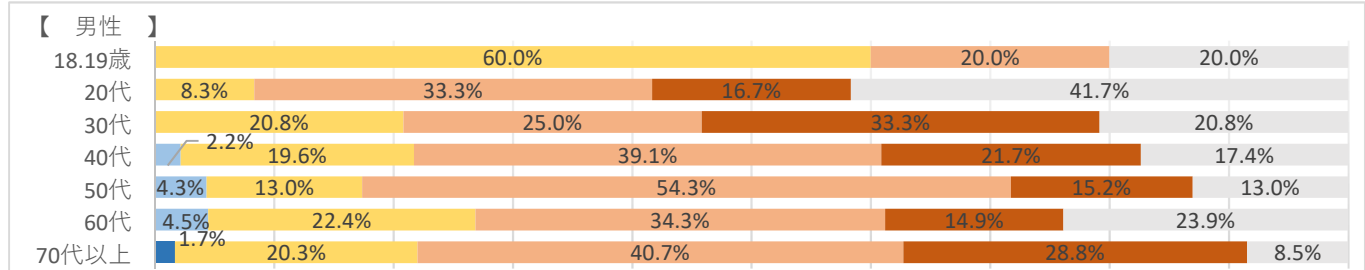
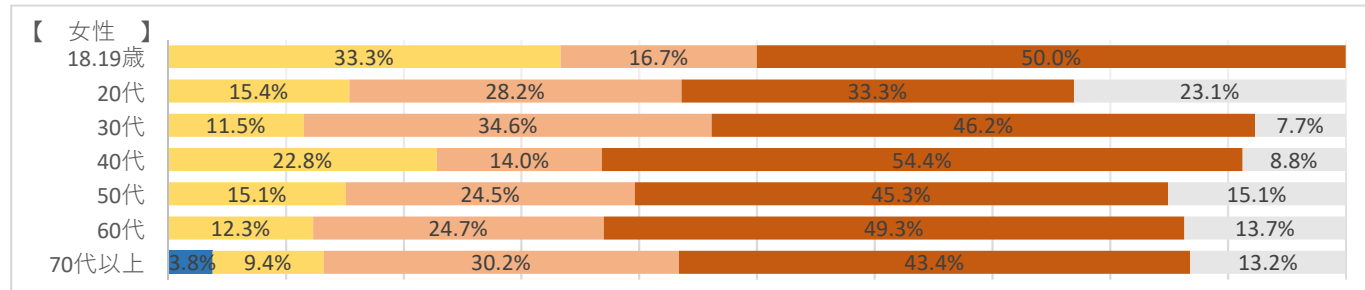
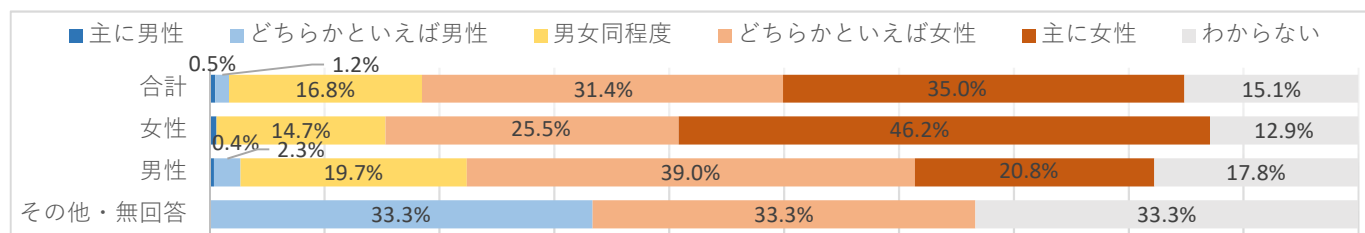
(2)掃除・洗濯

「主に女性」または「どちらかといえば女性」割合は75.1%となっている。性別で見ると、女性 84.0%、男性 64.1%で、19.9ポイントの差となっている。また、「男女平等」と回答する割合は、男性が高くなっている。



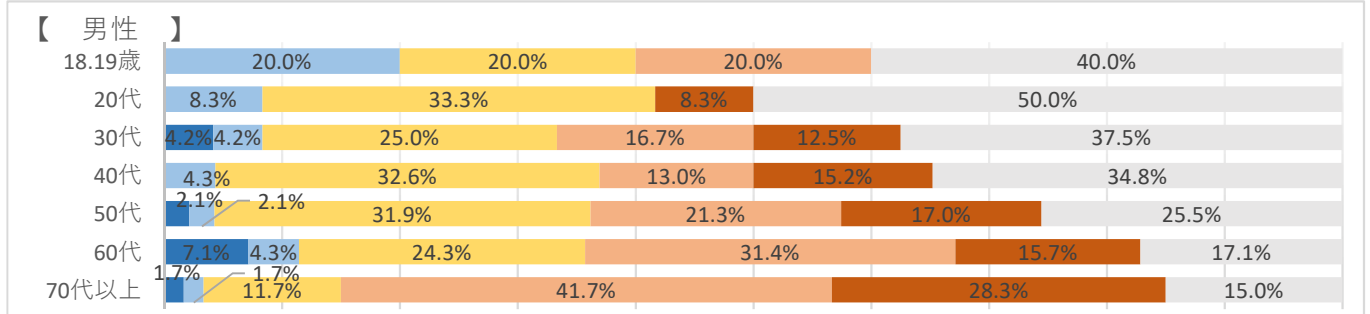
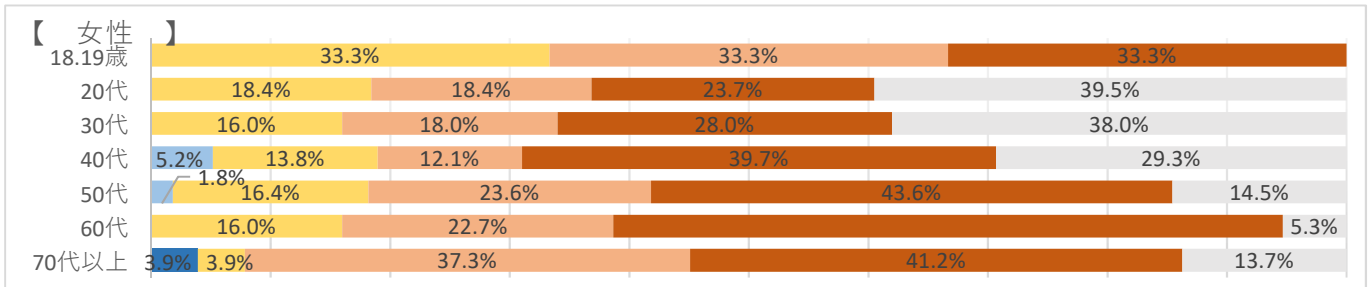
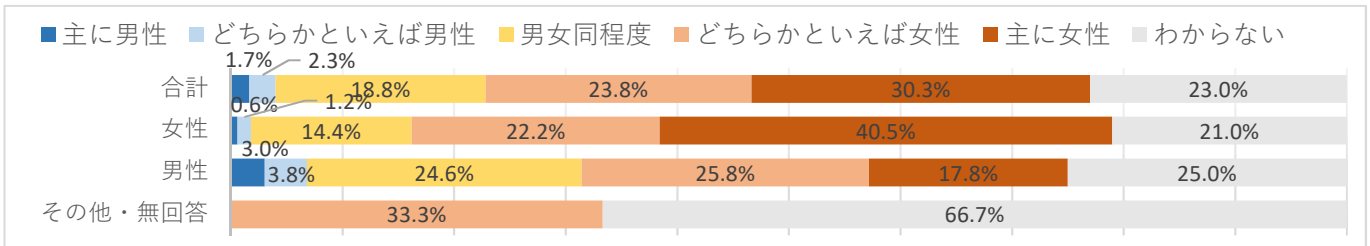
(3)子どもの教育や世話

「主に女性」または「どちらかといえば女性」割合は66.4%となっている。性別では女性 71.7%、男性 59.8%で、11.9ポイントの差となっている。



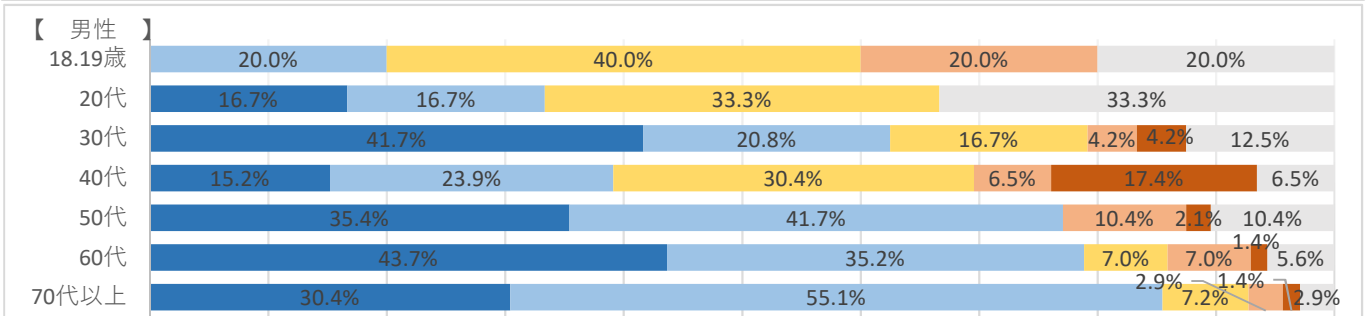
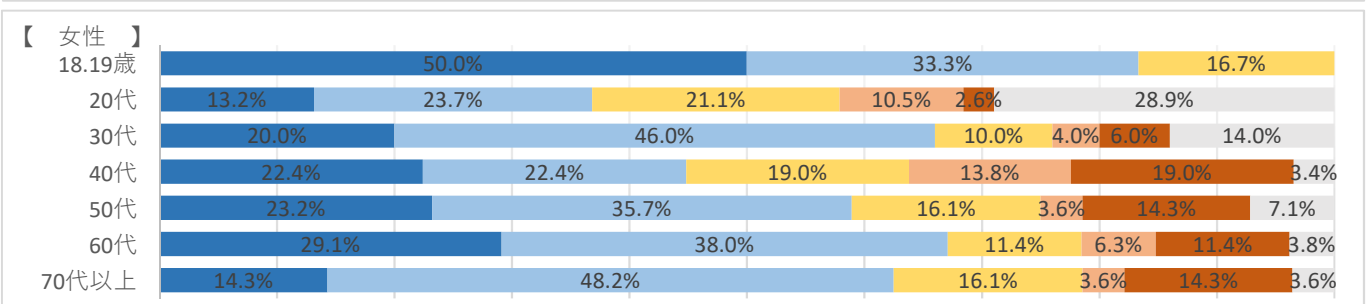
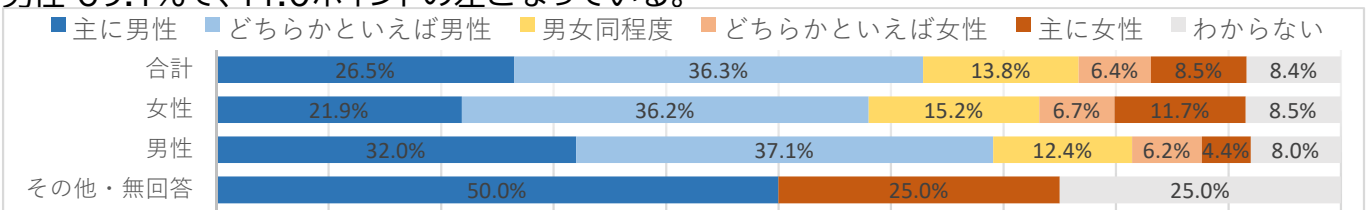
(4)親や身内の介護

「主に女性」または「どちらかといえば女性」割合は54.1%となっている。性別では、女性 62.7%、男性 43.6%で、19.1ポイントの差となっている。年代別の「男女平等」と回答する割合は、18.19歳を除く全ての年代において、男性の方が高くなっている。



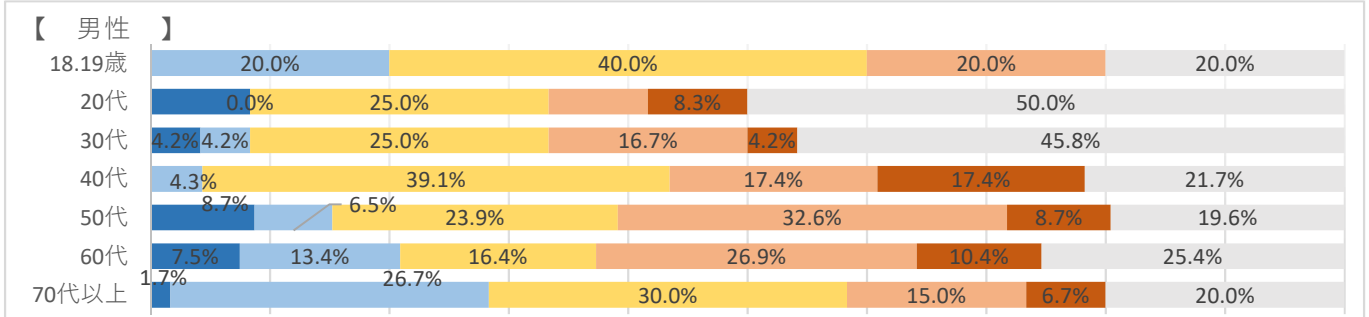
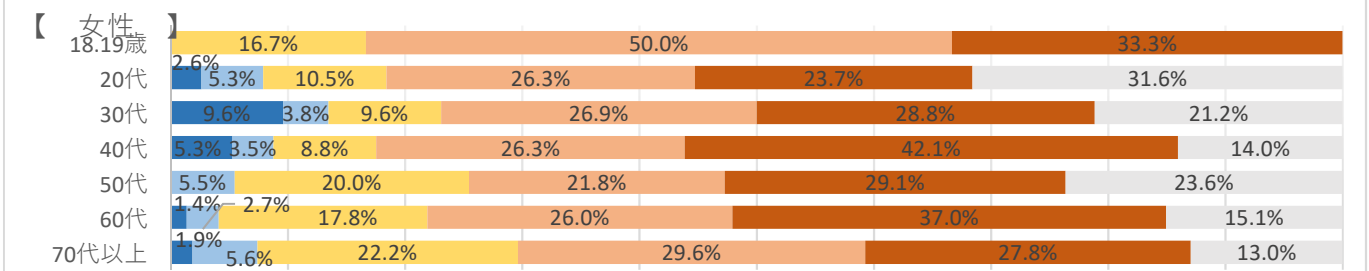
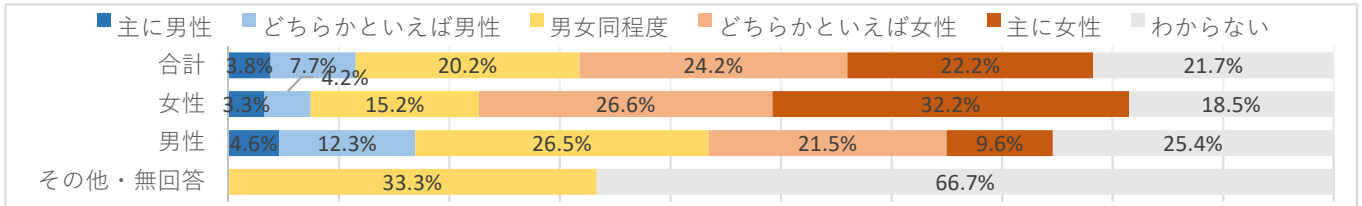
(5)行政区内行事などへの参加

「主に男性」または「どちらかといえば男性」割合は62.8%となっている。性別では、女性 58.1%、男性 69.1%で、11.0ポイントの差となっている。



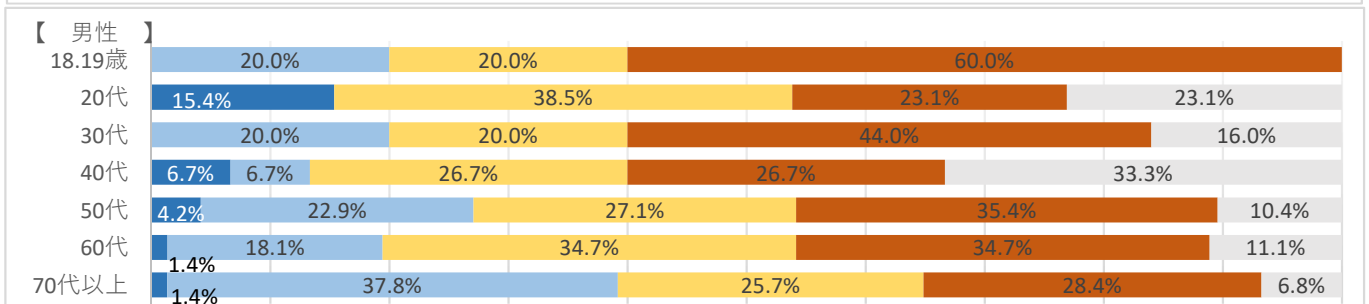
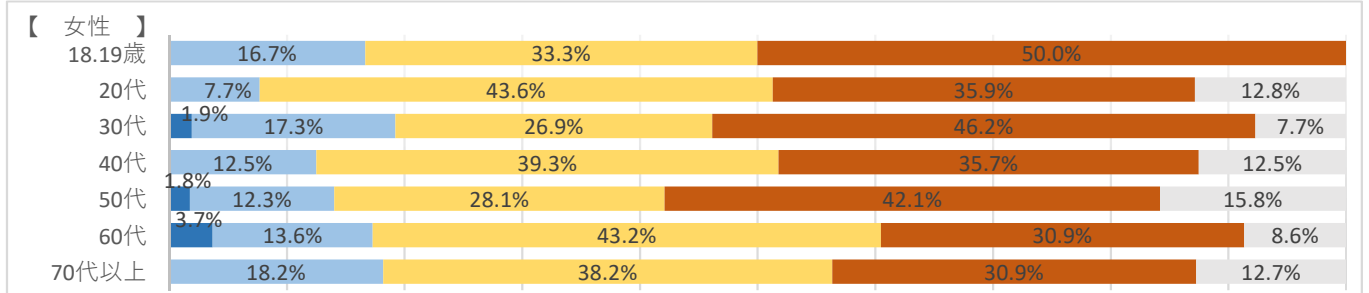
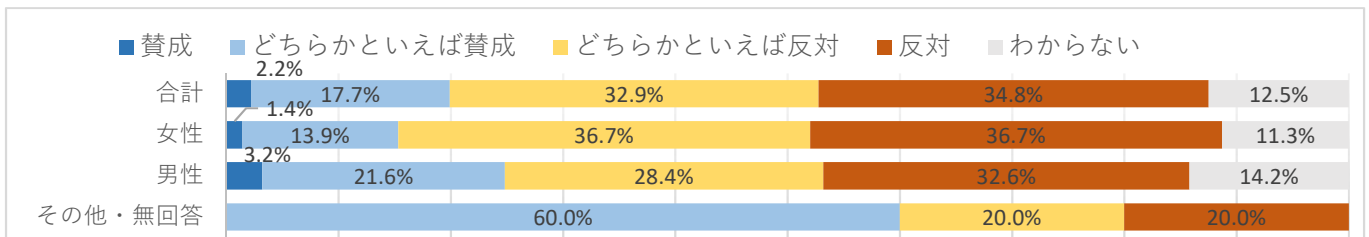
(6)PTA活動への参加

「主に女性」または「どちらかといえば女性」割合は46.6%となっている。
性別では、女性 58.8%、男性 31.1%で、27.7ポイントの差となっている。「男女平等」と回答する割合は、20.2%となり、男性の割合の方が、11.3ポイント女性よりも高い。



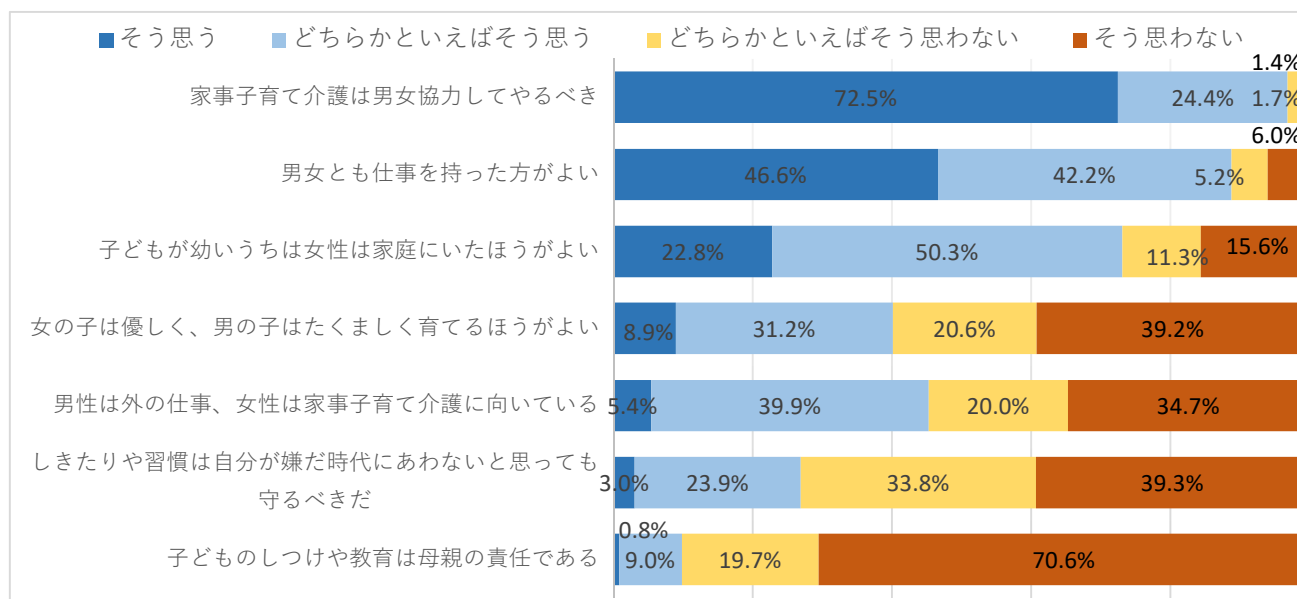
【問5】「男は仕事、女は家庭」という性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか
「反対」または「どちらかといえば反対」とする割合は、67.7%となっている。性別では、女性
73.4%、男性 61.0%で、12.4ポイントの差となっている。

「賛成」または「どちらかといえば賛成」とする割合は、70歳以上の男性と30代の女性が比較的高くなっている。



【問6】 次のような考え方について、どう思いますか

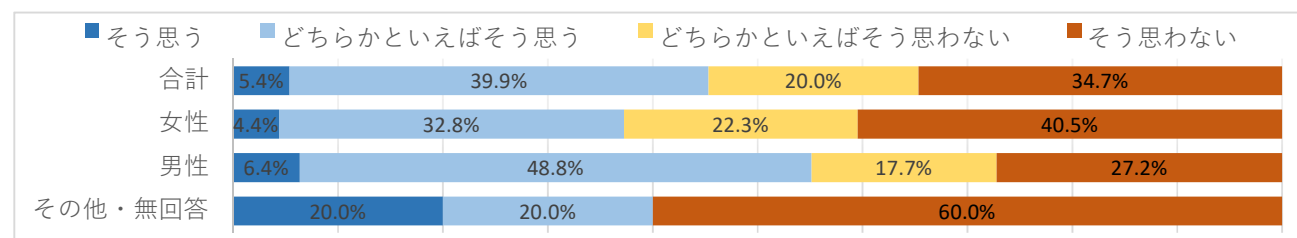
各調査項目の内、「家事、子育て介護は男女協力してやるべき」の割合が、最も高くなっていて、次に「男女とも仕事を持ったほうがよい」が高くなっている。



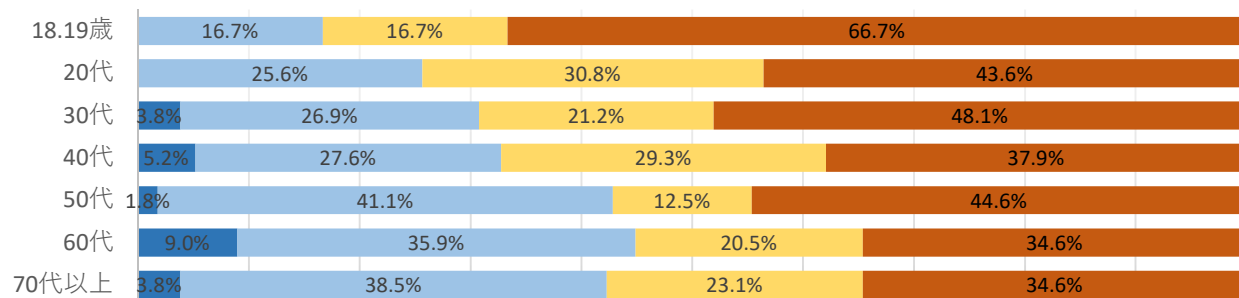
(1) 男性は外で仕事、女性は家事・子育て・介護に向いている

「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」とする割合は、54.7%となり、女性62.8%、男性44.9%、その他無回答60%となっている。

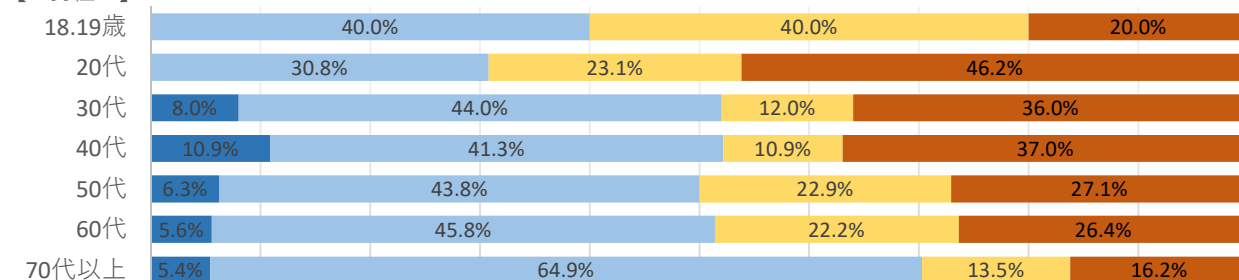
性別及び年代別では、女性の全ての年代において「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」割合が半数以上となっている。男性は18.19歳と20代は「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」の割合が高いが、30代以上になると同程度の割合となり、70歳以上では、「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」割合が「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」の割合を上回っている。



【 女性 】

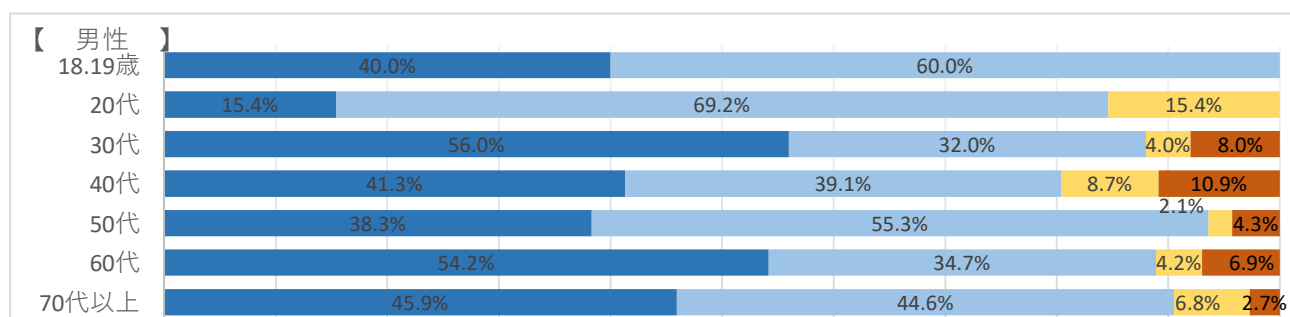
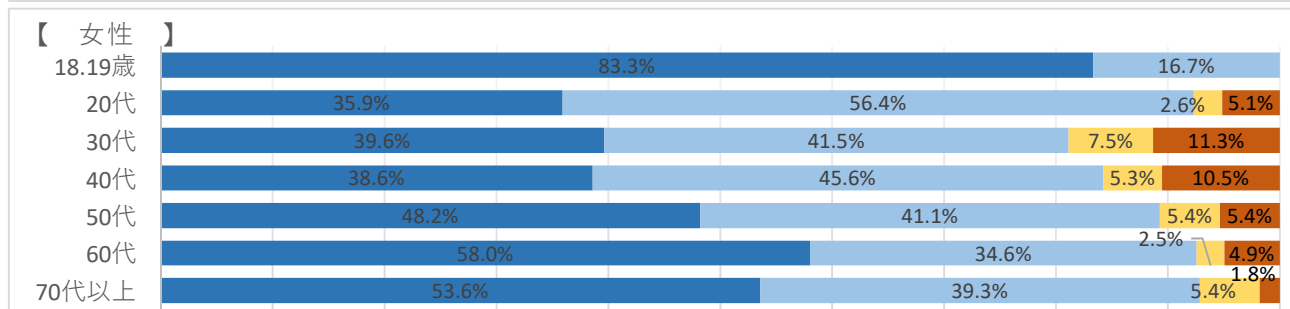
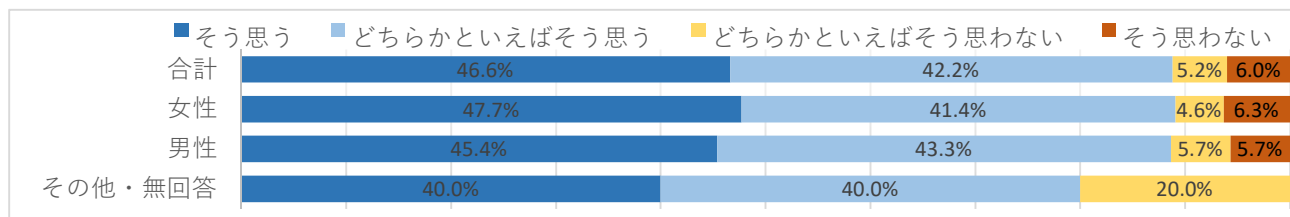


【 男性 】



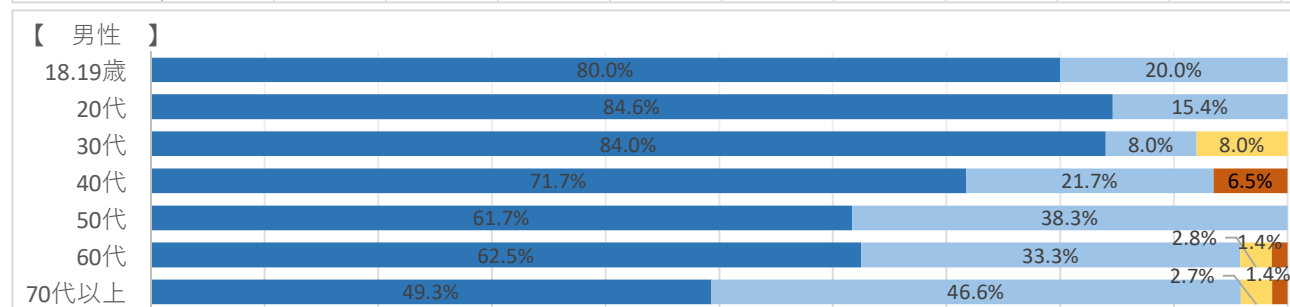
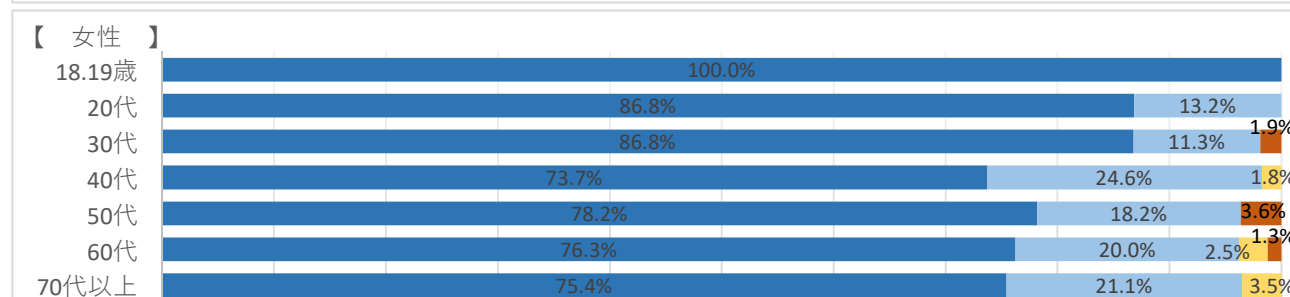
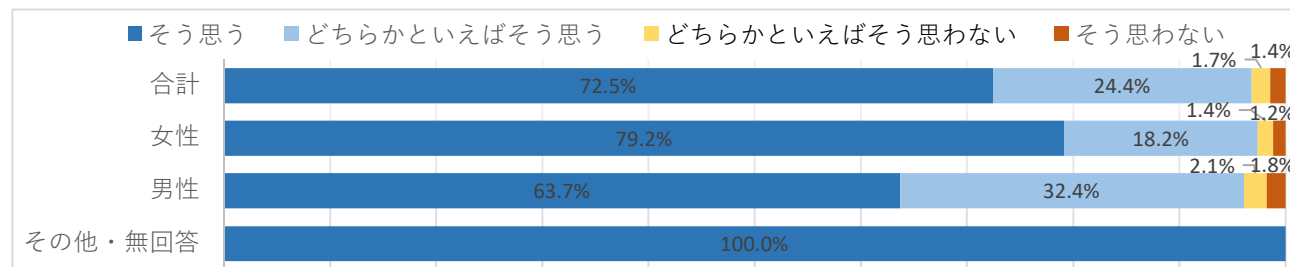
(2)男女とも仕事を持ったほうがよい

「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」とする割合は、88.8%となっている。性別では同程度の割合となっている。



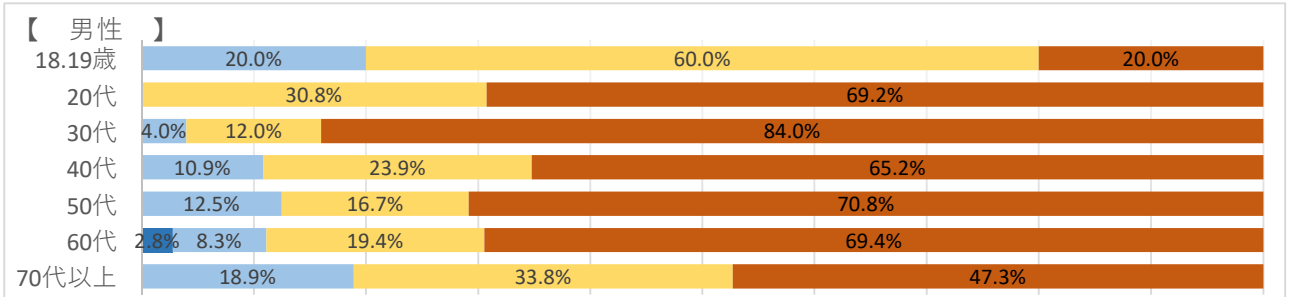
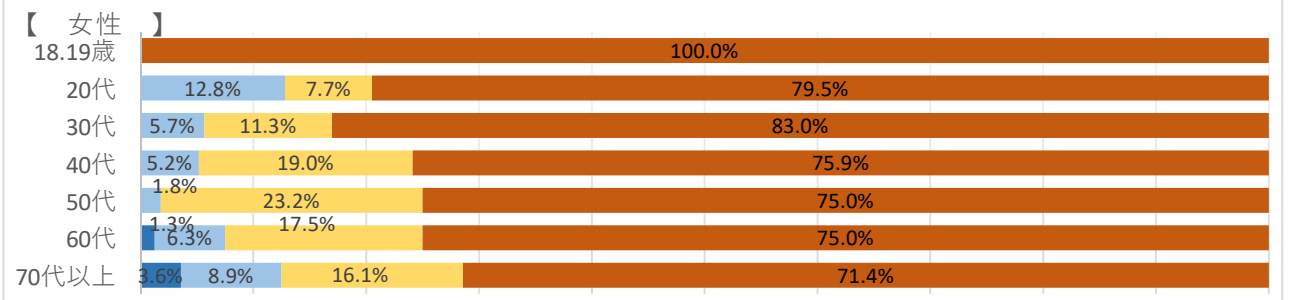
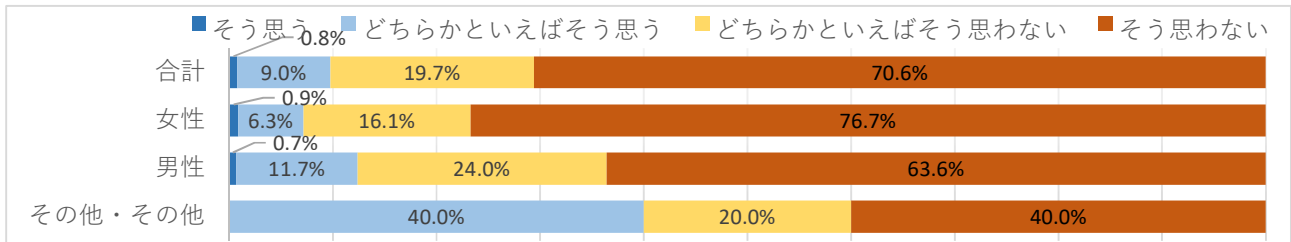
(3)家事・子育て・介護は男女が協力してやるべき

「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」とする割合は、96.9%となっている。性別では、全て高い割合となっている。



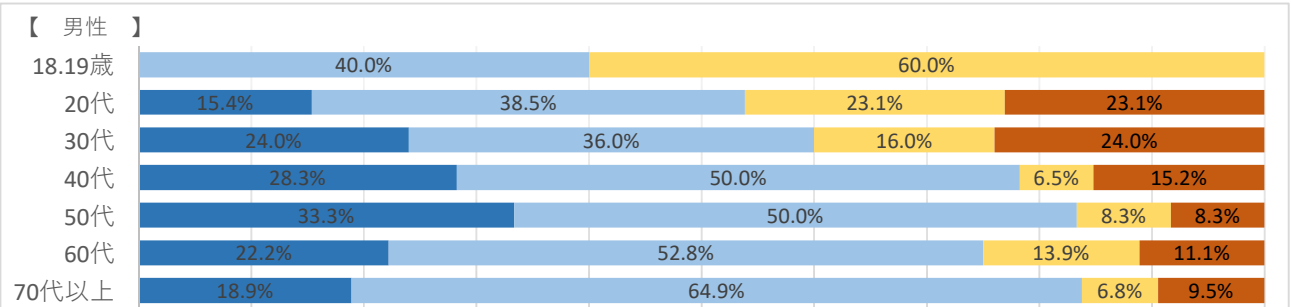
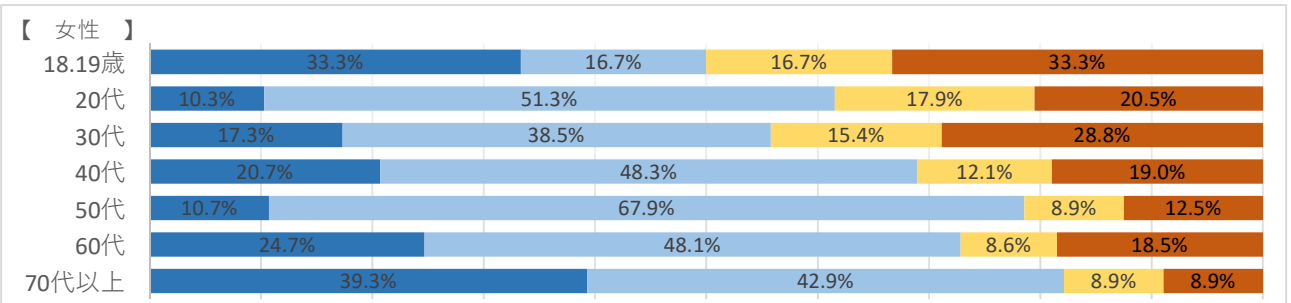
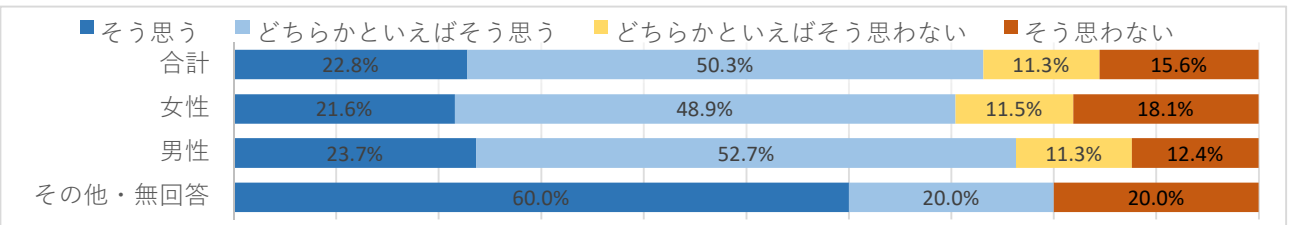
(4)子どものしつけや教育は母親の責任である

「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」とする割合は、90.3%となっている。
性別では、女性 92.8%、男性 87.6%となっている。



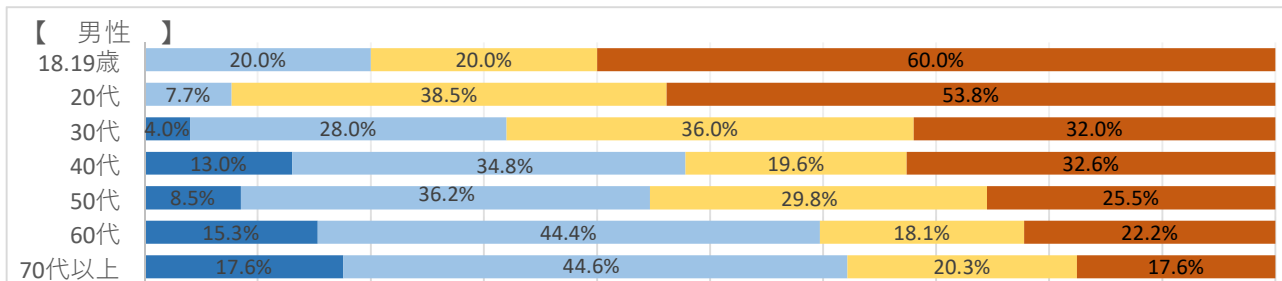
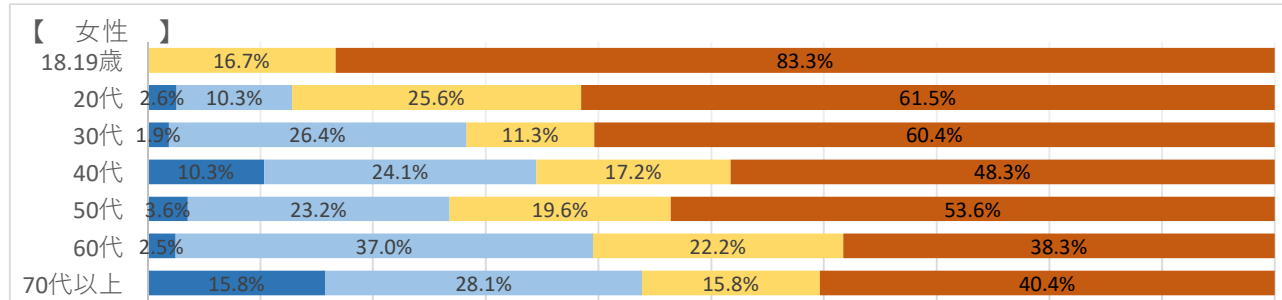
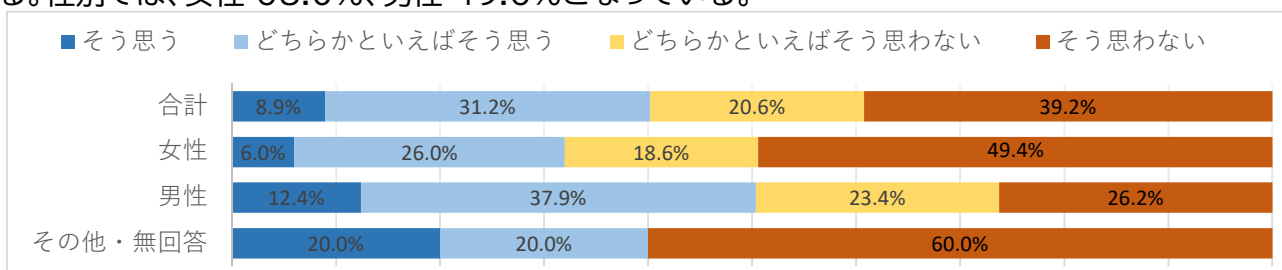
(5)子どもが幼いうちは、女性は家庭にいたほうがよい

「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」とする割合は、73.1%となっている。
性別では、女性 70.5%、男性 76.4%となっている。



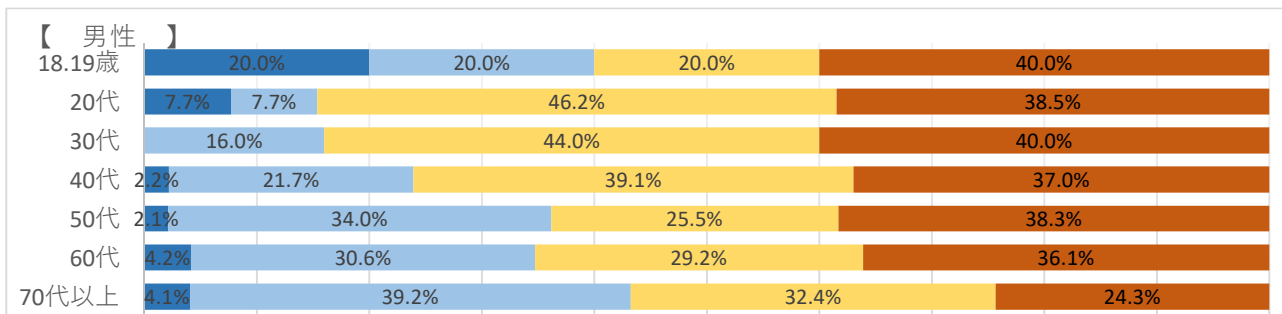
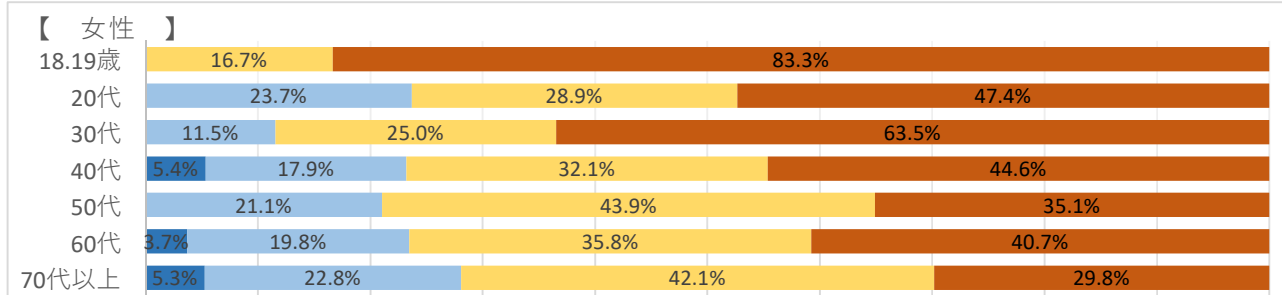
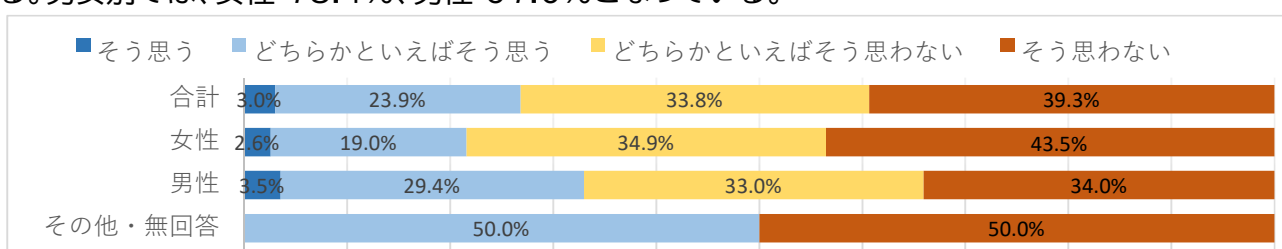
(6)子どもは女の子は優しく、男の子はたくましく育てたほうがよい

「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」とする割合は、59.8%となっている。性別では、女性 68.0%、男性 49.6%となっている。



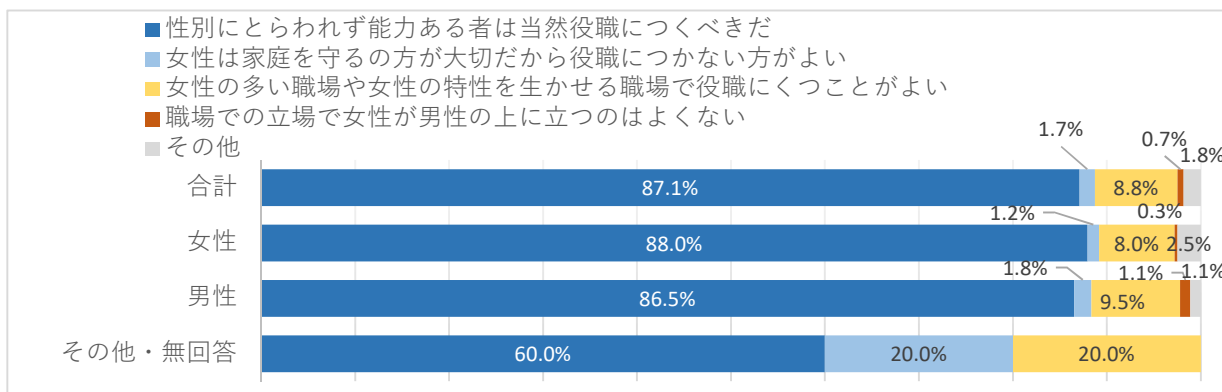
(7)しきたりや慣習は、自分が嫌だ、時代に合わないと思っても守るべきだ

「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」とする割合は、73.1%となっている。男女別では、女性 78.4%、男性 67.0%となっている。



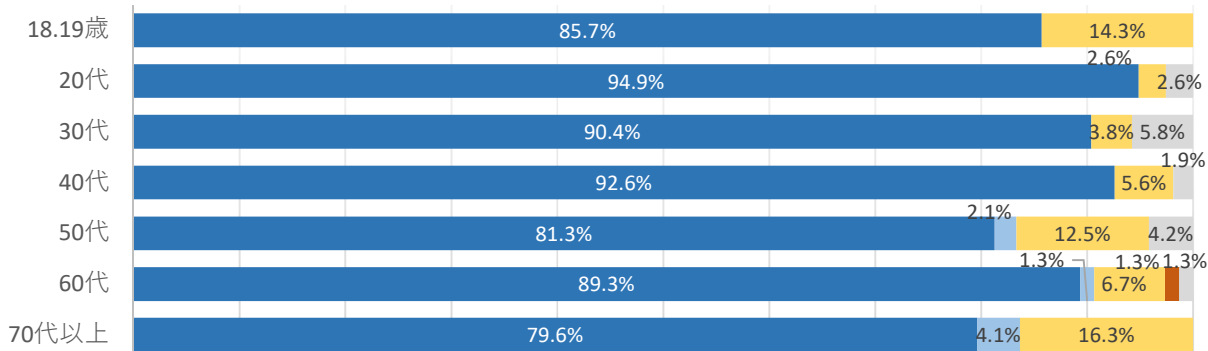
【問7】 女性が職場で役職につくことをどう思いますか

「性別にとらわれず能力があるものは当然役職につくべき」と回答する割合は、87.1%と最も高く、「女性の多い職場や女性の特性が生かせる職場で役職につくことがよい」が8.8%、「女性は「家庭を守る方が大切だから役職につかないほうがよい」が1.7%、「職場での立場で女性が男性の上に立つことはよくない」が0.7%となっている。



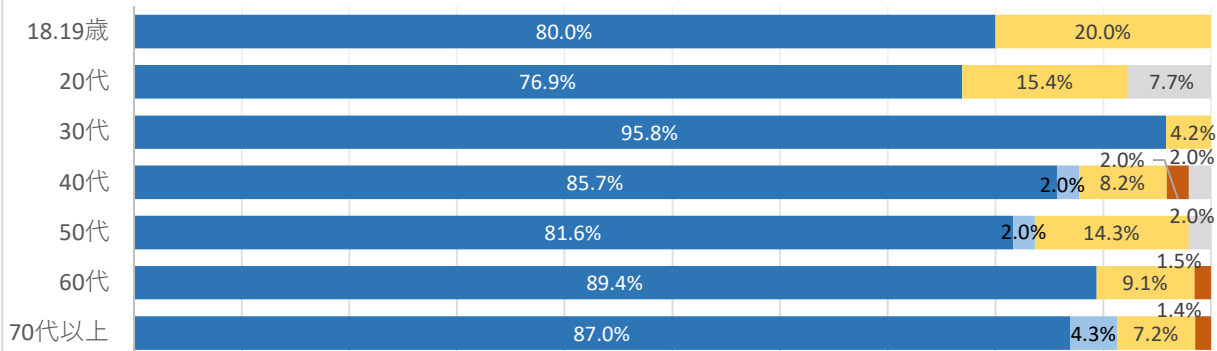
【 女性 】

- 性別にとらわれず能力ある者は当然役職につくべきだ
- 女性は家庭を守るの方が大切だから役職につかない方がよい
- 女性の多い職場や女性の特性を生かせる職場で役職につくことがよい
- 職場での立場で女性が男性の上に立つのはよくない
- その他



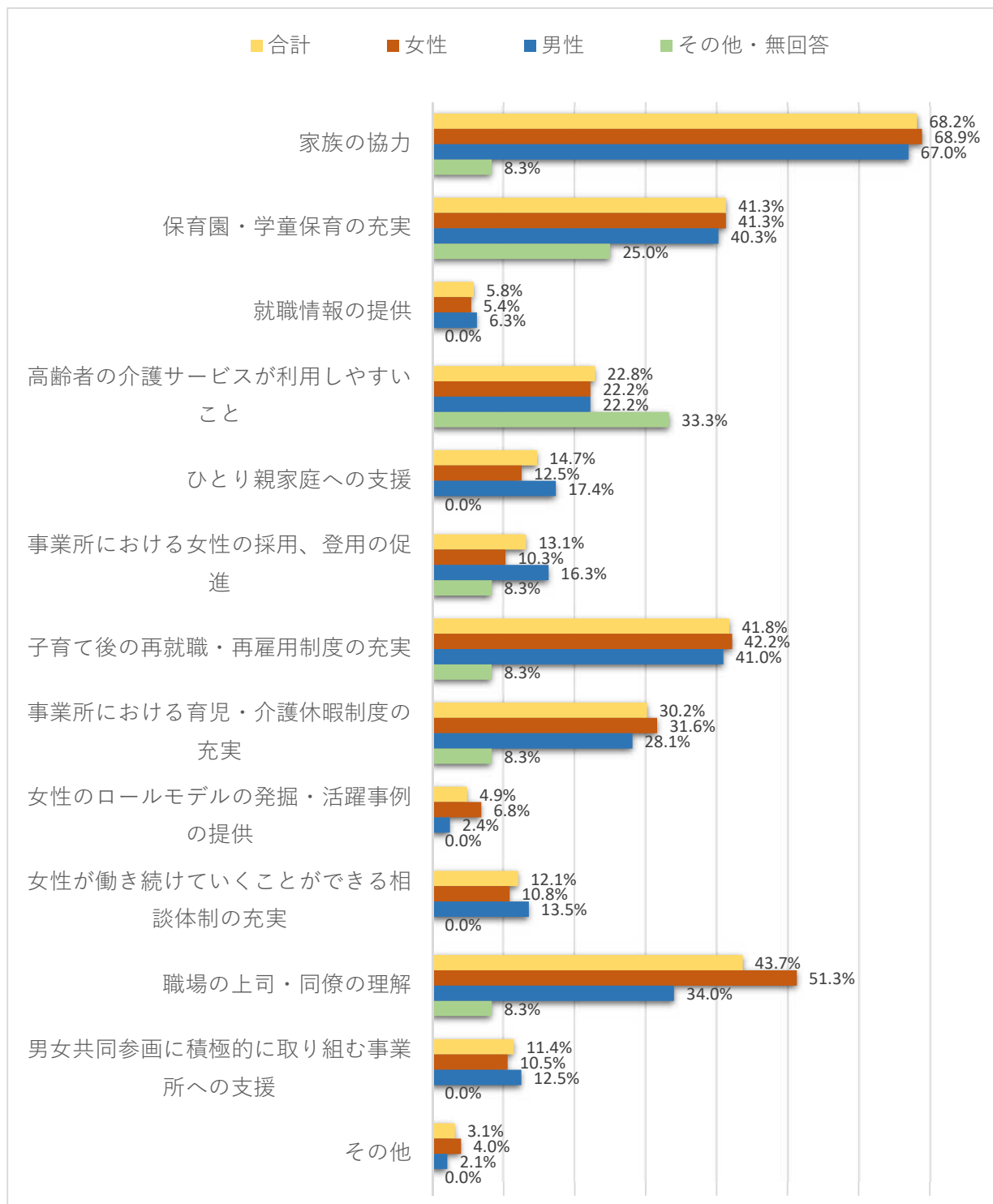
【 男性 】

- 性別にとらわれず能力ある者は当然役職につくべきだ
- 女性は家庭を守るの方が大切だから役職につかない方がよい
- 女性の多い職場や女性の特性を生かせる職場で役職につくことがよい
- 職場での立場で女性が男性の上に立つのはよくない
- その他



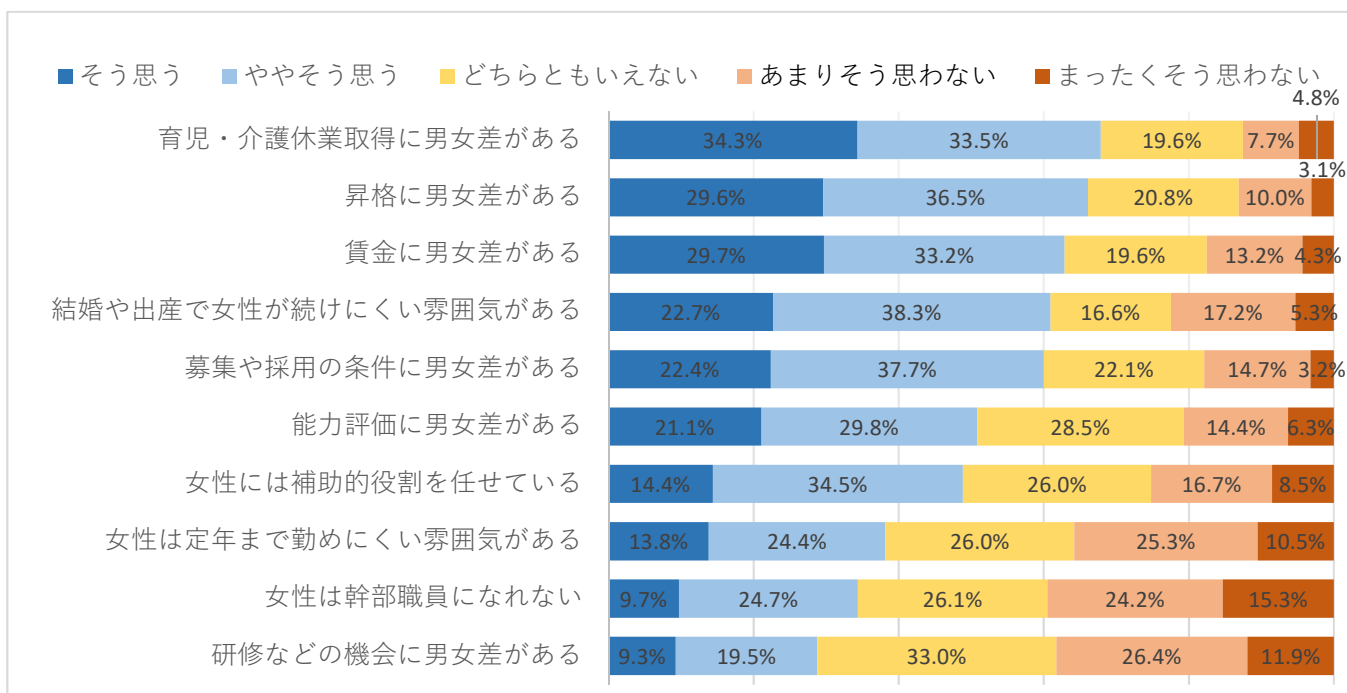
【問8】 女性が生涯にわたり仕事を続けるためには、どんな支援が必要だと思いますか
(3つまで選んで回答)

「家族の協力」が68.2%と最も高く、「職場の上司、同僚の理解」43.7%、「子育て後の再就職、再雇用制度の充実」が41.8%となっている。



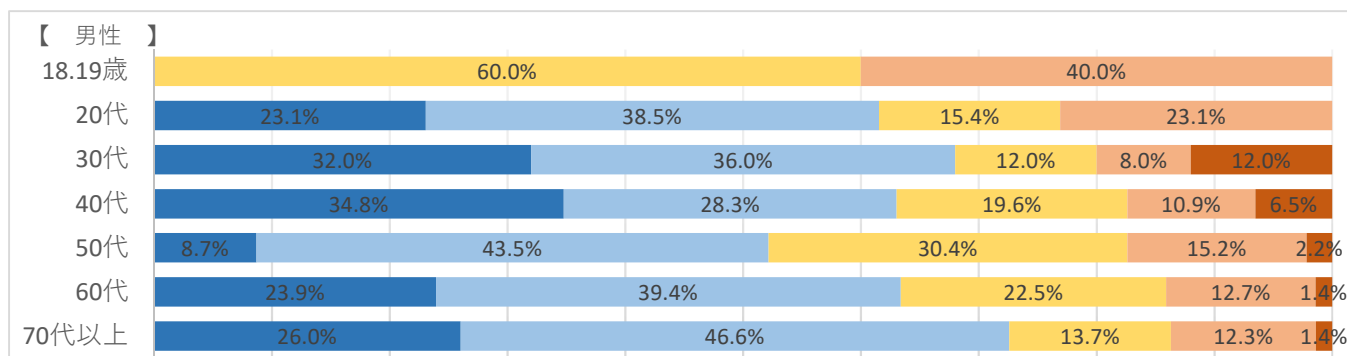
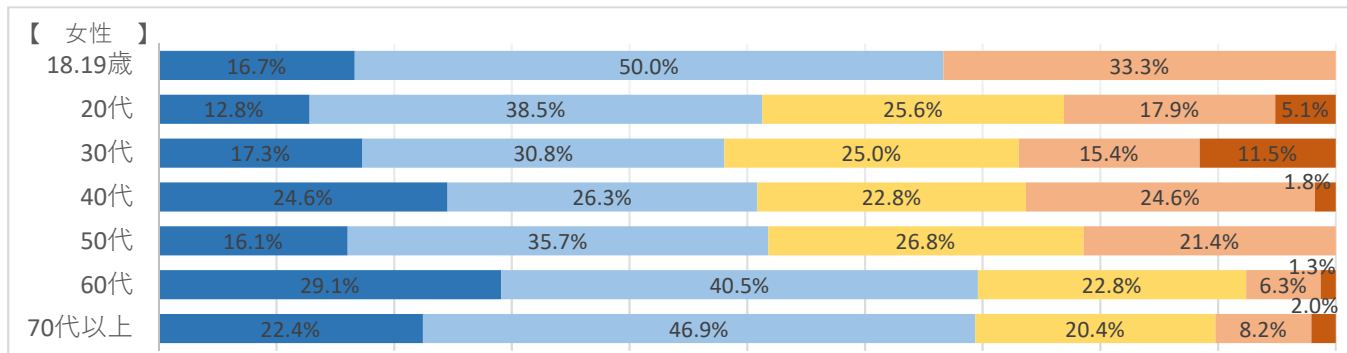
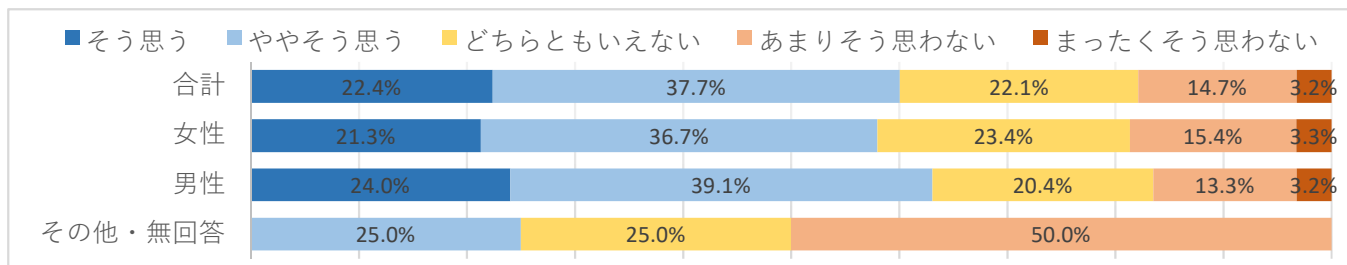
【問9】働く場において、仕事の内容や待遇について男女差があると思いますか

調査項目の内、「そう思う」と回答した割合は、「育児・介護休業取得に男女差がある」について最も高くなっていて、次に「賃金に男女差がある」の割合が高くなっている。



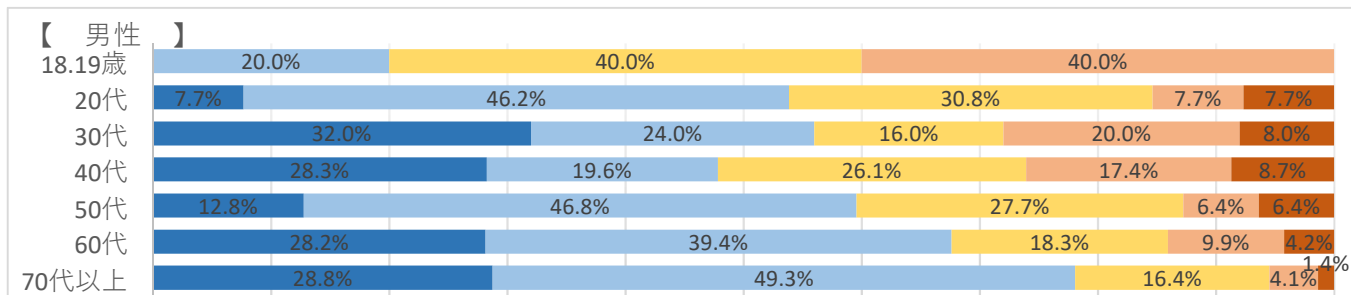
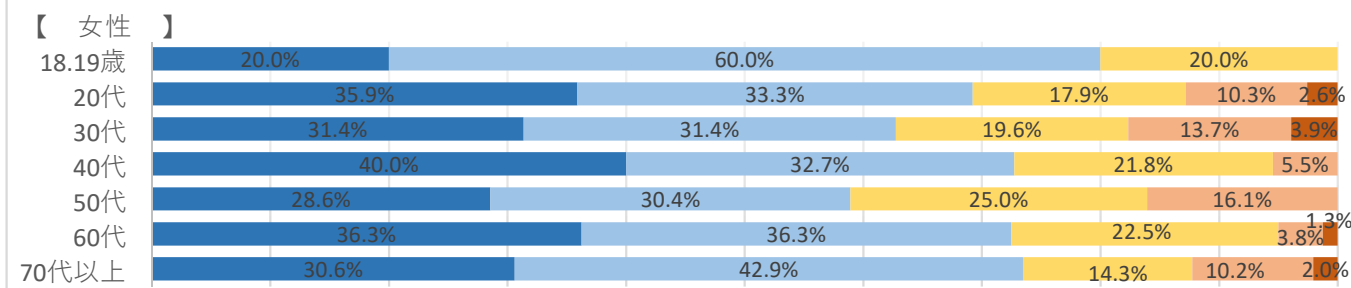
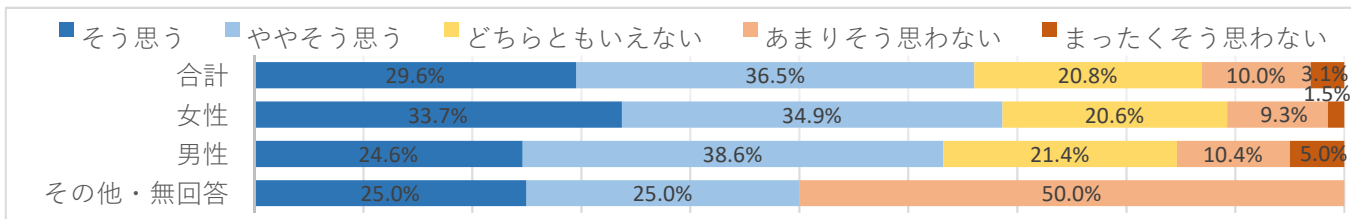
(1) 募集や採用の条件に男女差がある

「そう思う」または「ややそう思う」とする割合は、60.1%となっている。
性別では、女性 58.0%、男性 63.1%となっている。



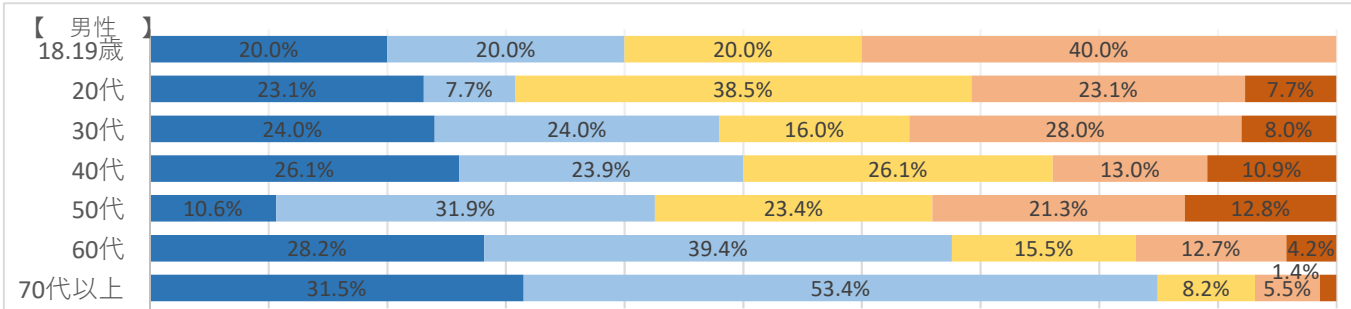
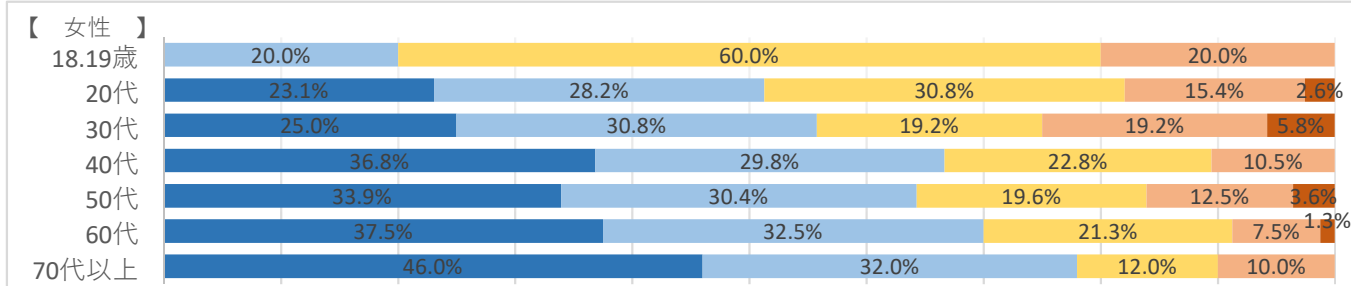
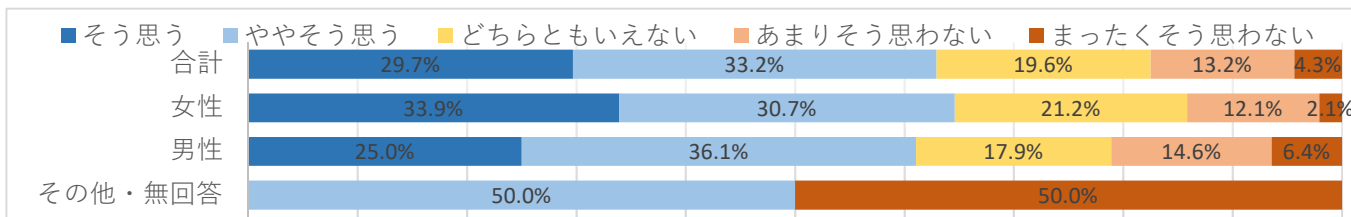
(2)昇格に男女差がある

「そう思う」または「ややそう思う」とする割合は66.1%となり、女性 68.6%、男性 63.2%、その他無回答50%となっている。年代別では、女性は「そう思う」または「ややそう思う」を合わせた割合がどの年代においても同程度に対し、男性は年代が上がるほど割合が高い傾向となっている。



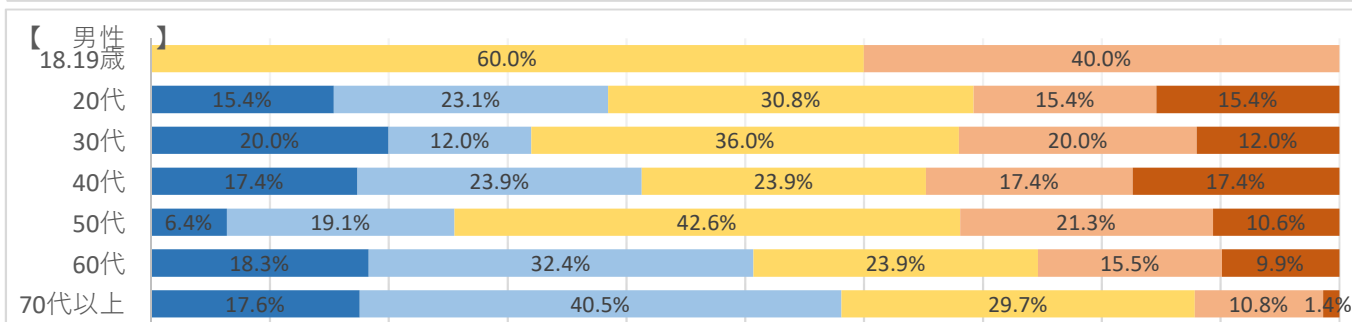
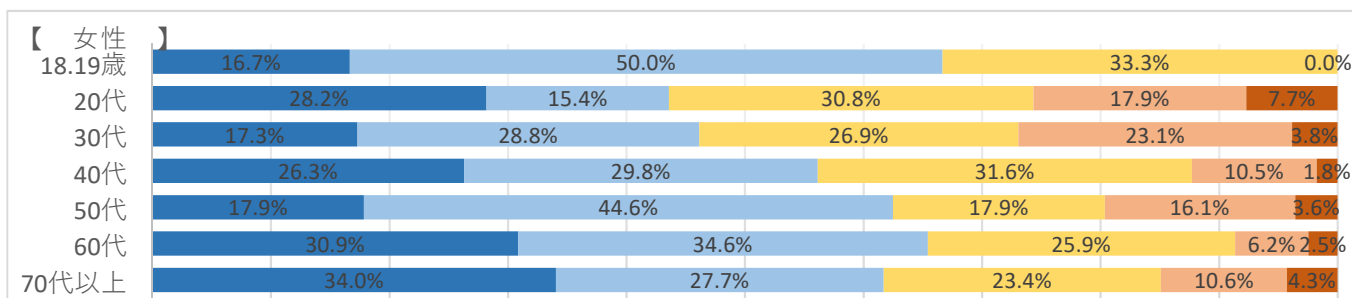
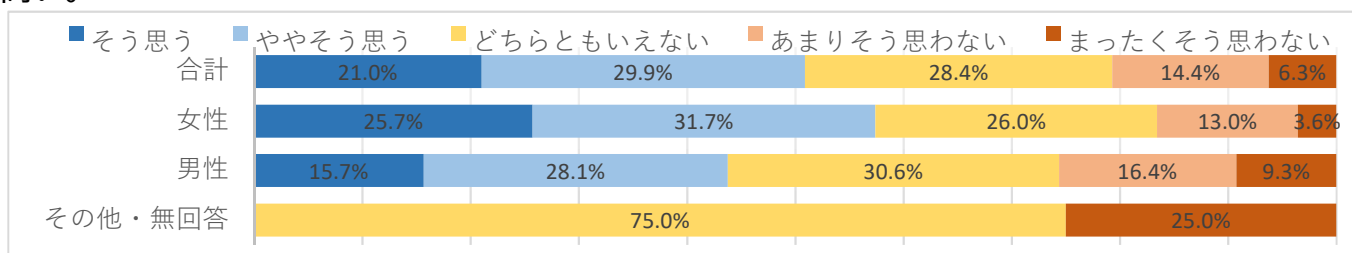
(3)賃金に男女差がある

「そう思う」または「ややそう思う」とする割合は62.9%となり、女性 64.6%、男性 61.1%となっている。年代別では、女性は「そう思う」または「ややそう思う」の割合が年齢があがると同時に高い傾向となっている。男性もやや同じ傾向がみられるが、「あまりそう思わない」または「まったくそう思わない」とする回答の割合が女性よりも高い。



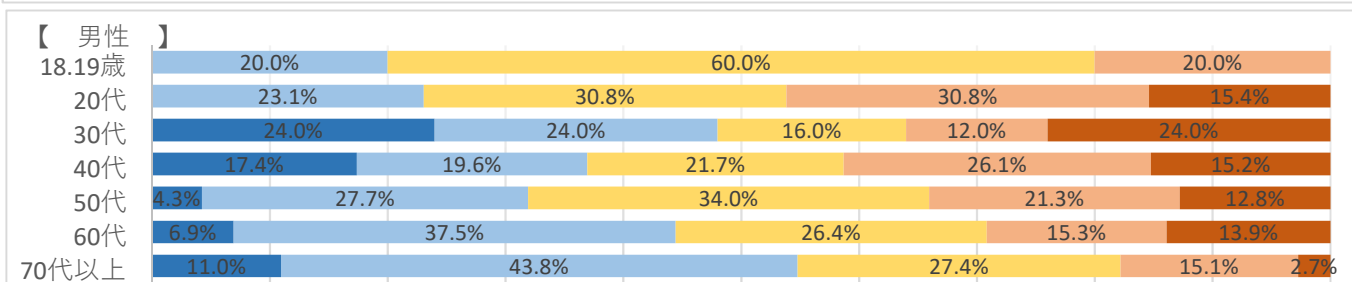
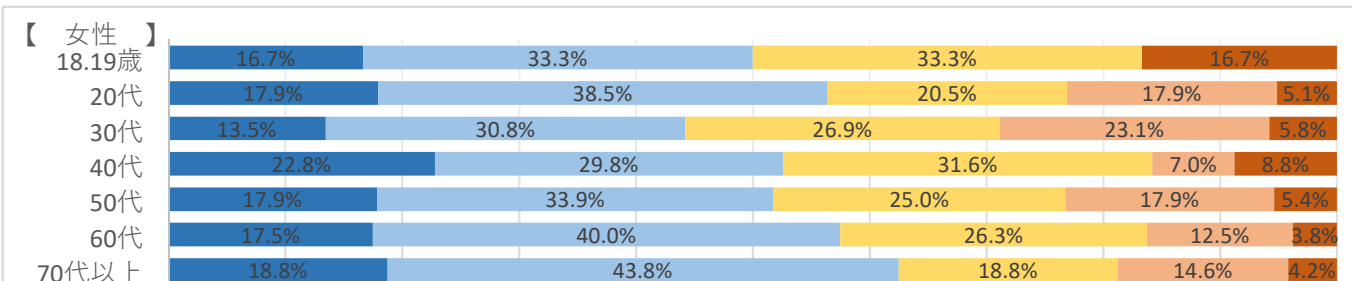
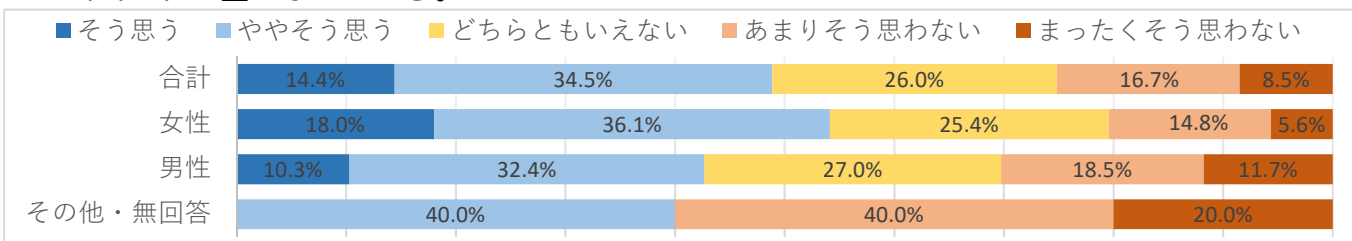
(4)能力評価に男女差がある

「そう思う」または「ややそう思う」とする割合は50.9%となり、女性 57.4%、男性 43.8%となっている。男性のほうが、「どちらともいえない」または「あまりそう思わない」と回答する割合が高い。



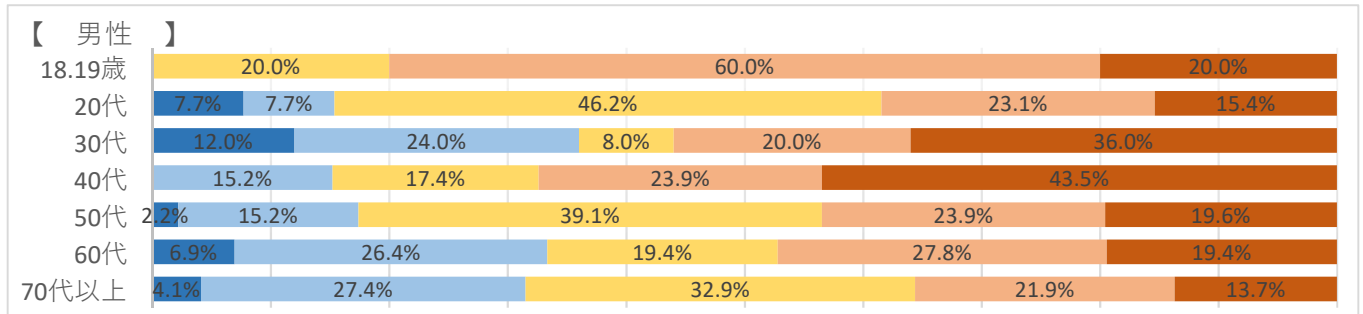
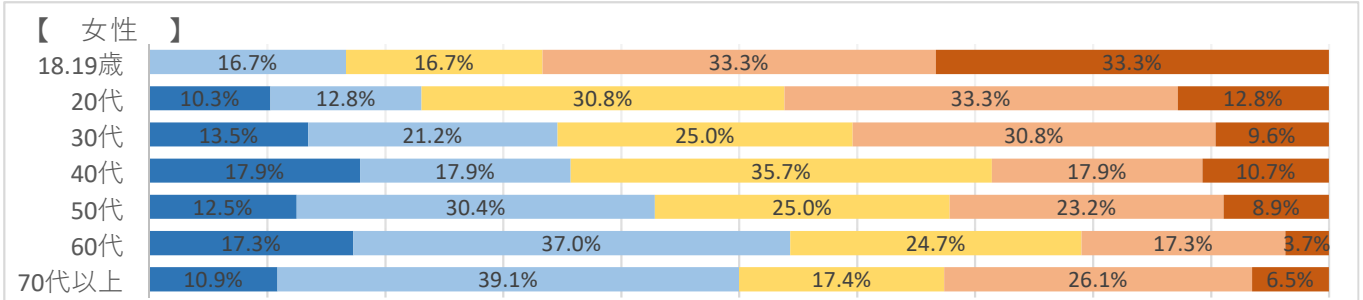
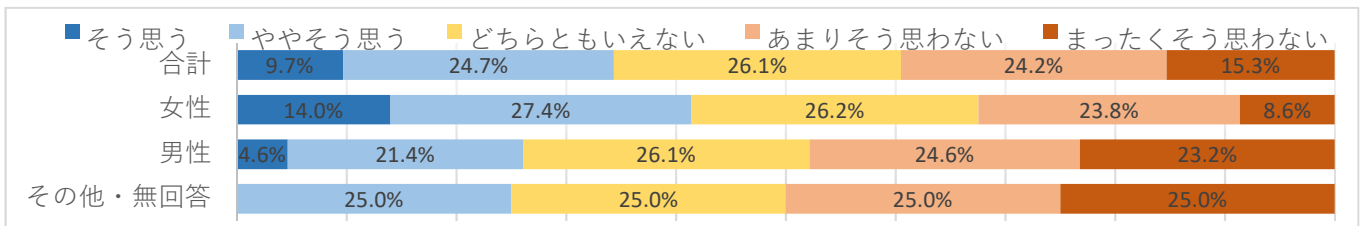
(5)女性には補助的な役割を任せている

「そう思う」または「ややそう思う」とする割合は48.9%となり、女性 54.1%、男性 42.7%で、11.4ポイントの差となっている。



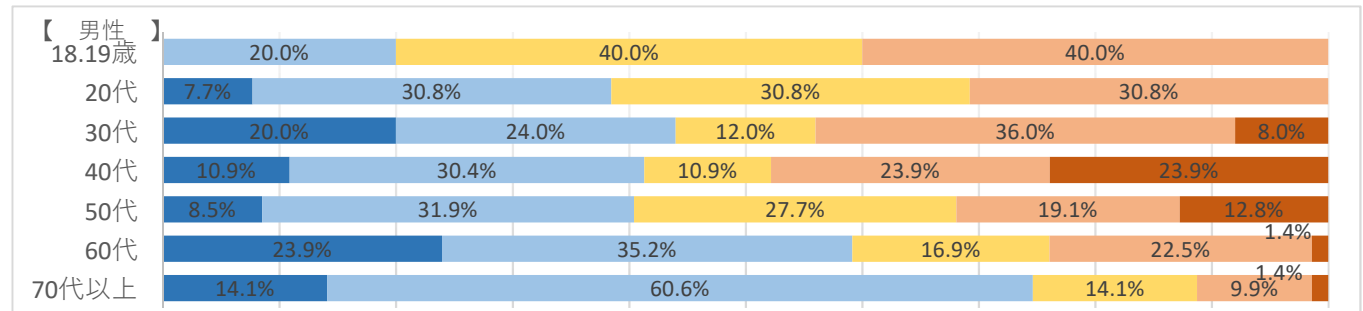
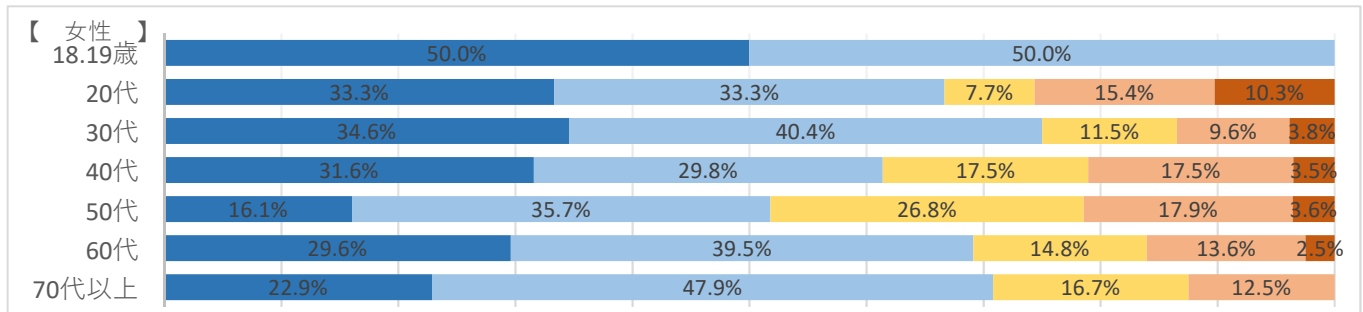
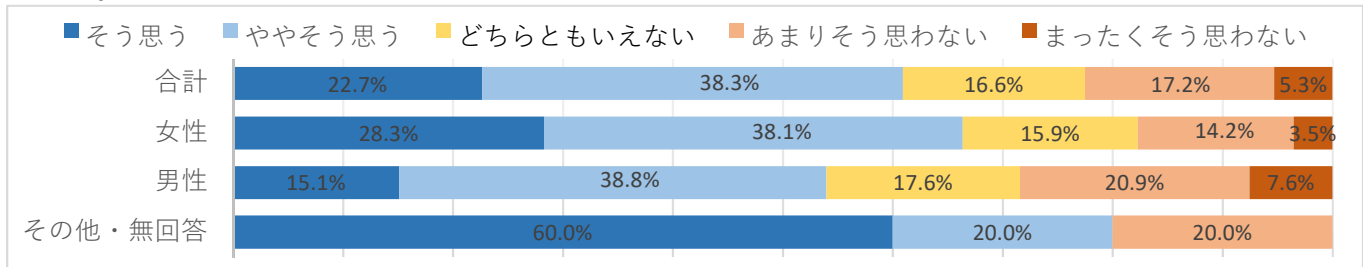
(6) 女性は幹部職員になれない

「そう思う」または「ややそう思う」とする割合は34.4%となり、女性 41.4%、男性 26%で、15.4ポイントの差となっている。



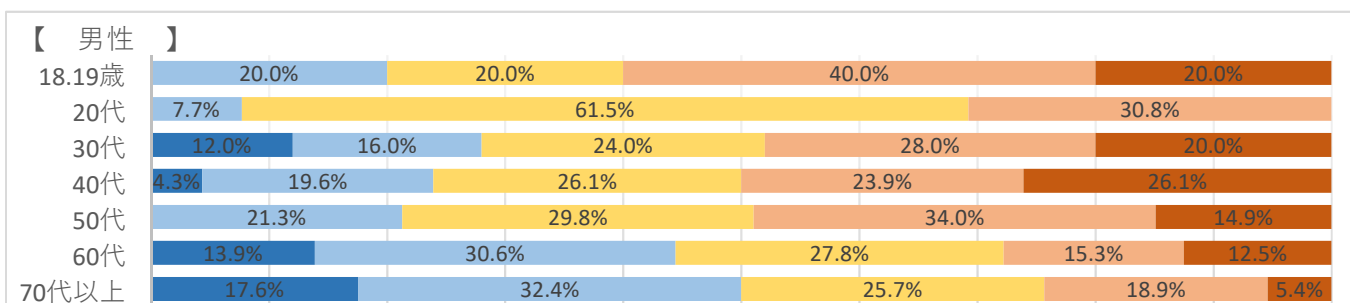
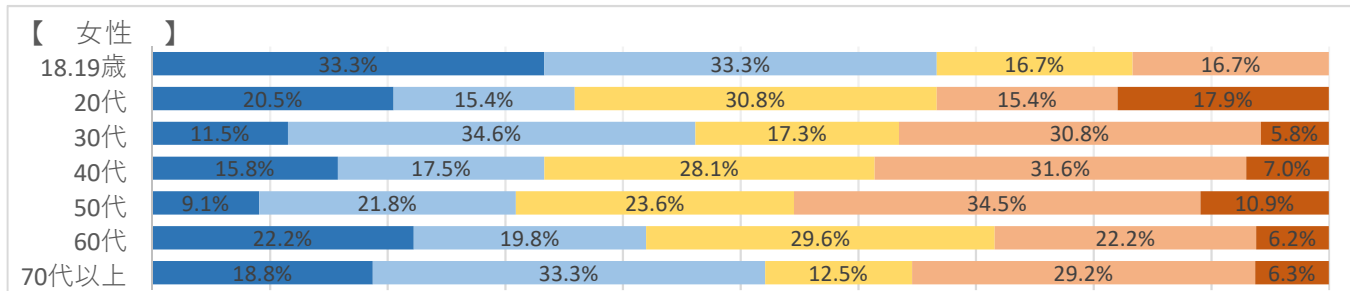
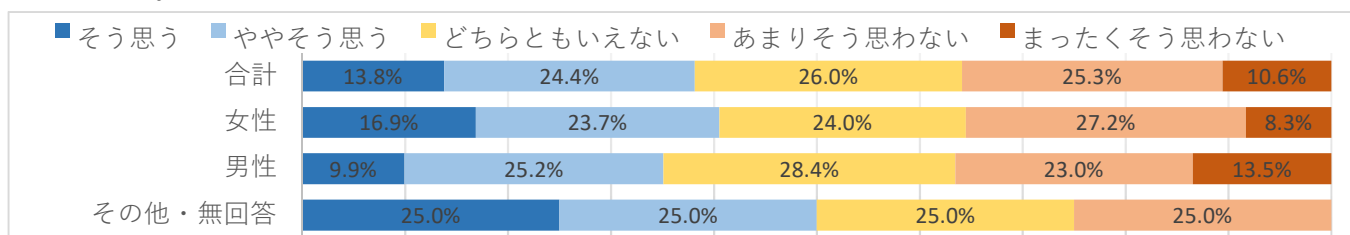
(7) 結婚したり子どもが生まれたりすると女性が続けにくい雰囲気がある

「そう思う」または「ややそう思う」とする割合は61%となり、女性 66.4%、男性 53.9%となっている。



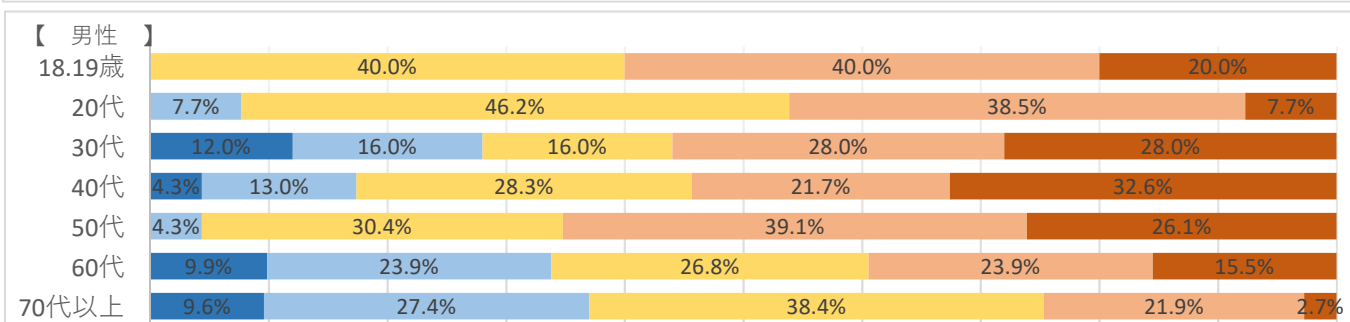
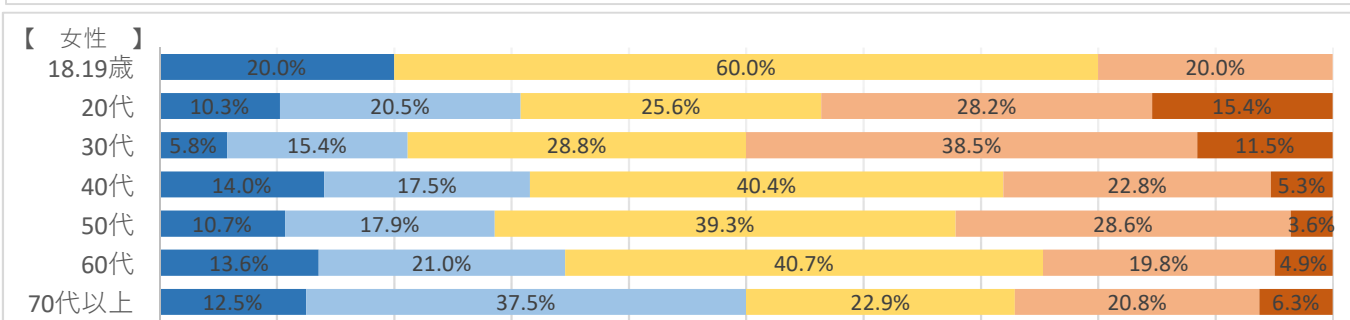
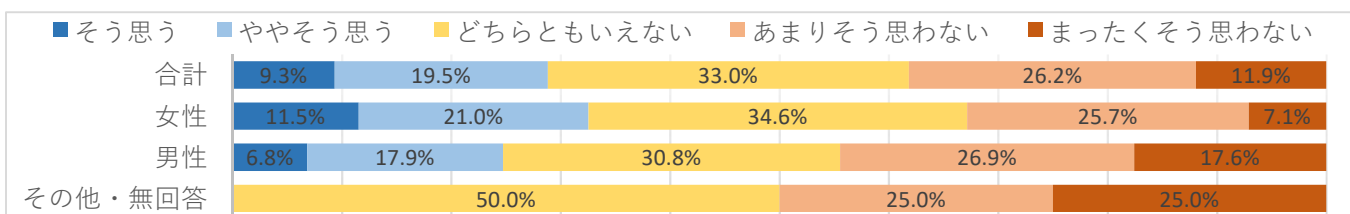
(8) 女性は定年まで勤め続けにくい雰囲気がある

「そう思う」または「ややそう思う」とする割合は38.2%となり、女性 40.6%、男性 35.1%となっている。



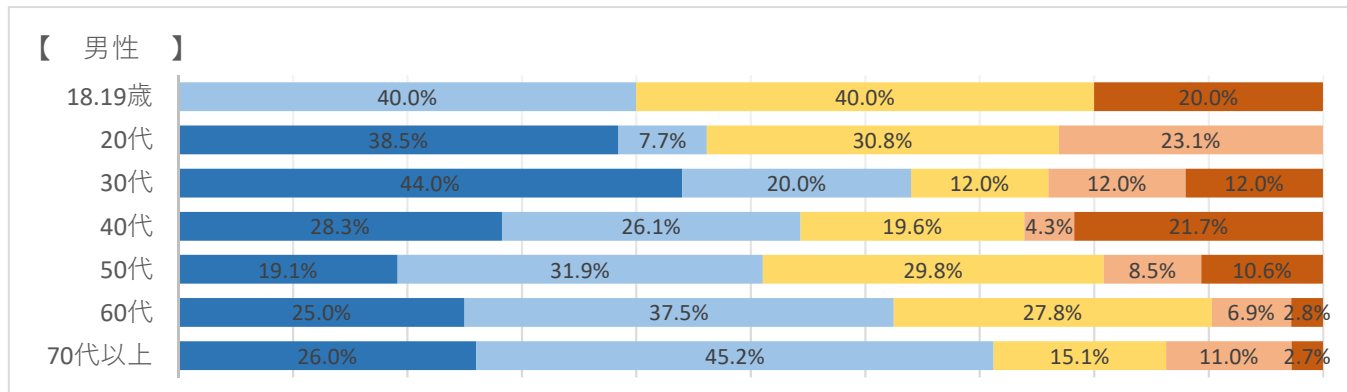
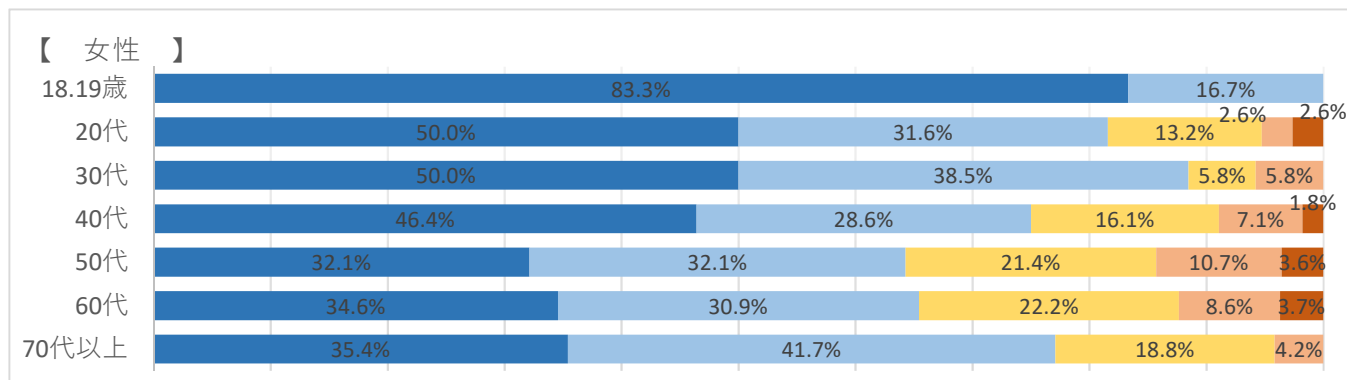
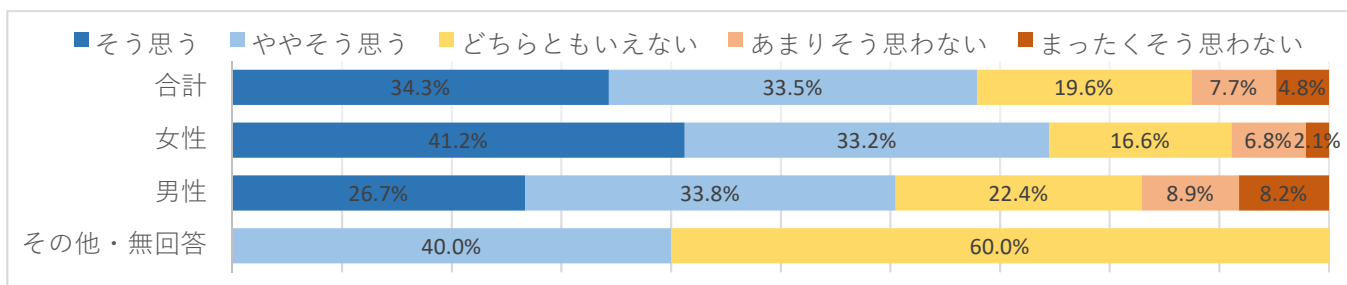
(9) 研修などスキルアップのための機会に男女差がある

「あまりそう思わない」または「まったくそう思わない」とする割合は38.1%となり、女性 32.8%、男性 44.5%で、11.7ポイントの差となっている。



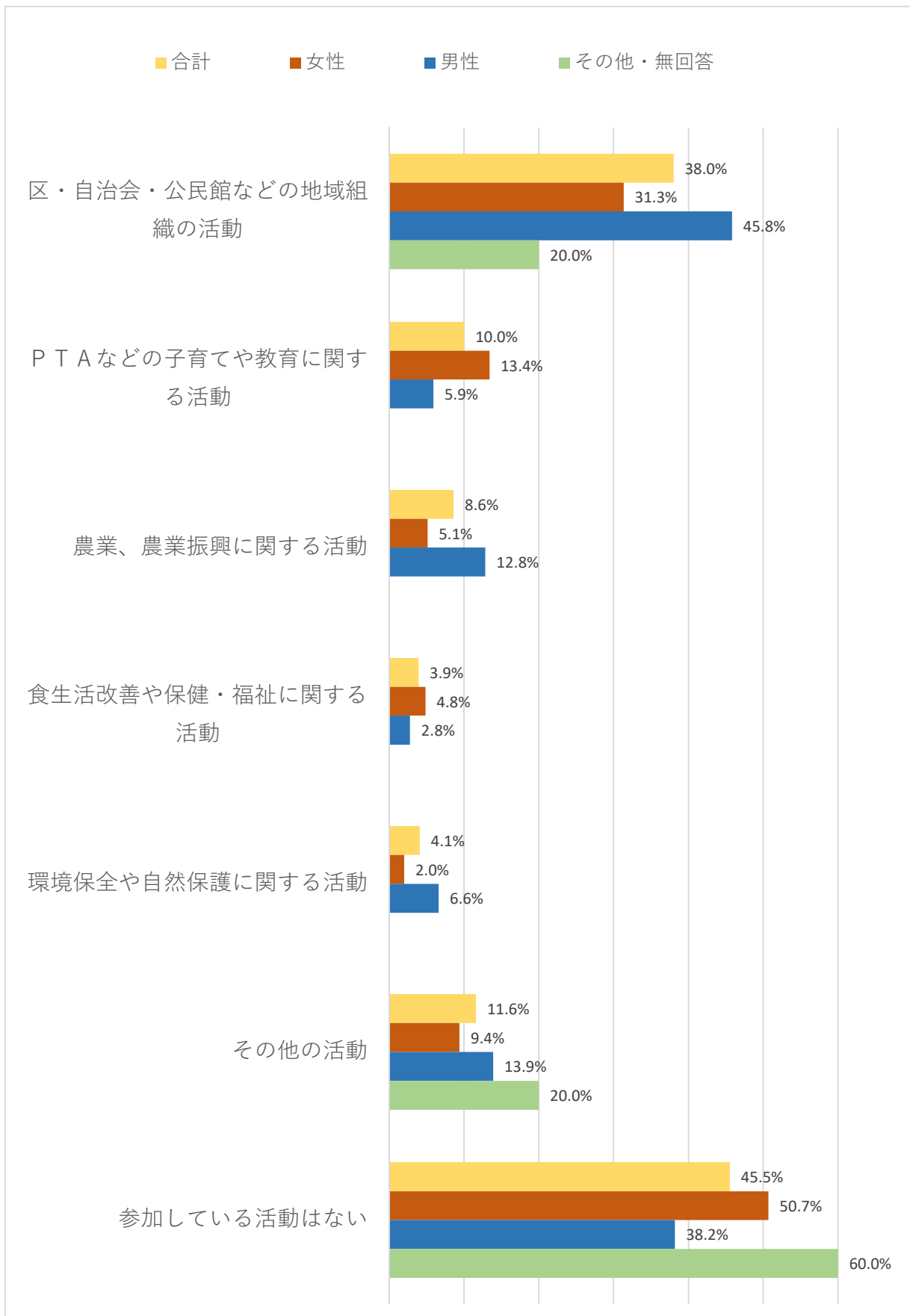
(10) 育児休業、介護休業の取得に男女差がある

「そう思う」または「ややそう思う」とする割合は67.8%となり、女性 74.4%、男性 60.5%で、13.9ポイントの差となっている。



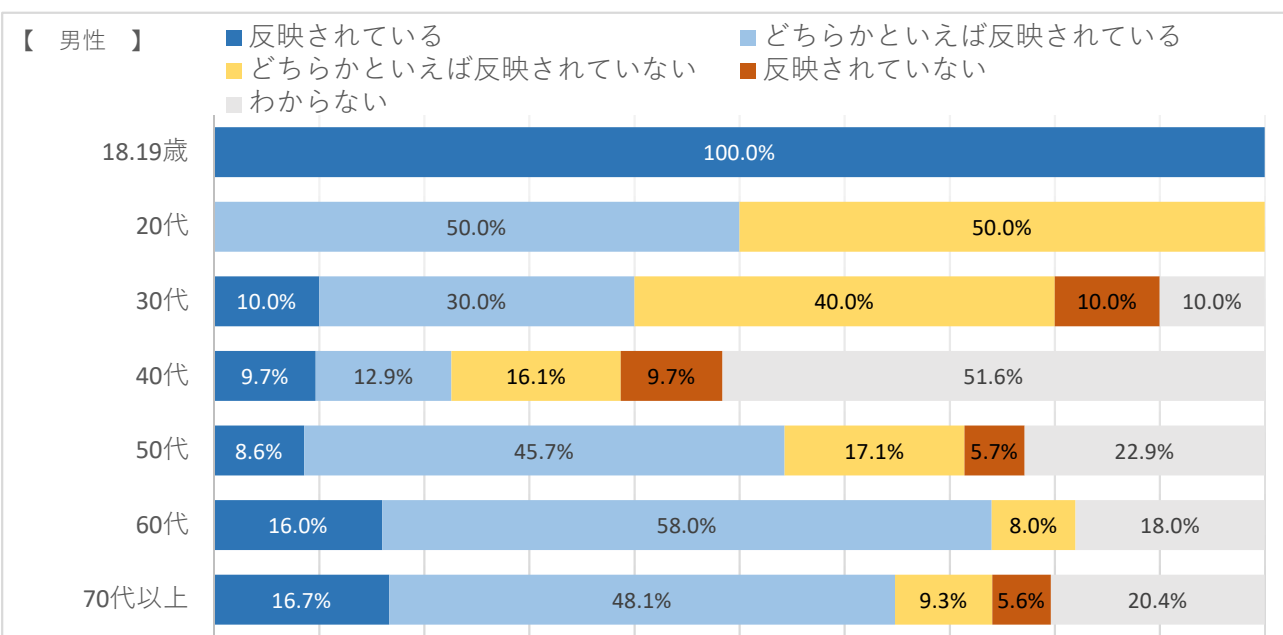
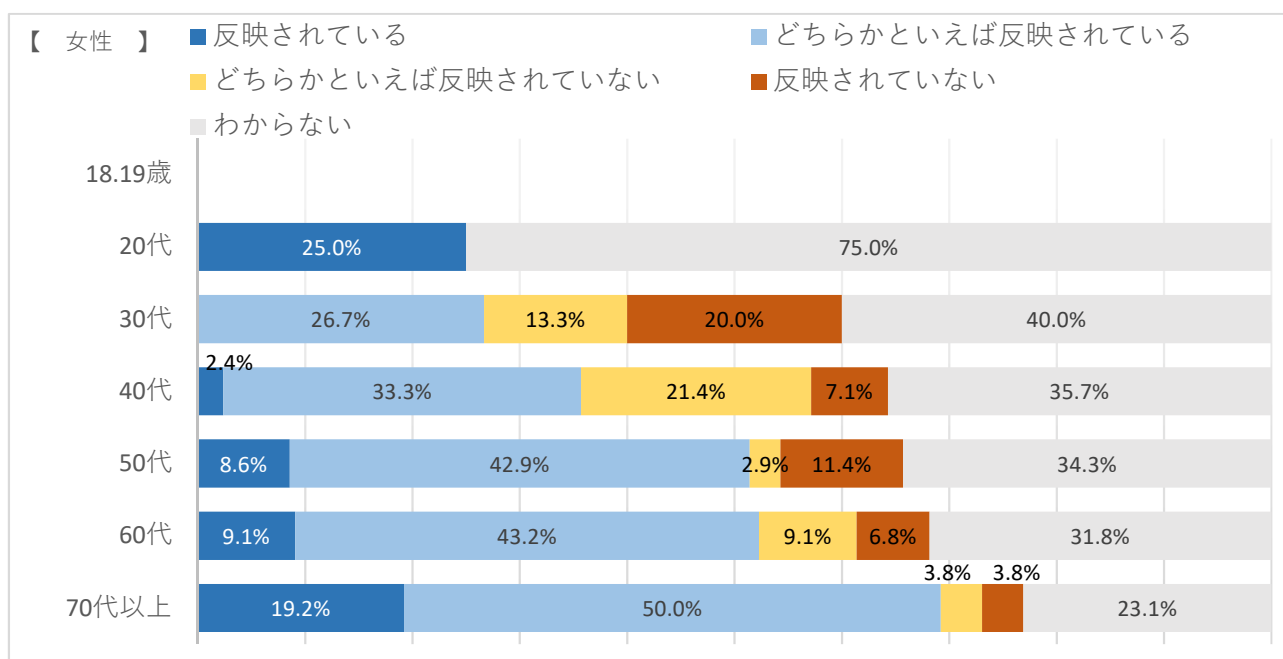
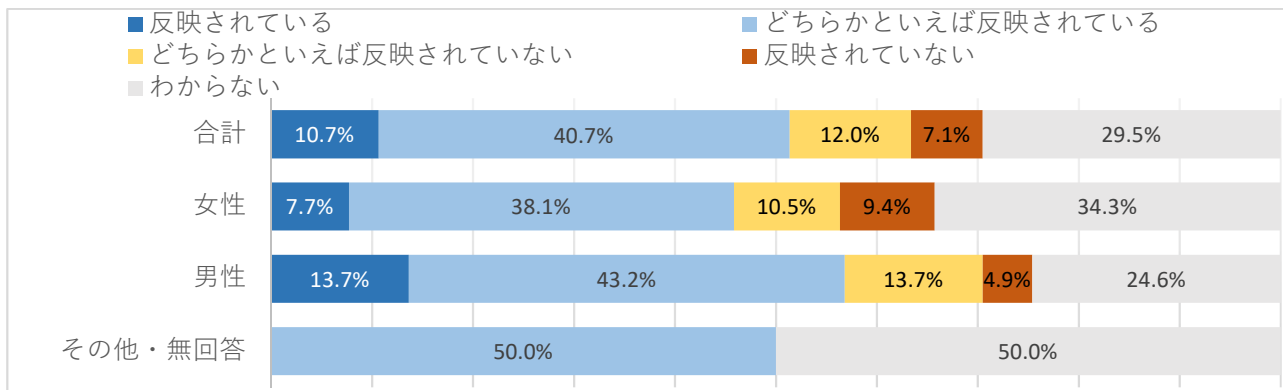
【問10】現在参加している活動についてお尋ねします(複数回答)

「区、自治会、公民館などの地域組織の活動」に参加している割合は、女性31.3%、男性45.8%となっている。「参加している活動はない」割合は、女性50.7%、男性38.2%となっている。



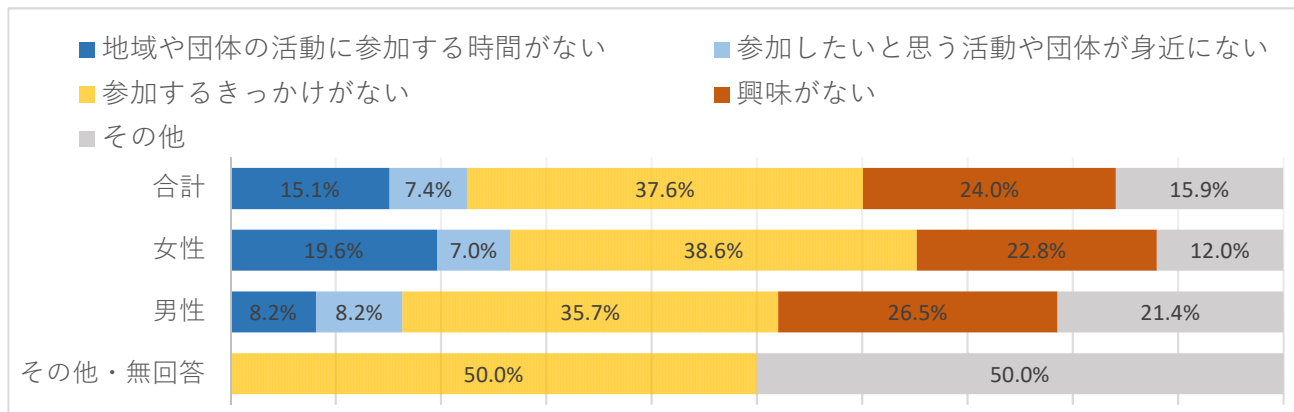
【問11】 参加している団体の活動方針や方策に自分の意見は反映されていると思いますか

「反映されている」または「どちらかといえば反映されている」とする割合は、51.4%となっている。性別では、女性45.8%、男性56.9%となっている。(n=366)



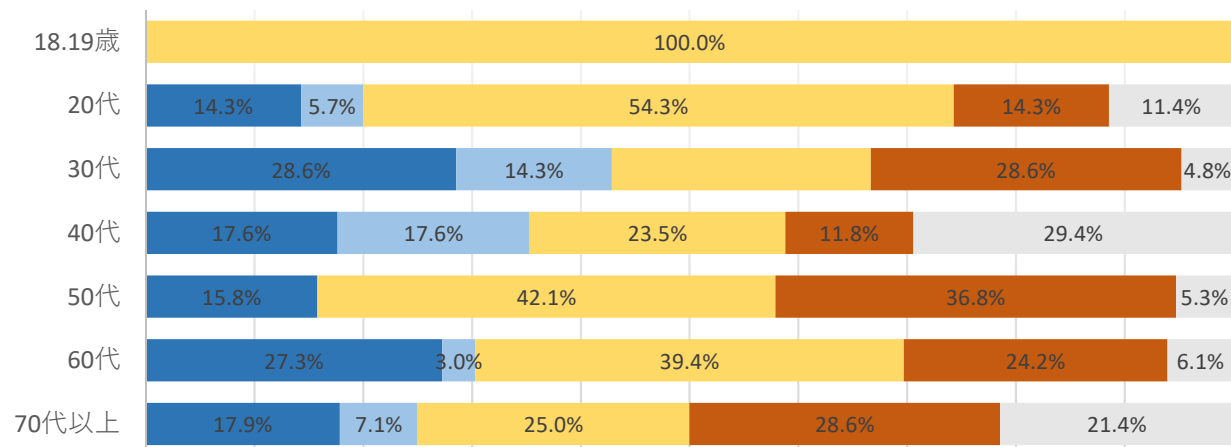
【問12】 参加していない理由は何ですか

「参加するきっかけがないから」の割合が最も高くなっている。
 「地域や団体の活動に参加する時間がない」の割合は、女性19.6%、男性8.2%となっている。
 (n=258)



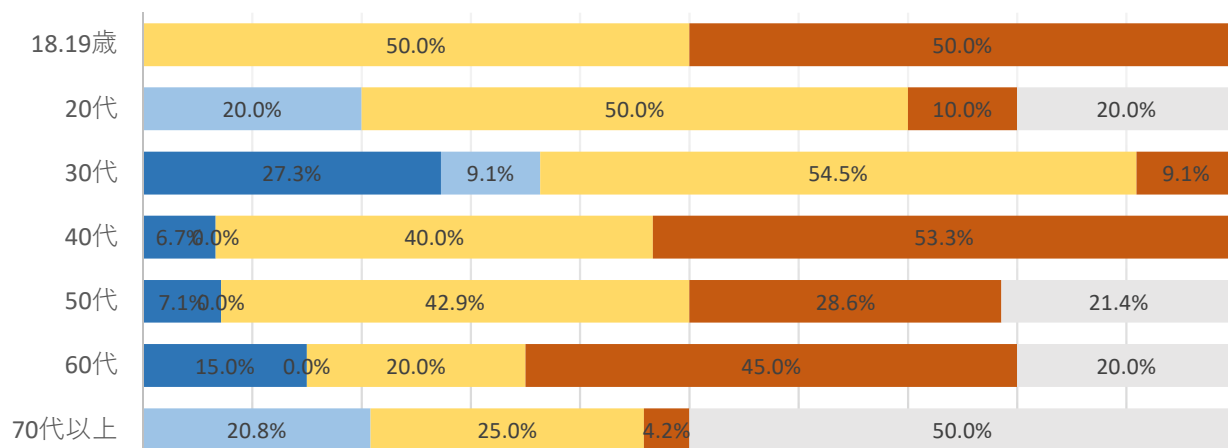
【 女性 】

■ 地域や団体の活動に参加する時間がない
 ■ 参加したいと思う活動や団体が身近にない
 ■ 参加するきっかけがない
 ■ 興味がない
 ■ その他



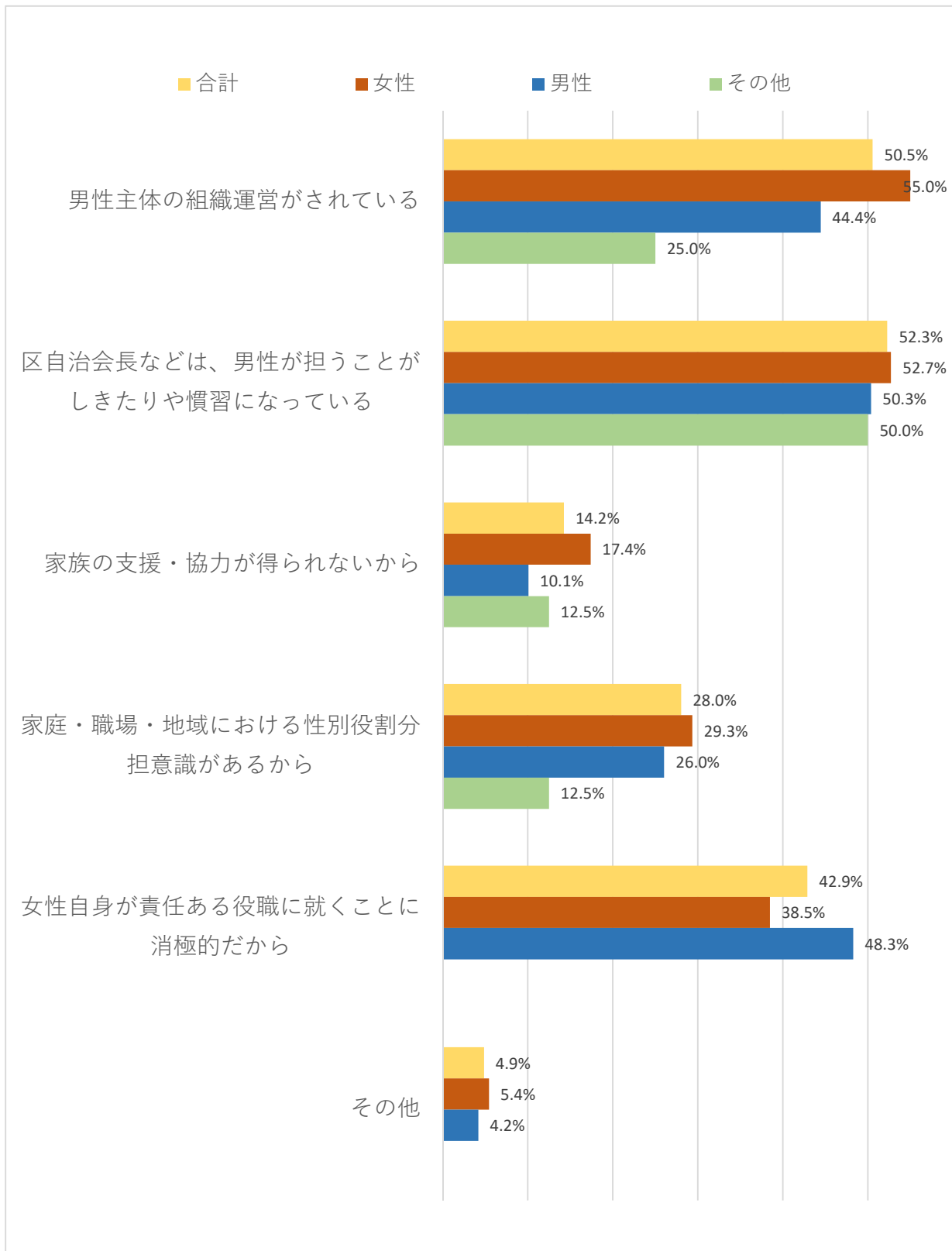
【 男性 】

■ 地域や団体の活動に参加する時間がない
 ■ 参加したいと思う活動や団体が身近にない
 ■ 参加するきっかけがない
 ■ 興味がない
 ■ その他



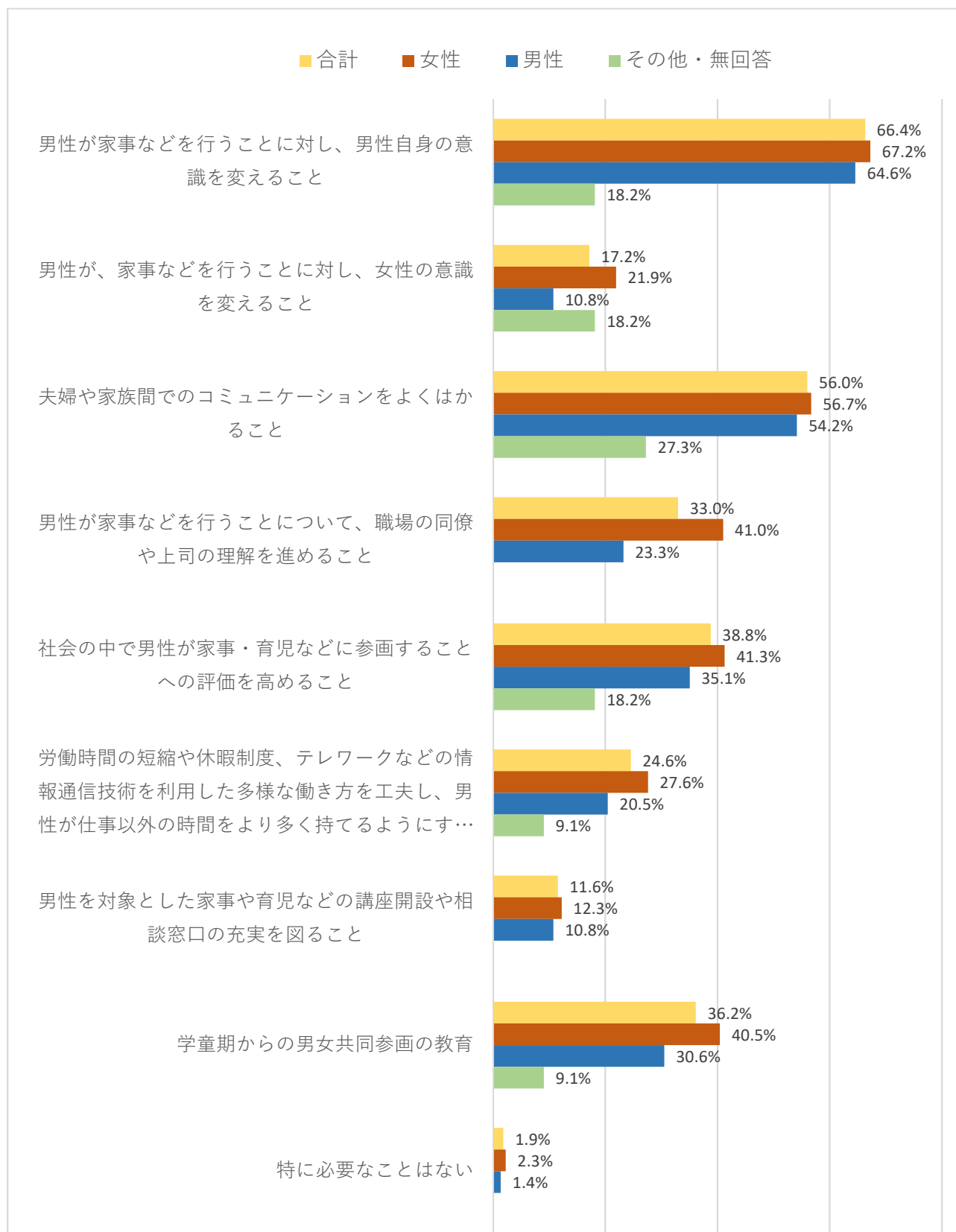
【問13】 計画や方針決定の場に女性の登用が少ない理由はどのようなことだと思いますか
(複数回答)

「男性主体の組織運営がされている」及び「区・自治会長などは、男性が担うことがしきたりや慣習になっているから」の割合が高くなっている。次いで「女性自身が責任ある役職に就く事に消極的だから」の割合が高くなっている。



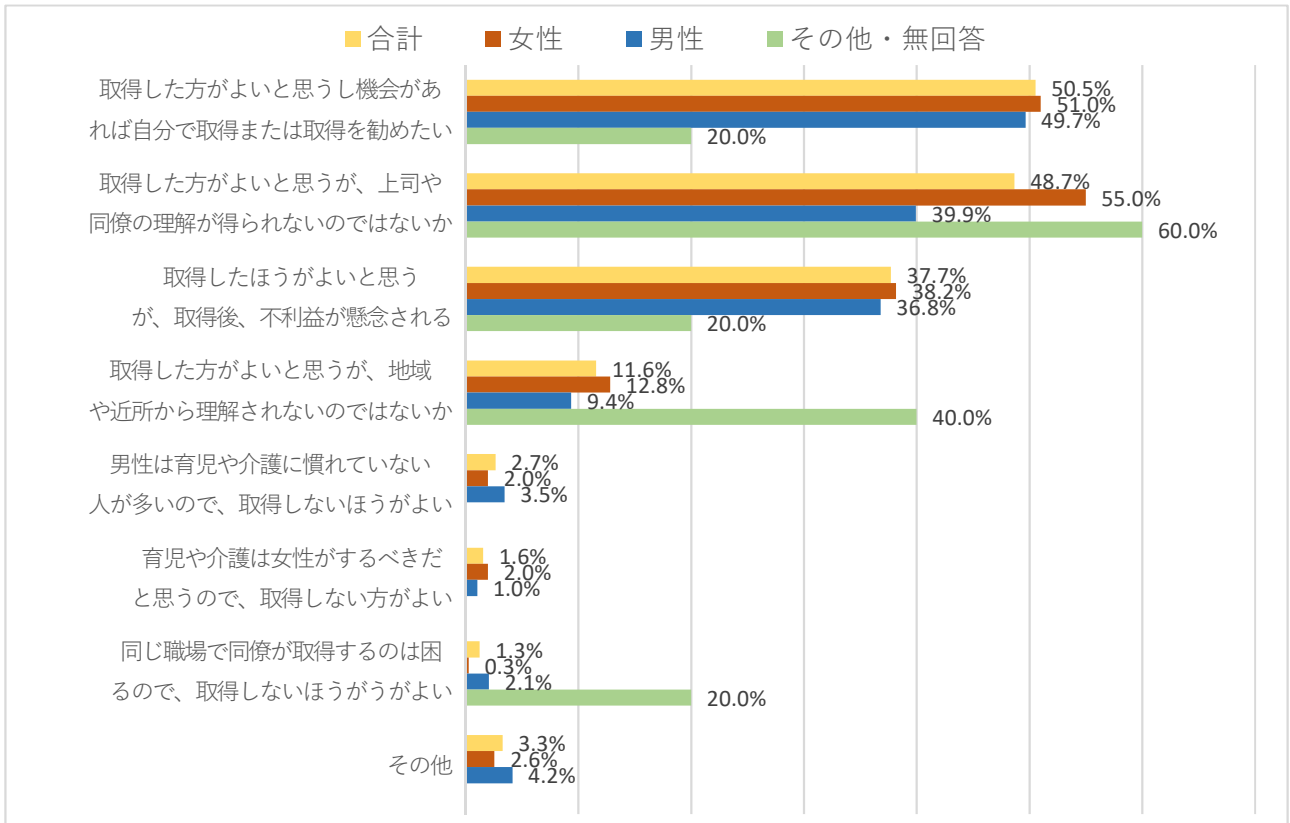
【問14】 女性が分担する機会が多い家事、子育て、介護等に男性が積極的に参画していくためには、どのようなことが重要だと思いますか (複数回答)

「男性が家事・育児などを行うことに対し、男性自身の意識を変えること」が66.4%、「夫婦や家族間でのコミュニケーションをよくはかること」が56%、「社会の中で男性が家事・育児などに参画することへの評価を高めること」が38.8%となっている。



【問15】 男性が育児や介護を行うために休暇を取得することについてどう思いますか
(複数回答)

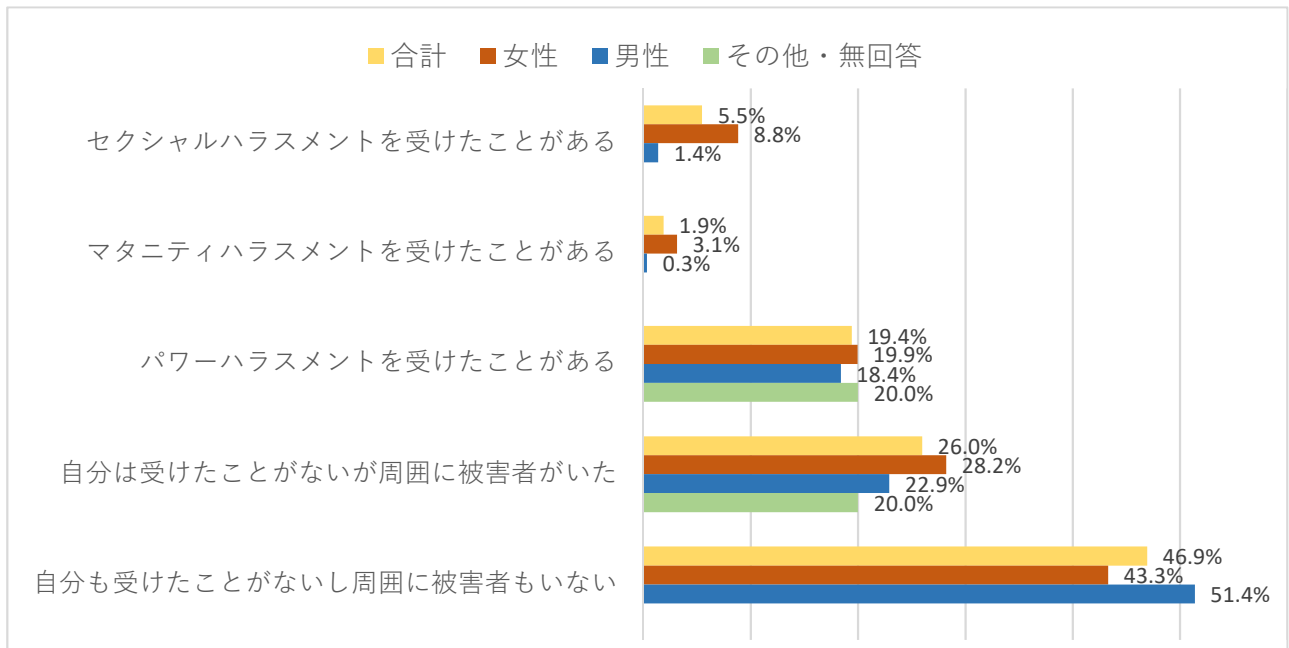
「取得したほうがよいと思うし機会があれば自分で取得または取得を勧めたい」とする割合が最も多くなり50.5%となった。次いで「取得した方がよいと思うが、上司や同僚の理解が得られないのではないか」とする割合が48.7%となった。



【問16】 この2年間、職場・学校・地域でハラスメントを受けた、または周囲の方が被害を受けたという話を聞いたことがありますか
(複数回答)

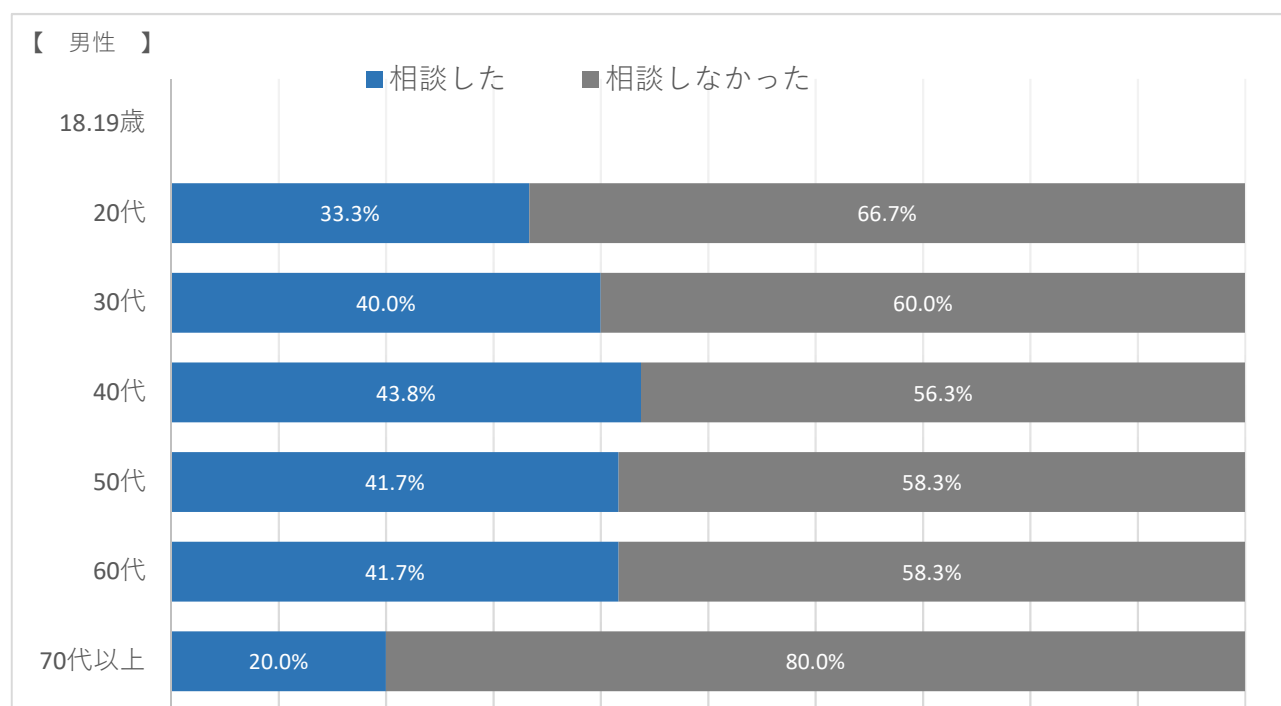
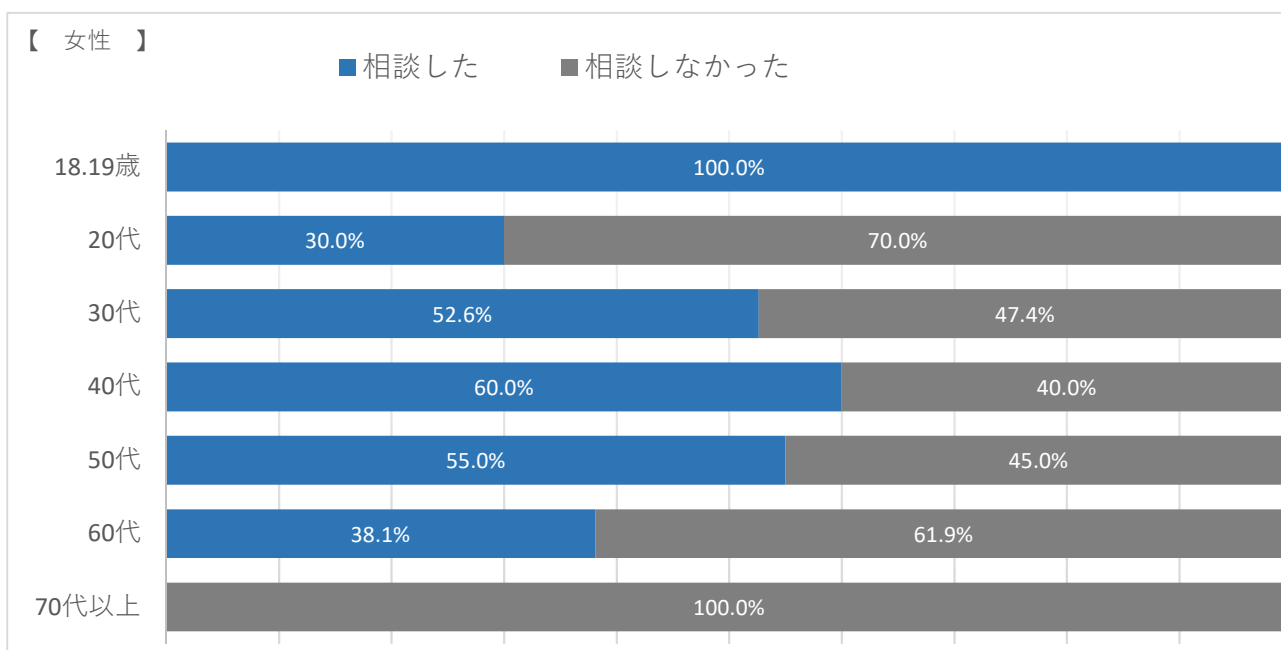
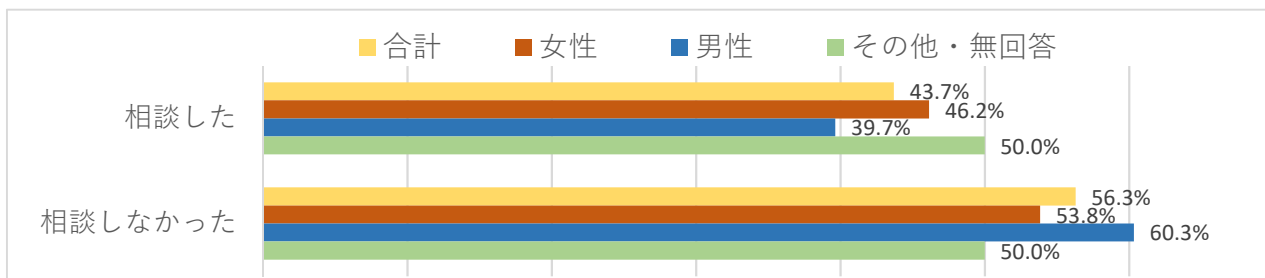
セクシャルハラスメントを受けたことがある5.5%、マタニティハラスメントを受けたことがある1.9%、パワーハラスメントを受けたことがある19.4%となった。

性別では、セクシャルハラスメント、マタニティハラスメントについては女性に多い割合となっていて、パワーハラスメントについては同程度の割合となっている。



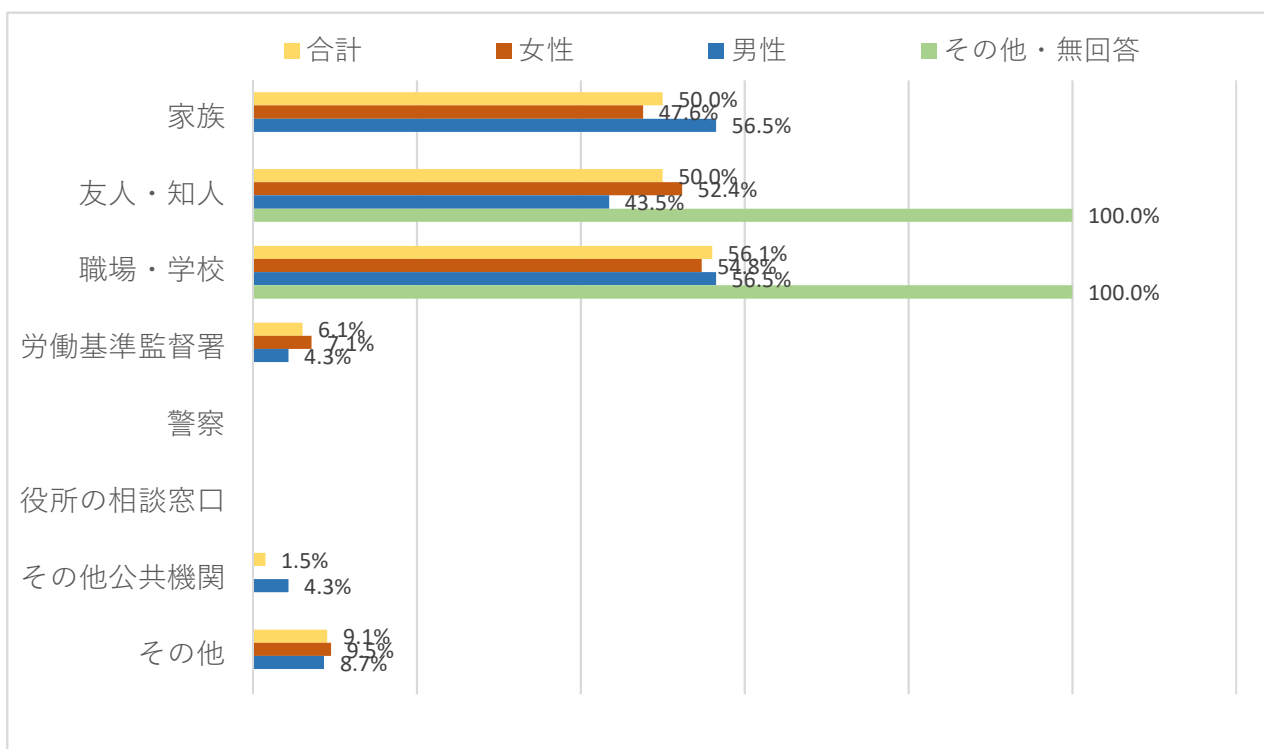
【問17】 誰かに相談しましたか

相談したの割合が43.7%、相談しなかったの割合が56.3%になり、ハラスメントを受けた半数以上の方が相談しなかったと回答している。(n=151)



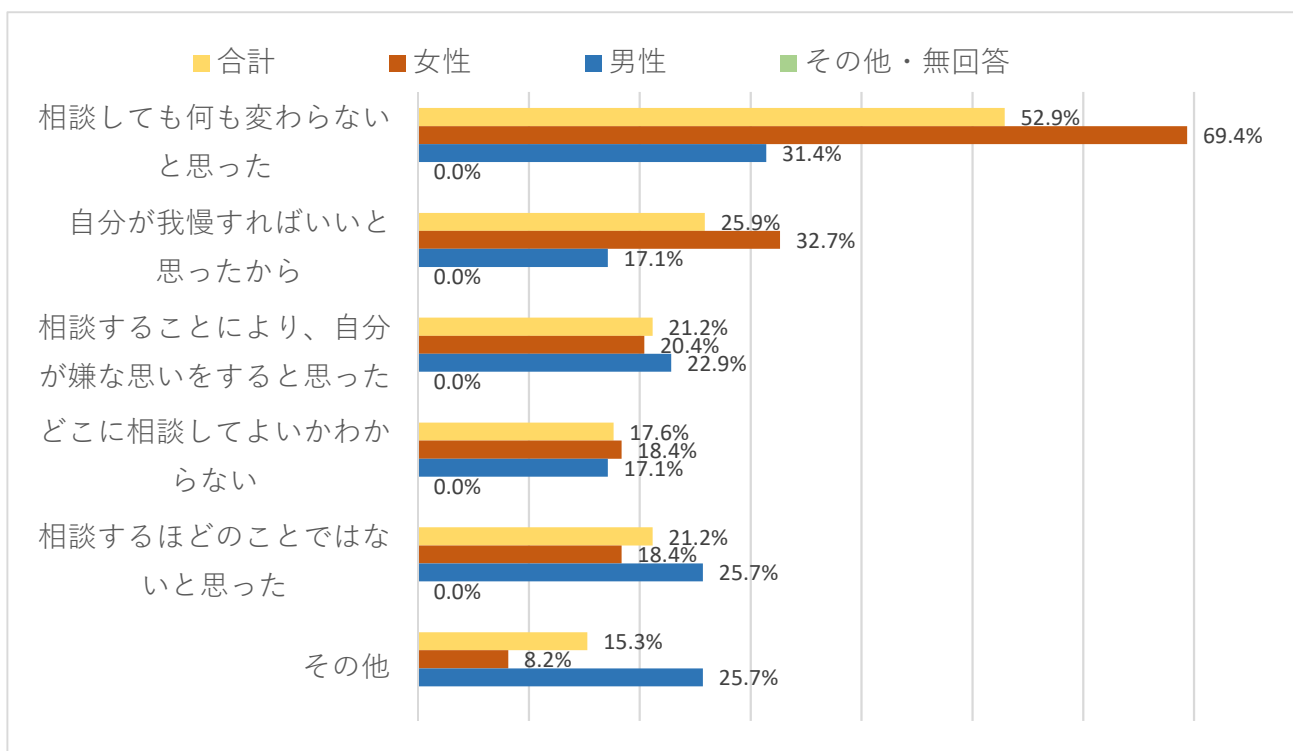
【問17-1】誰に相談しましたか

「職場・学校に相談した」の割合が高くなっている。次いで、「家族」及び「友人・知人」となっている。(複数回答)(n=66)



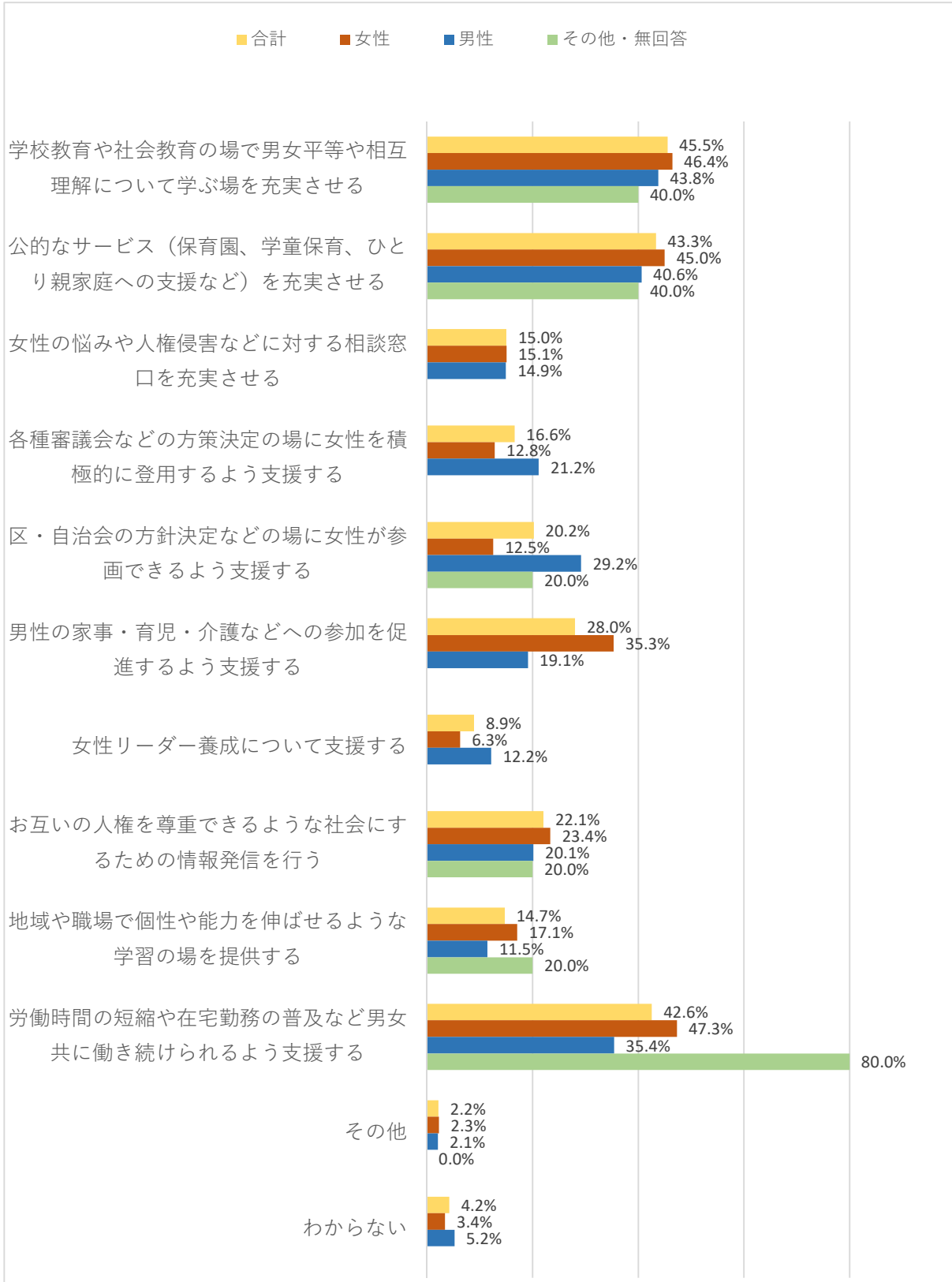
【問17-2】相談しなかった理由は何ですか

「相談しても変わらないと思った」が最も多くなった。次いで「自分が我慢すればいいと思った」や「相談することにより、自分が嫌な思いをすと思った」が高い割合となった。(複数回答)(n=85)



【問18】 男女がお互いの特性と人権を尊重し、それぞれの個性や能力を發揮し、男女平等の理念に基づき、いきいきと生きる社会を実現するために、茅野市は今後どのようなことに力を入れたらよいと思いますか
(3つまで選び回答)

全体でみると、「学校教育や社会教育の場で男女平等や相互理解について学ぶ場を充実させる」が最も多く45.5%となっている。次いで公的なサービスを充実させる」43.3、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など男女共に働き続けられるよう支援する」が42.6%、となっている。



男女平等や男女共同参画について感じていることがありましたらご自由にお書きください。

【女性】

内 容	性別	年代	職業
少しでも介護の世話にならない様に自分の体に気を付けて生活しています。	女性	70歳以上	無職
市の管理職の比率は男女平等に。市の正規職員の比率男女平等。市の職員の意識改革（奉仕の精神）。IT化により事務職員の人員削減。	女性	70歳以上	家事専業
家庭において色々大変な事がありますが、どんな事もプラスエネルギーで生きる。カレンダーに不平不満は自分だけでなく周囲の人まで不愉快にするとあり、その通りだと。日本の社会が男女平等となって頂ければありがたいことです。	女性	70歳以上	無職
私は家族の応援を与えられて楽しく子供を育てながら41年同じ職場で働き管理職も経験し、生き甲斐を感じてきました。大変の事ですが、女性にもそんな機会が多くあれば良いと思います。	女性	70歳以上	家事専業
私は昭和26年生まれです。（70才）この年代はまだまだ”男尊女卑”的意識が色濃く残っている世代で、特に保育士・看護師などは女性の方が向いていると思っています。	女性	70歳以上	自営業（商工・サービス業・自由業）
「女」というだけで「あーダメダメ」「女になにができる」と言うことが多い。今だに「役員は男がやるもの」世代交代で変わってきているが、まだまだです。	女性	70歳以上	その他
男女平等からは遠い世界で育って来たので、頭の切り替えが難しいですが、常に平等であるべきだと思いながら生活をしていきたいと思っています。また、リーダーになる人は、平等や相互理解について学び身につけて実行して欲しいと強く思います。	女性	70歳以上	家事専業
社会的、制度的に整える事も大切ですが、個人がそれぞれの立場で相手の事を大切に思っ生活することが一番だとおもいます。（家庭でも職場でも）	女性	70歳以上	家事専業
”男女平等””男女共同参画”を声高に言わなければならない。まだ、そんな状況なんだなと思っています。LGBT・LGBTQを考えるともう一歩進めて人間としての尊厳を尊重することが、全てに優先する社会になってほしい。	女性	70歳以上	無職
世界から見ても日本は遅れていると言われており、なかなか男女平等とは名ばかりで現実はまだまだ男社会かなと思います。やはり小さい頃からの教育、回りの言動等によりつくられてしまうことも多いと思います。育児・家事のできる若者も増えてきている。働く時間が調整され、父親も時間ができたら又変わっていくかもしれないと思います。	女性	70歳以上	家事専業
男性には男性しかない、女性には女性にしかない、どちらかが、なろうとしてもなれない、どうにもならない、それぞれの素晴らしい特性が元々、備わっていると思うので（母性とか）その特性をそれぞれが、認め合い任せるところは、任せ、補い合っていく事が大切だと思っています。女性が家庭にあって働く男性を支える事、子どもの個性を引き出し育てる事、親の介護を引き受ける事、女性の特色を活かせる社会的に素晴らしい事だと思っています。その特性を手放す事なくむしろ積極的に活かしていく。そういう事が、男女共同参画だと思っています。	女性	60代	無職
安定した社会の発展には、家庭教育が重要であり、和のある家庭つくることが大切と考えます。夫婦で協力し合い、子育てや介護、また男女の特色をいかしながら、互いに助け合っ生活設計を立てていくことが望ましいと考えます。	女性	60代	雇用（常勤・フルタイム）
地域の寄合いは完ペきに男性のみですが、女性側もあまり出たくなって男性にまかせてしまうのが本音です。個人的には、年未年始のおもてなしで主婦のみに負担がかかるのはしんどく、今年から男性の家庭も手伝ってくれました。30代の都会に住むお嫁さんは、男女共同参画が身につけていて、育児・家事手伝いもすべて半々。この世代は教育的に意識が全く違うことを学びます。息子も育休をとっていました。	女性	60代	家事専業
役職に付いている人間の心の程度の低くさと職場は自分の物と思っている人が余りにも多い事、頭が良いのと役職に付ける人間性はまったく別の事だと思います。今の40代～50代は人間が腐っている人が多すぎると思います。	女性	60代	雇用（パート・アルバイト）
性教育やいじめ問題などと同じように小学校の頃からみんなで話し合ったり考える機会を多く持ち、子どもの頃から意識改革をしていくことが、人格づくり、住みよい社会づくりの一番の近道ではないかと思っています。	女性	60代	自営業（商工・サービス業・自由業）
最近の若者は、共働きが多いせいか家事育・育児に積極的に参加していて良い傾向と思う。	女性	60代	家事専業
男女共住み良い世の中になって欲しいです	女性	60代	雇用（パート・アルバイト）

内 容	性別	年代	職業
職場や家庭において、女性役割男性役割などの男性側の意識を変えて権力で押さえつけないでほしい。	女性	60代	家事専業
家庭で男性の性格によるものと思われるが、男性の身勝手により母子家庭となり、貧困状態になり、苦しい生活状況に陥ることが多い。男女平等とは言えない。支援の拡充が必要だと思う。又夫から妻へのDVやハラスメント、古いしきたりや男性の意識の低さから今なおつらい生活や精神状態にある女性（妻）がいる。家庭や子供を守るため人権無視の生活を強いられても我慢せざるを得ない。男女平等とは言えない。	女性	60代	無職
茅野市には仲間意識が強く感じられ、転入してきた人にとって、とても疎外感を感じます。男女共同参画よりも地域、親族関係等を特に重視する意識が強いと思う。	女性	60代	自営業（商工・サービス業・自由業）
オミクロン株流行で保育園や学校が休みになった時に、母（女性）だけでなく父（男性）もなんの気がねもなく会社を休める社会になることを切に願います。こういう空気が社会全体で未来ある子どもを育てる空気だと思えます。	女性	60代	家事専業
家事の分担を若い世代は、かなり男性もするようになってきていると思う。が、高齢になるとほとんどやらない、できない人が多く、これからやってもらうのは、まず無理そう。	女性	60代	自営業（商工・サービス業・自由業）
自分の働いている職場は女性が多いし、上司に女性が起用されてもいるが、女性だから良いというでもない。その方の性格の問題でもある。女性は感情的になりやすいので扱いにくい点もある。	女性	60代	雇用（パート・アルバイト）
上司が部下に対して平等でない、特定の人をひいきしている。	女性	60代	雇用（パート・アルバイト）
男女でそれぞれ特性があるので、いちがいに全て平等には思いません。まず最初に「人間」である事を優先すべきだと思います。	女性	60代	自営業（農・林・漁業）
家庭内でも子供の幼少期から男女の差を無くし協力する家庭生活を作りあげる必要があると思う。これから子育てをする若い方達は、積極的に家事・育児・介護に参加する姿を子供達に見せてもらいたい。	女性	60代	自営業（農・林・漁業）
男女平等に関して、まず、それぞれがそれぞれの場所において努力することは大切。小さな変化も少しずつ大きな変化につながっていくように。男女ともに働きやすく暮らしやすい社会にしていけるために。しかし、個人の努力だけでは全く足りない。政治の力がなければ、日本の男女平等指数は向上していかないだろう。選択的夫婦別姓を認めること。男女同一賃金を徹底させること。議員や管理職、要職に女性を増やすこと。男性に育児休業を取得させること。茅野市においても市役所で、または市議会で女性の活躍する姿がたくさん見られることを（今も頑張っていると思うんですが）期待します。	女性	60代	無職
年代によって家庭での男女の役割分担や子育てへの関わり方など違いはあると感じる。年配者は昔ながらの女性は家庭を守り、子育てすることがあたりまえのように思っているし、それ以外のことを受け入れようとしない。でも若者は柔軟に考えていると感じている。	女性	60代	雇用（パート・アルバイト）
育児休暇や介護休暇が制度としてあってもなかなか身近に取得できない。会社、仕事を休むということがマイナスのイメージになっていると思う。そうではなく、育児や介護での体験が人生の中で大事な事で、それが企業にとってもプラスになることを発信し、積極的に取り組む姿勢が大切で、育休100%以上の企業では、女性も仕事は続けられるし、その間他の人は少し負担になっても温かく見守っている所もある。そういう会社は成長していくと感じます。みんなの協力が1番です。	女性	60代	雇用（パート・アルバイト）
多くの女性が非正規でキャリアを積むのが難しいと思う。収入の差や昇格などを考えると行きづまった時に職をゆずるのは女性が多いと思うので、自然とそうなる場合もある。年をとってから新しい職につくのはとても大変な事なので、長く働ける職場が増えてほしい。	女性	60代	家事専業
区やPTAへの参加などは根本的に考え方が間違っていると思う。本来は任意なのだからそのことをきちんと伝え、家庭ではなく個人がやりたいかやりたくないかを決めればいい。今は強制参加のようにやらなければいけないと押し付けているだけなので、「やりたい人がやれる」という考え方に見直さないといけないと思う	女性	50代	雇用（パート・アルバイト）
私は、環境に恵まれていて周囲、職場の協力があって子育てしながらも仕事を続けられ、収入や生きがいにおいても安定して生活を送る事が出来ました。女性が自立するために、社会とのつながりを継続できるよう、子育て時期の支援がとても重要だと考えます。	女性	50代	雇用（常勤・フルタイム）
一部の声のなかでかい人たちがわがまま言っているだけみたいだと思います。昭和の頃ののどかな感じに戻ればいいのに。	女性	50代	雇用（パート・アルバイト）
自分自身も気づいていないジェンダーバイアスがある。男の子が欲しかったと義母に言われた経験もあります。まだ根強く残るバイアスも感じます。	女性	50代	雇用（常勤・フルタイム）
公民館の行事など男性は女性に料理を作ってもらい座って待っている。おしゃくをされて当然と思っているような高齢男性が多数いる。うんざりする。	女性	50代	雇用（常勤・フルタイム）

内 容	性別	年代	職業
都会より地方の方が男性優位の考え方が多いと思う。制度よりも意識を変えることが大切である。	女性	50代	自営業（農・林・漁業）
区会議員の時に選挙の立合い人を勧められましたが、朝8時から夜の8時まで一人留守にすることは出来ずお断りしました。国の方から変わってほしいと思います。身近ではお互い様、思いやりの気持ち等持って頂きたいです。	女性	50代	雇用（パート・アルバイト）
時代の変化と共に今までの固定概念や既成概念を当たり前と考えず1人1人がより多くの情報を得て意識改革すること。また、そのためにも夫婦間や職場、コミュニティでのコミュニケーションをしっかりとることが大切だと考えます。	女性	50代	自営業（商工・サービス業・自由業）
給料は男性の方が高く、短時間で役職に付く、いくら女性が頑張ってもなかなか理解されない。	女性	50代	雇用（常勤・フルタイム）
昔より男女平等な感じが多くなってきていると思う。若いお父さんが最近子どもを抱っこひもとかでつれてくる姿を見ると進化しているのかなあ？と思いますが、まだ会社や社会で男性の子育てに対する理解は外国とかに比べるとまだまだではないかと思えます。これからもっと考えていかなければと思います。	女性	50代	雇用（パート・アルバイト）
そもそも男女平等とは何か。同じ地位を得られれば、それで平等と言えるのか。人が男と女である意味は何なのか。私は母親として子どもを全力で育ててきたことに何の疑問を思っていない。しかし価値観はそれぞれちがうし、大事に思うこともちがうだろう。そうすると自分の置かれている立場の中で関係する人たちと最善を考えていくことが一番だと思う。そういうことが話せる社会であることを望む。	女性	50代	雇用（常勤・フルタイム）
女性が社会に出て自立をするには育児・介護の問題があると思います。特に介護について、親を介護する時、自分の年代が40代～50代だと一番働きざかりでもあり、責任ある仕事をまかされるころになります。その時に介護で仕事をやめなくてはならない。となると結局会社は、女性を管理職に付かせなくなる。もっと介護関係のサービスを充実させてほしいです。	女性	50代	雇用（常勤・フルタイム）
男女共に笑顔あふれる日常のために、どんな方でも平等でありたいと願っています。	女性	50代	雇用（常勤・フルタイム）
全てを平等にする必要はないと思うが、できない時にはサポートできるようにお互いの仕事について日頃から関心を持ち、いざという時にはできるようにしておくこと、コミュニケーションが大切だと思う。	女性	50代	雇用（常勤・フルタイム）
男性は職場での立場や家を支えるという意識。そしてこの地域の環境の中では、とても今の女性達と同じ行動はとれないのが現実。見直せば朝から晩まで女性は全てにとらわれている。それも『〇〇の為』と自分に言い聞かせ、あたり前として毎日をこなしている。女性にもそれぞれだが、私は仕事ももっとしたいし、大好きなこの町のためにももっと活躍したいが、その機会は今の自分にはとても『できない』というのが本音です。	女性	50代	雇用（パート・アルバイト）
男性が、妊娠、出産、育児の大変さの理解が薄いと感じる。	女性	40代	無職
女性1人でも子供を育てて行けるような金銭面（雇用保険なども）の待遇と子供の事で気にせず休みがとれるような理解がしてもらえると嬉しい職場が増えると嬉しいです。	女性	40代	雇用（常勤・フルタイム）
男女平等のことはないが、一人親家庭でも、収入の少ない家庭は補助金がもらえるが、収入が基準より高い家庭は補助金がもらえない。収入が少ない家庭でも、養育費で暮らしている家庭もあるなかで、同じ一人親家庭のなかでも差別を感じている	女性	40代	雇用（常勤・フルタイム）
PTA活動や地区活動も、時代に合わせて変わるべきなのに、伝統と言って譲らな古株多くて厳しい。女性ばかりの職場でも正規非正規での差別がある。自分の家庭ではないが、夫婦は精神的上では対等であるべき。「主人」と配偶者と呼んでのるをきくと嫌な気持ちになる。時代がこんなにも大きく変わっても、古くからの男として女としての姿の固定したイメージが崩れない以上、かなり難しい。	女性	40代	雇用（パート・アルバイト）
男性優位を感じるが、男性は責任のある重い仕事も沢山やってくれている。男性ばかりを責められない、女性も意識を変えなければならぬと感じている。	女性	40代	家事専業
共働きで主人も家事や育児に協力的で職場も女性の職場なので男女の平等をあまり考えた事が無かった。	女性	40代	雇用（常勤・フルタイム）
長野県茅野市に越して来たの2016年に、6年に1度開催の御柱祭があったから、住んでいた地区のみなさんと毎晩のように準備をしていて仲良くなった。子どもたちとも仲良くなって当時子のいない私はとても癒されたんだけど、高校生の女の子たちと話していて驚いた。就職が決まったという。よくよく聞くと、兄や弟は大学に進学する、女の子は高校卒業したら地元企業で働くか短大へ行くのが普通という。ここには地域格差、男女格差、収入格差、学業成績格差、全てが含まれている。まずは図書館の整備充実をしたらどうだろうか。	女性	40代	自営業（商工・サービス業・自由業）
そもそも「男女」共同参画という言葉自体がどうかなと思います。「男女」という2つの区分で分けられることに抵抗を感じます。	女性	40代	自営業（商工・サービス業・自由業）

内 容	性別	年代	職業
今の世代での意識改革には、限界があるかも。次世代の教育に力を入れ、環境から変える、考え方の根本からの改革なしに実現遠いか。うまく行っている国のやり方に行政単位でチャレンジするのも良いかと思います。	女性	40代	雇用 (常勤・フルタイム)
私たち世代は、男性は外に出て、女性は内の仕事という考え方が残っているが、子ども世代は、ジェンダーレスや男女の職業の区別などには、とても柔軟な考え方をしている。身体の違いによる、得意、不得意など理解をし、自分や他者の可能性を狭めない社会になって欲しい。	女性	40代	雇用 (常勤・フルタイム)
現在育休中です。男女平等であって欲しいと思う反面、私自身、家事・育児・仕事の両立は本当に大変ですが、一人で任っている状況です。夫は自営だし、区などの役を受けていたり休日もままならず、協力が難しいところもあります。サービスの充実、コミュニケーションの充実で男女の意識改革だけでは難しいところもあると思います。	女性	40代	雇用 (常勤・フルタイム)
男性、女性問わず、家の中で育児に参加していない親が子どもと仲良く出来ないときに、もう片方の親が子どもに当たる場合があるので、両親の育児参加は必要だと思う。	女性	40代	無職
男女にこだわらず、できる人、やりたい人がやる家族、社会であってほしいと思う。	女性	40代	雇用 (パート・アルバイト)
職場でトイレ掃除を女性だけにやらせている。改善をする気もないような雰囲気がある。	女性	40代	雇用 (パート・アルバイト)
特に高齢の方は、頑固な方が多くやりづらい。	女性	40代	雇用 (パート・アルバイト)
わが家に男女平等はない。常に夫>妻だ。妻は夫の言うことを聞く道具。家事・育児・雑用は全て女がやればいいと思っている。そういうことは自分がやるものだと思っていない。現在47才だが、昭和のおやじに育てられた息子。こういう人がいる限り、男女平等にはならないと思う。	女性	40代	自営業(商工・サービス業・自由業)
田舎ならではの「今までこうだったから」という変化への抵抗がある方が多い。とてもやりづらいです。子育てしながら自治会役員をおしつけられ、「学校の役員とかがってても地区は地区だから」と日中家にいる60歳以降の方に言われます。仕事・役員・子育て全く余裕がありません。嫌になります。	女性	40代	雇用 (常勤・フルタイム)
女性も男性の特性と同じとみなしてあつかうのではなく、女性には女性の特性(月経のリズムによる体調の変化)によって常に変化があり、男性のように体調も体力も気分もメンタルも一貫していないことをしっかりと理解した上で、決まりやすくみを考えてほしい。(全ての場において)女性が薬用いてまで無理してすごさねばならないことが残念です。	女性	40代	その他
男女平等とは違いますが、日ごろ思っていることがあります。茅野市で子育てのことにもっと力を入れてほしいです。まず、茅野市内で出産ができるようにしてほしい!!今は諏訪に行かないと子供が産めません。安心して出産から子育てまでできる環境を整えて下さい。女性だけでなく皆んな喜ぶと思います。大至急やってほしい!! とりあえず中央病院にお医者さんと呼ばばいいことだと思います。!!!	女性	40代	雇用 (常勤・フルタイム)
職場のお給料が、男性というだけで無能なのにもらっていて不公平を感じている。生活があるからだろうが、能力に合わない算定をするから より努力を怠っていると思う。変えたいなら茅野市も女性市長にしてはいいのでは?	女性	40代	雇用 (常勤・フルタイム)
地域の昔からの考えを強調するあまり、世代間でのギャップがあきらかに出ていると思う。古い世代ではまだまだ男性主体の考え方で行事が行われている。新しい考え方で変えていくには新しい世代を受け入れる古い世代が必要。	女性	40代	雇用 (常勤・フルタイム)
古くからある固定観念を無くすことは難しいが、行政の努力のおかげで変わって来てはいると思います。ただ、学校での道徳や情操教育の時間が減ってきているのが気になります。	女性	30代	雇用 (パート・アルバイト)
男女平等といいながらも、田舎では古くからのしきたり、習慣から抜け出せていない部分があると思う。そして、それを当然だと思う高齢者、仕方ないと諦めてしまう若者がいるのが現実。高齢者に、長年持っていた考えを変えろというのは難しいと思うので、会社・学校といった若者がいる場所の制度や教育が変わっていくことに期待したい。	女性	30代	雇用 (常勤・フルタイム)
高齢化が進む中、今後の自治会の在り方や必要性を見直す時期がきていますが、どうも昔からのしきたりに拘った見方や、理解が得られない事が多く、何も変わらないのが現状です。必要のない、負担になるものは思いきって切り捨てるという事も大事だと思います。それに向けて市が何か働きかけてくれたら良いと感じます。	女性	30代	雇用 (常勤・フルタイム)
子どもが塾を出して迎えに行くのは女性があたり前という雰囲気がある。一方で職場では「何故お前ばかり休むのだ」という空気がある。(実際に言われた)「どうしてこちら(女性の職場)ばかりが我慢しなくてはいけないのだ」とも言われた。休むに休みにくい雰囲気がある。	女性	30代	その他
男女平等は望ましいですが、女性の方が力が無いので出払い等では申し訳無いと思う。	女性	30代	無職

内 容	性別	年代	職業
逆の事になってしまいますが、「育休」「子供の世話」を理由として正社員だが、9:00~14:00の勤務で、仕事を自分の好きなように選んで仕事をしている女性の先輩がいる。「子育てをしているから仕方ないでしょ」という働き方に男女平等を感じない。むしろ社会の風潮を逆手に取った考え方。女性の働きやすさを重視するだけでは何も得られないのでは？	女性	30代	雇用 (常勤・フルタイム)
男性と同じ時間働いている女性も家で家事、育児をあたりまえのようにやらなければならないことが不平等だと感じる。平等に家事をできれば良いが、残業もあたりまえにあり、働く時間が長く参加が難しいことがある。	女性	30代	雇用 (パート・アルバイト)
男性の育児休暇の取得が増えているとはいえ、まだまだ会社自体で取得できない所が多いのが現状だと思います。女性は出産後すぐに育児が始まり、身も心もボロボロになりながら子育てしています。男性が育休をする事は休んでいる訳ではなく子育てや奥さんの体を気遣っていると捉えてもっと取得向上してほしいです。	女性	30代	雇用 (常勤・フルタイム)
男性が多い職場にいますが、自身が妊娠中、妊婦はいいよなど傷付く事を言われたり、重い物を持っていても、走っていても何も言わなかったり、という事があった。その時、誰にも相談せず育休に入ったが、まだ社会的に子育てやハラスメントに理解度が低いと感じています。	女性	30代	その他
女性の会社や自治会でのリーダー、幹部が少ないのは差別や能力ではなく、家庭での役割(育児・食事・掃除等)会社・自治会以外でのやる事が多すぎるため。むしろ、そこを配慮してくれての結果だと思う。だから無理に女性の進出をすすめることもないとは思いますが支援をするのなら子供の預け先(学童・休日の預け先)を作ることが一番の支援だと思う。茅野付近に子供を預けられる施設が少ない。(自分も諏訪にあった「ももいるのきりん」さんがなくなり、祝日の仕事の時に預け先がなく困ったことがあった)	女性	30代	その他
今まで県外在住で特に「男だから女だから」と家族でも職場でも感じた事は無かった。地区の活動をする様になってから感じるようになった。"男女平等"よりも自治会活動も昇進も"やりたい人がやる"で良いと思います。地域内のパワハラがこんなに多いとは思いませんでした。また、地区によるとは思いますが、「婦人部」「青年部」という名称も男女共同参画に沿わないと感じます。私達から言っても聞き入れてもらえませんでしたので、残念に思いました。聞いていただきありがとうございました。	女性	30代	雇用 (常勤・フルタイム)
職場⇒女性の方が事務作業・雑用を押しつけられる事が多いので、男女関係なく能力の差で仕事内容を決めるべきだと感じる。 家庭⇒働きながら子育てする女性に対し、残業ありのフルタイムで仕事ができる男性がどれだけ大変か理解する意識が必要だと感じる。(性格的な部分もあるかと思いますが・・・)	女性	30代	雇用 (常勤・フルタイム)
職場は上司(役職者)が全て男性で(勤務年数の関係など)「時短で働く女性は主任にならない方が良い」とスタッフがいる所で発言する人がいる。しかし、そういう人が年数を重ねて昇格することがあり、不満に思う。	女性	30代	雇用 (常勤・フルタイム)
御柱や消防団、農家の集まりには、男の人が出るのが、あたりまえになっている。それぞれのリーダーには、それにより女性に家事・育児など負担が増えること理解してほしい。 年の途中での保育園探しが困難、保育士の待遇改善し、保育サービス充実し、女性も復職しやすい環境作りをしてほしい。	女性	30代	無職
男性が強くとってくると仕事では言い返せません。いざという時に、力(態度etc)でねじ伏せられてしまいます。現実には男の方が強いので、力的に。男女どちらでもいいです。人として平等に。	女性	30代	雇用 (常勤・フルタイム)
男性でも女性でも家庭に入ること、仕事をするを本人の意志で選択し、誰にも強制されることがない社会が実現すると思う。	女性	30代	雇用 (常勤・フルタイム)
支援ではなく実際に男女半数にするなどの実践がなければ、このような計画が実を結ぶことはないように感じます。女性がひとりで生きていく中で出産・育児が負担なく又はなんとか乗り切れるように未婚・既婚関係なく、女性の生活や経済活動への支援が必要と考えます。	女性	30代	自営業(農・林・漁業)
肉体的な能力の差は確実にある。そのため精神的な意識の差をうめることはむずかしい。だが、だからといって女性が能力が低いと思われ続けていいわけではないと思う。	女性	30代	雇用 (常勤・フルタイム)
若い世代と年配の方の考え方の違いは育った環境の違いだから、うめていくのはかなりむずかしいと思いますが、1人1人が自分の行動に責任をもてるようにしたらいいのに、と常々思っています。(男尊女卑のほとんどは年配の方が多い気がします)	女性	30代	家事専業
昔に比べ、女性に対する差別が少なくなってきたと感じ、男女平等に近づいていて良いと思います。しかし男性側は、稼ぐだけではダメだという雰囲気にもなってきたので、家事・育児の関心を持つような情報発信や支援をしてくれたらと思っています。それと男女の立場が逆転してしまうのではないかと不安もあります。	女性	20代	雇用 (常勤・フルタイム)
男女平等の言葉が行き過ぎて女尊男卑になってしまうことも問題だと考えます。性別にとらわれないことが一番ですが、もちろん力仕事は男性が向いているだろうし、保育現場は女性が向いているのかもしれない。それはそれでいいと思います。要は適材適所、これに尽きると思います。	女性	20代	雇用 (常勤・フルタイム)

内 容	性別	年代	職業
男性は働いて女性は家事や育児をするというジェンダーロールの考え方を直さなければ女性が自分らしく働きたいように働けないし、男性が家のことをすることが増えないと感じています。小さい頃から男女平等について学び、考える必要があると思います。また、女性の上の立場の人を増やすには、クオータ制も考慮に入れるべきだと思う。	女性	20代	学生
出産は女性しかできないことや母性本能があることから、育児は女性に向いていると考えられますが、核家族化やコロナが重なって、一人での育児が寂しく心細く感じるときがあります。会社や家族、様々な場面でバランス良く男女共同参画が進まなければ、一人ひとりの意識が変わることは難しいのかなと思います。家事・育児・仕事が平等になってほしいです。男性にも家事・育児の余裕と時間ができればと思います。	女性	20代	無職
「男性」「女性」という名前の人間は存在しません。そこにあるのは生物学上の分類、差異だけです。このアンケートの内容も然りですが、「性別」に囚われすぎていると感じました。男性だから、女性だからという理由で踏み台を与え高さを揃えるのではなく個人として一人一人を尊重し合い、同じ景色を見るための様々な方法（それは踏み台だったり、はしごだったり、ドローンだったり）を模索できる社会であればと思います。	女性	20代	無職
幼児教育の場や学校教育の中で必要以上に、女・男らしさ等を教員からおしつけられていると思う。幼い頃からLGBTQ等の理解を深めるような環境をつくらないと、男女平等、共同参画にも繋がりにくいと考えます。茅野市の男女共同参画の取り組みの多くが企業向けである学生などにも対象を向けて行うことも考えるべきだと思う。	女性	20代	学生
育児休暇や介護休暇などについては、いまだに女性がすべきものだという男性の認識が強く、共働きが多くなっている今の時代でも、仕事も家庭も女性という風潮があるように感じる。職場などでも男性の育児休暇取得がすすめられはするが、職場内での理解が得られずらいことや復帰後に仕事をしづらくなることから取得につなげていないと思う。	女性	20代	雇用 (常勤・フルタイム)
勉強する共同利用のスペースが少ないと感じました。	女性	18・19歳	学生
私は高校での授業の中で、男女共同参画などについて学んだため、男女共同参画・LGBTとはどのような事か、すぐに理解できたけれど、茅野市はつつ事業所などは、初めて聞いたので、まだまだ理解が足りていないのだと感じました。	女性	18・19歳	学生

男女平等や男女共同参画について感じていることがありましたらご自由にお書きください。

【男性】

内 容	性別	年代	職業
地区などで昔の方の考えがまだ通用しがちで時代が変わって行くのでその時代にそった考え方も取り入れたりして老若住み良い社会にして行けたらと思います。	男性	70歳以上	無職
区・自治会において男性が役員になることに消極的であるので女性が比較的役員になる傾向があり、良いと思っている。	男性	70歳以上	その他
日本は男性に仕事の中核になるような体制ができています。男女平等をとさえただけでなく、どうしたらその体制を崩して男女平等の体制に移ることを考えなくてはならないと思います。	男性	70歳以上	無職
自治会等において女性の発言が少なく、昔ながらの家柄の人が一方的に発言、ほとんど他の人も同意する事が多いと感じます。	男性	70歳以上	その他
地区では女性の役員が多くなってきました。	男性	70歳以上	自営業（商工・サービス業・自由業）
男女平等でなければいけないとは思いません。男女それぞれの違いを理解し分担すべき。平等にこだわらず、役割分担をその場その場の能力、状況に応じて行うべきだと思います。	男性	70歳以上	その他
日本は諸外国に比較して国会・地方議員の女性の人数が極めて少ない為、男女共同参画に向けた法律や諸政策が進歩しないのではないのでしょうか。	男性	70歳以上	雇用（パート・アルバイト）
男女共同参画には、基本的に賛成であり必要な事だと思う。ただ”その事”の内容は女性の向き不向き、男性の向き不向きがある事も事実であると思う。よって全ての事象に対して平等に参加すべきという事はありえないと思う。	男性	70歳以上	その他
息子夫婦もそうであるが、今はお互いに協力し合い地域貢献、社会貢献をしているように見える。今までは違和感があったが徐々にそのような社会に近づいている様に思われます。	男性	70歳以上	無職
地域にあって、進んでいると思われる事業場等を知りたい。	男性	70歳以上	自営業（商工・サービス業・自由業）
区の役員について、ボランティアなどには、女性に活動して頂いているが、区行政については、一人として女性はいない。女性は区の役員になりたがらないのか、出にくい環境にあると思う。	男性	70歳以上	自営業（商工・サービス業・自由業）
男女同一労働同一賃金を実現してもらいたい	男性	70歳以上	無職
女性自身の意識改革が必要。男にまかせる、男の仕事の考えが強い。人口も男女約半々、組織によっては女性の方が多い場合がいくつかある。女性の積極性がほしい。	男性	70歳以上	自営業（農・林・漁業）
夫婦間のコミュニケーション。男女の違いを教育現場で再教育。女性はなぜ女性に投票しない。市が女性を積極的に登用するよう指導する。市が積極的に結婚を進める機会をつくること。	男性	70歳以上	自営業（農・林・漁業）
学校や役所等の一部では遅れているものの、社会全体としてはだいぶ浸透してきているのではないかと。一番遅れているのは政治の世界では。	男性	60代	雇用（パート・アルバイト）
差別と区別を間違わない様な教育が必要だと思います。	男性	60代	自営業（商工・サービス業・自由業）
少しずつ改善はされてきていると思います。	男性	60代	雇用（常勤・フルタイム）
意識転換	男性	60代	その他
国、県、市町村、会社などが強力に進める必要がある	男性	60代	雇用（常勤・フルタイム）
茅野市だけの話ではないが、衆院議員の女性比率が9.9%なのが大変気になる。2020年10月現在ではあるが、世界190ヶ国中、日本は167位。政府も政治家や管理職などの指導的地位に占める女性の割合を「2020年までに少なくとも30%程度」と目標設定していたにも関わらず達成されなかったのが疑問である	男性	60代	雇用（常勤・フルタイム）
私の周囲では、男女間の差別を感じる状況が見られないので、わからない。又は意見を出せる状況になく回答を申し訳なく思います。	男性	60代	無職
茅野市は行政面でも女性の進出が少しずつ推進されていると思います。やはり男性がサポートにまわり女性が前面に出るスタイルを少しずつ進めることでも自治会PTAが変わっていくと思います。コロナでいろいろが変わる今がそのチャンスでもある。	男性	60代	雇用（パート・アルバイト）

内 容	性別	年代	職業
自分自身で変わるよう努力をしないと社会は変わらない。他人が言ってもだめ。	男性	60代	雇用 (常勤・フルタイム)
今回の設問に関しても「男女平等になっている」との前提での質問が多すぎる様に思う。設問・回答では、平等共同参画状態が均衡スタートでないと結果の誘導につながるのではと心配する。	男性	60代	無職
リーダーや役職に女性を就かせる事、事実を積み上げる事が大切。評価は後ですれば良い。まずはやらせてみよう。	男性	60代	自営業(商工・サービス業・自由業)
社会全体では、会社での女性幹部が多くなりつつありますが、地域社会では、女性参加が少ない。出たくないと思っている女性がほとんどである。	男性	60代	雇用 (常勤・フルタイム)
つじつまの合わない事ばかりで、相談する気にならないし、上から目線の目がまかり通っている!!	男性	60代	自営業(商工・サービス業・自由業)
性別や性格の違いでできる人できない人がいて当然だと思う。機会は均等に与えられるべきですが、個人ができるできないの違いで平等ではないと言われるものはいかかなものかと感じます。	男性	50代	雇用 (常勤・フルタイム)
男女問わず、働きたい時には働ける環境を整えると同時に、PTA活動や自治会など性別でなく、役職を担える人育成を図ることが大切だと思います。	男性	50代	雇用 (常勤・フルタイム)
女性が消極的で表に出たがらない、面倒なことは男性に押し付けている。男性が主に稼がなければならない場合、家庭内の役割分担が出来てしまうのは仕方がない。	男性	50代	雇用 (常勤・フルタイム)
専業主婦から仕事に就くのは大変。ここを改善できるような制度が整備されると全体的に良くなるのではないかな?	男性	50代	雇用 (常勤・フルタイム)
女性の参画は必要だと思うが、主体性を持った行動の出来る女性が少ないと感じる	男性	50代	雇用 (常勤・フルタイム)
年齢性別関係なく、その人の人柄、スペック人間性が伴っていれば認めるべきですね。多様性の世の中を認め理解しなければならない。	男性	50代	雇用 (常勤・フルタイム)
企業や社会が変わらないのに公的機関だけが後押しすると間にはさまれた個人は、さらに苦勞させられる事が植えると思います。	男性	50代	雇用 (常勤・フルタイム)
「ジェンダー平等」「性的搾取」等を大事のごとく主張する女性達があり、辟易している。そういう女性達に対して文句を言える社会にしたい。行政はマイノリティのみの意見を鵜呑みにするのではなく、もっと大極を見るべきである。	男性	50代	雇用 (常勤・フルタイム)
育ってきた環境により考え方もそれぞれなので、相手の立場に立って考えることが大切だと思います。	男性	50代	自営業(商工・サービス業・自由業)
職場で男女同じ業務をしているのに、男性の方が給与額が高い。	男性	40代	雇用 (常勤・フルタイム)
平等は今のところあり得ない現実を見た方が良い。そもそものDNAが違う。	男性	40代	雇用 (パート・アルバイト)
平等はありえないでしょう。立場が上の人間が下の人間を束ねるための魔法の言葉。	男性	40代	雇用 (常勤・フルタイム)
今回の件には関係ないかもしれないが、「子供がいる」ありきでの質問事項(世の中)はどうかと思う。何かしらの理由で子供が居ない家庭もあるのだから。ついでに、子供なしの家庭も一生懸命生活をしているので様々な面での待遇を考えて欲しい。	男性	40代	雇用 (常勤・フルタイム)
男女平等に関して、平等の定義を柔軟に解釈していきたいと思う。男女に限ることでないがよく言われる人間は全て平等と言う言葉は深く理解する必要がある。私は平等なのはそれぞれの命の価値だけなのだと理解し、人生のベースにしている。男女に分けると脳の構造から見ても得意不得意はおおざっぱだが分けられる。各々の得意分野をそれぞれが自分で理解した上で不得意なもの・得意なものを持ち寄りお互いが補い合い、認め合い尊重しあい協力しあう社会を目指したい。	男性	40代	その他
職務上、産休・育休の取得される職員がいれば、各職場での業務負担が増加し、当直人員にも影響が出たりしている。職種によって様々な負担が出ているのが現状。各職場での人的基盤を強化して、1人2人の育休等の穴埋めの補充が必要。	男性	40代	その他
区長に女性参画が少ない。区長の仕事が多い仕事を少なくした方が良いと思う。・交通災害申込取りまとめ・緑の募金、日赤募金、赤い羽根募金、社協会費など区長が集める必要があるか? 区に女性が参画しやすい環境を市で作って欲しい。	男性	40代	雇用 (常勤・フルタイム)

内 容	性別	年代	職業
段々と男性の意識が協力的に変化してきていると思います。男性の歩み寄りが大切であると思います。	男性	40代	自営業（商工・サービス業・自由業）
女性の管理職がない。評価の事もあがるが、家庭との両立も難ありなのかもしれません。うちは夫婦で雪かきを行うが、近所では「主人しかやらない」という家庭が多い。	男性	40代	雇用（常勤・フルタイム）
男女平等でなければいけないが、働きたくない女性もいるし、リーダーになりたくない人もいる。一番良いのは、自分の理解を得られやすい社会が必要だと思う。	男性	40代	雇用（常勤・フルタイム）
あまりにも男女平等を言いすぎる。勤務先は女性の取締役がいるので、能力さえあれば、性別は関係ないと思う。会社にもよるが、どちらの性別をもちあげるではなく、仕事も家庭もできる方がやればよい。家事は大変、子育ては大変 だから女性は大変ということにはならない。 多くの男性も従事しているのだから。	男性	40代	雇用（常勤・フルタイム）
活躍したいと感じている人が、性別によってその機会を得られないのか？そういう状況が実際にあるのか？男女比率で考えるのは違う気がする。	男性	30代	雇用（常勤・フルタイム）
女性は女性の活躍を快く思わず、足を引っ張る傾向がある。男女の差はあって当然で、向き不向き、適材適所があり、職場の幹部や自治会の役員、議会議員など女性の積極的登用を目標にするのは間違った風潮と思う。習慣的に女性の役割とされてきた家事・育児・介護といった、いわゆるシャドウ・ワークを社会の側がより理解を深め、評価し、支える側と支えられる側の二項立てではなく、支える側の支え手としての立ち位置を評価するところから男女共同参画は進むのではないのでしょうか。就労や社会的立場だけが参画ではないと感じます。	男性	30代	雇用（常勤・フルタイム）
第二子の産後6ヶ月が経っても第一子を保育園で預かって欲しい。妻が2人を自宅で見ると、その後慣らし保育からやり直すことを懸念して第二子を保留している。保育園→自宅→保育園と環境が変わることは子供にとってもよくないと思うし、1-2歳という手のかかる子供を育休中で家にいるという理由で保育が不要と判断されるのは理解できない。妻の負担が大きく心配、育休を取りたいが取れない風潮の会社、では子どもは増えないと思う	男性	30代	雇用（常勤・フルタイム）
職場の男女比や子育てはどちらがするかという事を性別を主体に考えるのではなく、能力や意欲がある人が活躍できる環境を整えるべきだと思います。性別で考えてしまうと、諸々の解決にはならないのかと思います。	男性	30代	自営業（商工・サービス業・自由業）
男女で体格があるので、やはり、出来ることとできないことがある。一人一人の個体として、皆が尊重しあえる世の中になれば良い。	男性	30代	雇用（常勤・フルタイム）
結局本音と建前になりがち	男性	20代	雇用（常勤・フルタイム）